

科目名	心理学概論		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング	KAa001		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

- ・人間発達心理学科の学位授与方針1・2に該当する。
- ・心理専門科目の基礎として、心理学の成り立ち(歴史的展開)を学ぶと同時に、科学としての心理学の考え方と方法を理解する。
- ・人間の「行動」と「心」の関係を科学的手法を用いて探究する態度と視座を身につける。

科目の概要

前半は「脳と心」をテーマに、心理学的現象に関する映像やデモの視聴、簡易的な実験の実施を通して、人間の知覚・認知、発達に関する特徴、及び、その現象が起きるメカニズムについて体験的に学ぶ。

後半は「心と適応」をテーマに、自己分析ワークなどを通して、人間の社会的適応・不適応のメカニズムを学ぶと同時に、コミュニケーションのあり方など心理学と日常生活の関わりを実践的に理解する。

学修目標 (= 到達目標)

- ・心理学の基礎的知識を習得する
- ・人間科学 = 実証科学としての心理学に対する関心・理解を深める
- ・受講者自ら、問題や課題を発見する力、及び、探究する力を養う

内容

講義を基本に、グループワークやディスカッションを適宜取り入れ、思考の交流を図る。

- 01 心理学とは
- 02 脳と心の進化 - 動物にも心はあるか
- 03 脳と心の進化 - ヒトから人へ
- 04 物理世界と知覚 - 見える世界と見えない世界
- 05 物理世界と知覚 - 見える仕組み
- 06 記憶と忘却 - 覚えること・思い出すこと
- 07 記憶と忘却 - 記憶の変容
- 08 発達と認知 - 発達とは
- 09 発達と認知 - 育み合う心
- 10 情報と思考 - 推論とは
- 11 情報と思考 - 原因を考える
- 12 社会的行動 - 他者の行動を考える
- 13 社会的行動 - 自分の行動を考える
- 14 社会的行動 - 適応と不適応

評価

中間テスト（2回程度、総合得点の50％）と期末試験（1回、総合得点の50％）をあわせて、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】各授業の最初に、前回の授業の質疑・感想等を取りあげ、学習に対する理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】事前に指示した課題（調べもの、配布プリントを読むなど）に取り組む（授業ごとに60分程度）

【事後学修】確認テストなどを通して復習（自身の理解に対するふりかえり）を行う（授業ごとに60分程度）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず、授業で使用するパワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので、各自プリントして授業時に必ず持参すること。

【参考図書・推薦図書】必要に応じて、授業のなかで適宜紹介する。

科目名	心理学概論		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング	KAa001		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

- ・人間発達心理学科の学位授与方針1・2に該当する。
- ・心理専門科目の基礎として、心理学の成り立ち(歴史的展開)を学ぶと同時に、科学としての心理学の考え方と方法を理解する。
- ・人間の「行動」と「心」の関係を科学的手法を用いて探究する態度と視座を身につける。

科目の概要

前半は「脳と心」をテーマに、心理学的現象に関する映像やデモの視聴、簡易的な実験の実施を通して、人間の知覚・認知、発達に関する特徴、及び、その現象が起きるメカニズムについて体験的に学ぶ。

後半は「心と適応」をテーマに、自己分析ワークなどを通して、人間の社会的適応・不適応のメカニズムを学ぶと同時に、コミュニケーションのあり方など心理学と日常生活の関わりを実践的に理解する。

学修目標 (= 到達目標)

- ・心理学の基礎的知識を習得する
- ・人間科学 = 実証科学としての心理学に対する関心・理解を深める
- ・受講者自ら、問題や課題を発見する力、及び、探究する力を養う

内容

講義を基本に、グループワークやディスカッションを適宜取り入れ、思考の交流を図る。

- 01 心理学とは
- 02 脳と心の進化 - 動物にも心はあるか
- 03 脳と心の進化 - ヒトから人へ
- 04 物理世界と知覚 - 見える世界と見えない世界
- 05 物理世界と知覚 - 見える仕組み
- 06 記憶と忘却 - 覚えること・思い出すこと
- 07 記憶と忘却 - 記憶の変容
- 08 発達と認知 - 発達とは
- 09 発達と認知 - 育み合う心
- 10 情報と思考 - 推論とは
- 11 情報と思考 - 原因を考える
- 12 社会的行動 - 他者の行動を考える
- 13 社会的行動 - 自分の行動を考える
- 14 社会的行動 - 適応と不適応

評価

中間テスト（2回程度、総合得点の50％）と期末試験（1回、総合得点の50％）をあわせて、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】各授業の最初に、前回の授業の質疑・感想等を取りあげ、学習に対する理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】事前に指示した課題（調べもの、配布プリントを読むなど）に取り組む（授業ごとに60分程度）

【事後学修】確認テストなどを通して復習（自身の理解に対するふりかえり）を行う（授業ごとに60分程度）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず、授業で使用するパワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので、各自プリントして授業時に必ず持参すること。

【参考図書・推薦図書】必要に応じて、授業のなかで適宜紹介する。

科目名	乳幼児期の心理学		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング	KAa203		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科2年次の必修専門科目であり、人間発達心理学科学位授与方針1.2に該当する。生涯発達領域における「発達心理学概論」を基礎とし、「児童期の心理学」「青年期の心理学」と関連する。

科目の概要

乳幼児期は、人生の基礎となる大切な時期であり、さまざまな側面において急速な変化がみられる。また、生物学的な基盤をもったヒトが、世界に出会い人として歩み始める劇的な時期が乳幼児期であるともいえる。本講義では、身体・認知・情緒などの諸側面から乳幼児期の発達の過程を学び、乳幼児に対する理解を深めることを通じて、生涯発達の中での乳幼児期の位置づけについても考察する。

学修目標

1. 乳幼児期の発達の過程における基本的な理論や知識を身につけ、乳幼児に対する理解を深める。
2. 乳幼児期の心のあり方や発達を研究する方法を理解する。
3. 社会や文化において乳幼児がどのような存在であり、人の一生の中で乳幼児期がどのような時期なのかについて考察を深める。

内容

講義形式の授業を行う。

1	乳幼児期とは
2	乳幼児研究の方法
3	赤ちゃんの不思議
4	認知発達
5	認知発達
6	身体と運動の発達
7	自己の発達
8	親子関係の発達
9	親子関係の発達
10	社会性の発達
11	言葉の発達
12	読み書き能力とコミュニケーションの発達
13	遊びの発達と集団生活
14	発達の個人差
15	まとめ

評価

授業内での課題 (30%)、期末試験 (70%) とし、総合得点60点以上で合格とする。授業内での課題については、翌

週以降に返却し口頭で全体講評を行う。

授業外学習

【事前予習】毎回次回講義の予告をするので内容に関して自分なりに考えたりキーワードを調べたりしておく。(各授業に対して30分)

【事後学修】学習内容についてノートを整理し復習する。また、疑問点について調べたり考察を深める。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

[教科書] 使用しない

[推薦書] 内田伸子編 よくわかる乳幼児心理学 ミネルヴァ書房

科目名	児童期の心理学		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング	KAa204		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

【科目の性格】

人間発達心理学科の学位授与方針 1 , 2 に該当する。

本科目は、学科専門科目の生涯発達領域に配置される。同領域の「乳幼児期の心理学」や「青年期の心理学」「中高年期の心理学」などと関連が深い。

【科目の概要】

児童期の心理発達を身体的、知的、情緒的側面から捉えると共に、学童期の最も重要な側面として社会性育成の視点について理解を深める。また同時に、児童虐待や発達障害など、児童期の子どもたちに特徴的な問題についても取り上げ、児童への幅広い考察をねらいとする。

【学修目標】

生涯発達の中の児童期の位置づけについて理解する。

児童期の発達と心理について基本的な理論と知識を理解する。

学生自身の子ども観を再認識し、子どもに関する理解を深める。

本科目は「こどもサポーター（こころの支援）」資格要件科目です。

内容

この授業は講義を基本に、必要に応じてグループワークを取り入れながら、学びを深めていく。

1	イントロダクション～児童期の特徴
2	児童期を取り巻く発達理論
3	児童の心の理解 言葉の発達
4	児童の心の理解 認知の発達
5	児童の心の理解 自己意識と自尊感情
6	児童の心の理解 セルフコントロールとレジリエンス
7	児童の心の理解 道徳性の発達
8	児童の心の理解 仲間関係の発達
9	児童の心の理解 社会的行動の発達
10	児童の心の理解 性役割の獲得とアイデンティティ
11	児童期を取り巻く問題 児童虐待とは
12	児童期を取り巻く問題 発達障害の理解
13	児童期を取り巻く問題 不登校とは何か
14	児童期を取り巻く問題 児童への援助～子どもに寄り添うとは
15	まとめ

評価

授業に取り組む姿勢や態度と課題（30%）、筆記試験（70%）、2 / 3 以上の出席を必須とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。

毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】事前にキーワードを調べておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】毎回授業で学んだことや関連科目とのつながりを整理し、まとめておく。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。

【推薦書】桜井茂男[ほか]著 『子どものこころ 児童心理学入門 新版』 有斐閣アルマ 2014

【参考図書】授業中に適宜紹介する。

科目名	青年期の心理学		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング	KAa205		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間発達心理学科の学位授与方針「1. 心理学的な研究方法から得られた実証的なデータに基づいて、人間、及び人間の発達に対する多面的な見方ができる」、「2. 心理学における基本的な理論や概念を理解できる」に該当する。生涯発達領域の必修科目であり、人間の発達段階の内、青年期に焦点をあてる。1年次の発達心理学概論が基礎となる。乳幼児期の心理学、児童期の心理学とあわせて学習することで人間が成人するまでの発達段階を詳しく理解することができる。

青年期は、「子ども」から「大人」への移行期であり、身体的・性的成熟、精神的・社会的成熟が相互に関わりあって人格の統合へと向かう時期である。この時期には、急激な身体的変化や認知能力の発達によって、多くの者が、それまで気がつかなかった自分自身のことや、人間関係、社会との関わりについて深く考え、ときに思い悩むようになる。青年期には何が起こるのか、青年期とは私たちにとってどのような意味を持っているのか。本講義では、青年期の成立や青年心理学の研究方法を学習するとともに、青年期の身体的発達、自己とアイデンティティ、性と性役割、職業観と進路選択など青年期の心理学的問題に焦点をあて、わかりやすく解説していく。

青年期について理解を深めることはもちろんであるが、青年期の最中にいる受講生諸君にとって、講義内容を自分自身の問題としてとらえ自ら考える契機と成ることも目標とする。

内容

授業は講義形式で行い、グループワークなどを入れながら学びを深めていく。

1	ガイダンス：授業の概要
2	青年期とは
3	青年心理学の成立
4	青年心理学の研究手法
5	大人になること
6	青年期の身体的変化
7	青年期の自己(1)自己理解・自尊感情
8	青年期の自己(2)アイデンティティ
9	性役割
10	理解度の確認
11	将来決定(1)：職業興味検査
12	将来決定(2)：進路決定と職業
13	青年期の人間関係
14	青年期の感情
15	まとめ

評価

期末テスト60%+中間テスト30%+授業内の課題10%とする。60点以上を合格とし、到達しない場合再試験を行う。リアクションペーパーの質問には回答する。中間テスト、授業内での課題は採点の上、返却する。

授業外学習

【事前予習】次の授業でとりあげるキーワードについて調べ、ノートにまとめる。(30分)

【事後学修】授業時のノートと配付資料を基に、理解した内容をノートに整理する。(60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しない。資料を配付する。

科目名	中高年期の心理学		
担当教員名	小川 まどか		
ナンバリング	KAa406		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針1、2、3に該当する。

本科目は、人間発達心理学科の必修科目として、中高年期の人々が直面し得る加齢に伴う心理的・社会的・身体的な課題や生活ニーズを総合的に理解することを目的とする。

科目の概要

今日、中高年期の人口は全人口の半数を超えている。今は若年である多くの学生もいずれ当事者となるであろう。本科目では、中高年期の心理を中核としながら、加齢に伴う生物学的な変化や特徴、社会からみた中高年期、心理学的な加齢理論、中高年期の人々の認知機能等について取り扱うことを通して、中高年期の人々を取り巻く状況だけでなく、直面し得る課題や生活ニーズを理解する。

学修目標 (= 到達目標)

本科目では、中高年期の人々を取り巻く諸側面の基礎的な理解を目標とする。具体的には、中高年期の加齢に伴う特徴的な変化と、変化に伴って生じる課題や生活ニーズを理解できるようになることを学修目標とする。

内容

予定する講義内容は以下のとおりである。

講義は、教員が用意する資料に基本に進め、適宜質疑応答をしながら学びを深めていく。

1	オリエンテーション：高齢者の実態と老化のとらえ方
2	中高年期と身体的側面：身体疾患と生活機能
3	中高年期と身体的側面：感覚の特徴
4	中高年期と社会的側面：エイジズム
5	中高年期と社会的側面：社会生活と対人関係
6	中高年期と心理的側面：実行機能と注意
7	中高年期と心理的側面：記憶・学習
8	中高年期と心理的側面：パーソナリティ
9	中高年期と心理的側面：知能と創造性
10	中高年期と心理的側面：情動・感情と幸福感
11	中高年期と心理的側面：サクセスフル・エイジング
12	中高年期と心理的側面：認知症の理解
13	中高年期と心理的側面：認知症の理解
14	中高年期と心理的側面：死と死にゆく過程
15	まとめ

評価

授業への参加度10%、毎回のリアクションペーパー20%、期末試験70%により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。
【フィードバック】授業の最初に、前回のリアクションペーパーで印象的なコメントや疑問点に回答し、自らの考えを深められるようにする。

授業外学習

- 【事前予習】事前に推薦図書に目を通し、キーワードを調べておくこと。（各授業に対して60分程度）
- 【事後学修】講義資料や参考資料を読み直したり、自分でまとめたりしてください。（各授業に対して60分程度）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】使用しない
 - 【推薦書】佐藤眞一・権藤恭之編著『よくわかる高齢者心理学』ミネルヴァ書房
 - 【推薦書】松田修編著『最新老年心理学』ワールドプランニング
- その他、授業内で適宜紹介します。

科目名	子育て支援論		
担当教員名	大野 祥子		
ナンバリング	KAa407		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目では、家族という営みに現れる大人・子ども双方の発達や、親子・家族の関係について実証的に検討していきます。子育て支援が必要とされる社会的な背景について理解を深めると同時に、異なる経験・異なる信念を持つ他者の視点を理解することを目指します。

本科目はディプロマ・ポリシー「1. 心理学的な研究方法から得られた実証的なデータに基づいて、人間、及び人間の発達に対する多面的な見方ができる」および「2. 心理学における基本的な理論や概念を理解し、共感的理解や対人コミュニケーション能力を身につける」と関連しています。

科目の概要

この科目では、主に家族心理学の理論と概念を学び、実証的な研究結果に基づいて現代の子育ての問題を考えていきます。子育てを、育てる側/育てられる側双方の視点から、またBio - Psycho - Socialという各方面から多角的に眺めながら、現代の家族・子育ての困難とは何か、どのような支援が求められるかを考えます。

学修目標 (= 到達目標)

1. 子育てという営みに現れる家族メンバー間の関係を多角的に理解する視点を養う。
2. 現代の子育てが抱える困難を把握し、求められる支援の方向性に対する自分の考えを持つ。
3. 自分が育てられてきた体験、自分の家族観を相対化する視点を持つ。

内容

授業は講義形式を中心とし、一部ワークやグループディスカッションを取り入れます。

調べものの宿題を課すこともあります。

1	家族とは何だろうか (テキスト1,3,4章)
2	現代の家族 (テキスト2,5,6,7章)
3	母性神話を再考する (テキスト21章)
4	育児ストレス (映像資料視聴)
5	育児ストレスはなぜ起こるか (テキスト18章)
6	子育て期の家庭生活 (テキスト8,9章)
7	子育て期の夫婦関係 (テキスト10,11章)
8	男女共同参画社会と家族 (テキスト12,13,30章)
9	家族にふりかかるストレス (テキスト29章)
10	現代の親子関係 (テキスト14,15,16,17章)
11	家族システムの中の親子 (テキスト23,25章)
12	家族に対するカウンセリング (テキスト20章)
13	子育て支援の制度・社会資源
14	地域子育て支援
15	まとめ

評価

授業内での提出物（感想のコメントペーパー含む）60%，最終課題40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

提出物は翌週以降の授業で講評を行う。

授業外学習

【事前予習】テキストからその回の内容に該当する章を読み，わからない用語を調べておくこと。その他に準備してほしいことがある場合は前の回に指示する。（60分）

【事後学修】授業ノートをふり返り，授業内容を理解したか確認すること。自分の意見はどうかを考えること。授業中に紹介された参考資料にあたり，発展的な学習をすること。（60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】柏木恵子・大野祥子・平山順子『家族心理学への招待[第2版]』ミネルヴァ書房

【推薦書】柏木恵子『子どもが育つ条件』岩波新書

中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子『家族心理学』有斐閣ブックス

根ヶ山光一『発達行動学の視座： 個 の自立発達の人間科学的探究』金子書房

【参考図書】授業中に紹介します。

科目名	心理学基礎論		
担当教員名	石田 有理、東畑 開人、山下 倫実		
ナンバリング	KAa208		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の選択専門科目であり、人間発達心理学科の学位授与方針1に該当する。

心理学の幅広い領域の関連性に重点をおいた科目である。

科目の概要

心理学には幅広い領域があり、社会における様々な場面で活用されている。日本心理学諸学会連合は、多くの領域をわかりやすくまとめた10領域からなる「心理学検定」を年1回実施している。10領域のなかでも、基礎的なA領域のうち3科目において、各領域で何を学ぶかを理解し、知識と理解を深める。取り上げる科目は、「発達・教育」「社会・感情・性格」「臨床・障害」の3科目である。各領域における重要なキーワードを学び、模擬問題に取り組みながら、心理学検定2級合格をめざす。

学修目標 (= 到達目標)

1. 心理学における基本的な領域がどのようなものを学ぶ。
2. 各領域における基礎的な知識を得る。

内容

この授業は講義を中心に、テキスト内や配布資料の課題を受講者が取り組むことを取り入れながら、すすめる。

1	ガイダンス：心理学における領域とは (石田・東畑・山下)
2	発達 (石田)
3	発達 (石田)
4	臨床 (東畑)
5	臨床 (東畑)
6	社会 (山下)
7	社会 (山下)
8	中間まとめ (石田・東畑・山下)
9	教育 (石田)
10	教育 (石田)
11	障害 (東畑)
12	障害 (東畑)
13	感情・性格 (山下)
14	感情・性格 (山下)
15	まとめ (石田・東畑・山下)

評価

授業への参加度10% 中間試験45% 期末試験45%とし、総合評価60点以上を合格とする。

試験は採点して授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】指定された模擬問題への回答をする。（各授業に対して60分）

【事後学修】キーワードや概念をノートに整理しまとめる。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】心理学検定 公式問題集

【推薦書】心理学検定 基本キーワード

科目名	発達心理学概論（発達心理学）		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング	KAa096		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人間発達心理学科1年次の必修専門科目であり、人間発達心理学科の学位授与方針1.2に該当する。生涯発達領域における入門科目であり、「乳幼児期の心理学」「児童期の心理学」「青年期の心理学」等、各発達段階に関する科目の基礎となる。公認心理師指定科目である。

科目の概要

発達心理学とは、人間の生涯にわたる発達の過程と要因を探るものである。本講義では、人の発達をどのように捉えるのかに関して発達心理学における基礎的な理論や方法論を取り上げる。また、一生を通じて起こる発達の過程を胎児期から高齢期まで発達段階ごとに概観し、各段階において課題となる発達の諸側面について学ぶ。

学修目標

- 1.発達心理学における理論や方法論を知る。
- 2.人を発達という視点から捉え考察できるようになる。
- 3.生涯にわたる人の発達の過程を知り、自らの経験や周囲の人々の様子と関連づけることで、変化し続ける存在としての人に対する考察を深める。

内容

講義形式で授業を行う。また、毎回講義内容に関する作文を課す。講義を聞いて理解したことや疑問点をまとめ、自分なりの考えを表現できるようになることを目指す。作文の内容に関しては毎回フィードバックをする予定である。

1	イントロダクション 発達とは
2	発達の生物学的な基礎
3	発達をとらえる枠組み
4	胎児期の発達
5	乳児期の発達1
6	乳児期の発達2
7	幼児期の発達1
8	幼児期の発達2
9	児童期の発達1
10	児童期の発達2
11	青年期の発達
12	成人期の発達
13	高齢期の発達1
14	高齢期の発達2
15	まとめ

評価

授業内容に関する毎回の課題（40%）、期末試験（60%）とし、総合得点60点以上で合格とする。

課題に関しては翌週以降の授業内で返却し口頭で全体講評を行う。

授業外学習

【事前予習】毎回次回講義の予告をするので内容に関して自分なりに考えたりキーワードを調べたりしておく。（各授業に対して60分）

【事後学習】学習内容についてノートを整理し復習する。また自分の書いた作文を見直し疑問点について考察を深める。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：使用しない

推薦書：授業内で適宜紹介する

科目名	発達心理学概論（発達心理学）		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング	KAa096		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人間発達心理学科1年次の必修専門科目であり、人間発達心理学科の学位授与方針1.2に該当する。生涯発達領域における入門科目であり、「乳幼児期の心理学」「児童期の心理学」「青年期の心理学」等、各発達段階に関する科目の基礎となる。公認心理師指定科目である。

科目の概要

発達心理学とは、人間の生涯にわたる発達の過程と要因を探るものである。本講義では、人の発達をどのように捉えるのかに関して発達心理学における基礎的な理論や方法論を取り上げる。また、一生を通じて起こる発達の過程を胎児期から高齢期まで発達段階ごとに概観し、各段階において課題となる発達の諸側面について学ぶ。

学修目標

- 1.発達心理学における理論や方法論を知る。
- 2.人を発達という視点から捉え考察できるようになる。
- 3.生涯にわたる人の発達の過程を知り、自らの経験や周囲の人々の様子と関連づけることで、変化し続ける存在としての人に対する考察を深める。

内容

講義形式で授業を行う。また、毎回講義内容に関する作文を課す。講義を聞いて理解したことや疑問点をまとめ、自分なりの考えを表現できるようになることを目指す。作文の内容に関しては毎回フィードバックをする予定である。

1	イントロダクション 発達とは
2	発達の生物学的な基礎
3	発達をとらえる枠組み
4	胎児期の発達
5	乳児期の発達1
6	乳児期の発達2
7	幼児期の発達1
8	幼児期の発達2
9	児童期の発達1
10	児童期の発達2
11	青年期の発達
12	成人期の発達
13	高齢期の発達1
14	高齢期の発達2
15	まとめ

評価

授業内容に関する毎回の課題（40%）、期末試験（60%）とし、総合得点60点以上で合格とする。

課題に関しては翌週以降の授業内で返却し口頭で全体講評を行う。

授業外学習

【事前予習】毎回次回講義の予告をするので内容に関して自分なりに考えたりキーワードを調べたりしておく。（各授業に対して60分）

【事後学習】学習内容についてノートを整理し復習する。また自分の書いた作文を見直し疑問点について考察を深める。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：使用しない

推薦書：授業内で適宜紹介する

科目名	臨床心理学概論		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング	KAb109		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科1年次の必修科目のひとつである。「心理学概論」での理解を踏まえて、本科目を履修する必要がある。なお、人間発達学科のディプロマポリシーである 心理学的な研究方法から得られた実証的なデータに基づいて、人間、及び人間の発達に対する多面的な見方ができることをめざし、心理学における基本的な理論や概念を理解し、共感的理解や対人コミュニケーション能力を身につけることが大きな目標となる。

科目の概要

臨床心理学とは一体何か。それはこころの問題に対して、心理学的な援助を行うための学問である。しかし、こころとは一体何で、そして心理学的な援助とは一体何だろうか。本授業では臨床心理学の全般的な知識を学ぶと同時に、それが時代の変化と深く関わってきたことを取り上げる。最終的には、現代にあって臨床心理学とは一体何かを理解することが目指される。

学修目標 (= 到達目標)

臨床心理学が時代の中でどのように発展してきたのかを理解することで、この学問がどのような性質の学問であり、この学問を学ぶことにはいかなる意義があるのかを理解する。

内容

この授業では、アクティブラーニングの要素を取り入れるために、トピックの変わり目ごとにグループワークを取り入れ、ディスカッションを促す。

1	臨床心理学とは何か
2	チンパンジーの心のケア
3	シャーマニズムと心未満
4	フロイトの精神分析
5	ロジャースと日本の臨床心理学
6	ユングと河合隼雄
7	臨床心理士について アセスメント
8	薬物療法と脳のこと
9	認知行動療法
10	対象関係論
11	自助グループと依存症
12	当事者研究
13	公認心理師について
14	社会と臨床心理学
15	まとめ

評価

各回のレポート提出が20点、期末テストが80点で、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】 毎授業末にリアクションペーパーと、Google formを用いて質問や意見などを受付、双方向的な講義を実践する。

授業外学習

【事前予習】 指示したことについて調べる、考えてくること

【事後学修】 各回で紹介した文献に触れること（毎授業ごとに60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 特になし

【推薦書】 適宜指示する

【参考図書】 適宜指示する

科目名	臨床心理学概論		
担当教員名	木甲斐 智紀		
ナンバリング	KAb109		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科1年次の必修科目のひとつである。「心理学概論」での理解を踏まえて、本科目を履修する必要がある。なお、人間発達学科のディプロマポリシーである 心理学的な研究方法から得られた実証的なデータに基づいて、人間、及び人間の発達に対する多面的な見方ができることをめざし、心理学における基本的な理論や概念を理解し、共感的理解や対人コミュニケーション能力を身につけることが大きな目標となる。

科目の概要

臨床心理学とは一体何か。それはこころの問題に対して、心理学的な援助を行うための学問である。しかし、こころとは一体何で、そして心理学的な援助とは一体何だろうか。本授業では臨床心理学の全般的な知識を学ぶと同時に、それが時代の変化と深く関わってきたことを取り上げる。最終的には、現代にあって臨床心理学とは一体何かを理解することが目指される。

学修目標 (= 到達目標)

臨床心理学が時代の中でどのように発展してきたのかを理解することで、この学問がどのような性質の学問であり、この学問を学ぶことにはいかなる意義があるのかを理解する。

内容

この授業では、アクティブラーニングの要素を取り入れるために、トピックの変わり目ごとにグループワークを取り入れ、ディスカッションを促す。

1	臨床心理学とは何か
2	チンパンジーの心のケア
3	シャーマニズムと心未満
4	フロイトの精神分析
5	ロジャースと日本の臨床心理学
6	ユングと河合隼雄
7	臨床心理士について アセスメント
8	薬物療法と脳のこと
9	認知行動療法
10	対象関係論
11	自助グループと依存症
12	当事者研究
13	公認心理師について
14	社会と臨床心理学
15	まとめ

評価

各回のレポート提出が20点、期末テストが80点で、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業末にリアクションペーパーと、Google formを用いて質問や意見などを受付、双方向的な講義を実践する。

授業外学習

【事前予習】 指示したことについて調べる、考えてくること

【事後学修】 各回で紹介した文献に触れること（毎授業ごとに60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 特になし

【推薦書】 適宜指示する

【参考図書】 適宜指示する

科目名	カウセリング理論		
担当教員名	永作 稔		
ナンバリング	KAb111		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は必修科目であり人間発達心理学科のディプロマポリシー 2 に該当している。

カウセリングという言葉自体は心理学の領域を越えて日常生活の至る所に入り込んでいる。しかし、ではカウセリングとは何か、何をすることかということの説明することは存外に難しいものである。そこで、この科目ではカウセリングとはどのようなもので、何をすることがカウセリングになるのかということについて学ぶ。また、2年次に学ぶカウセリングの基礎 (技法) の礎となる重要な科目でもある。

科目の概要

人が抱える心理的な問題や悩みに対する専門的な援助のひとつにカウセリングがある。では何ができることが「専門的に援助する」ことになるのだろうか。この科目ではカウセリングを専門的に学ぶうえで基礎となる事柄について専門的に学ぶ。

学修目標

カウセリングとはいかなるものかを事例やロールプレイなどの体験を通して、その知識や理解を深める。また、心理的問題や悩みなどの解決方法も身につくので、日常生活などでの活用が深まる。したがって、授業では他者への積極的関与を意識し学修することが求められる。

内容

授業はパワーポイントと用いた講義，グーグルフォームを使用したアクティブラーニングにより進められる。グーグルフォームでは，毎回の授業専用のWEB回答フォームから授業の感想や疑問を書き込み，次回の授業で主要な質問，感想についてフィードバックを行うほか，授業中に行う演習問題の回答とクラスシェアにも使用する。

1	はじめに
2	カウセリングとは何か
3	臨床心理面接とカウセリングが目指すもの
4	カウンセラーに必要な態度の3条件
5	ロジャーズのカウセリング理論
6	受理面接について
7	ラポールの形成
8	主訴の聴きとり
9	カウセリングにおける言語的・非言語的技法
10	ここまでのまとめとふりかえり
11	精神分析的カウセリングの基礎理論
12	行動的カウセリングの基礎理論
13	認知行動的カウセリングの基礎理論
14	総復習
15	まとめ

評価

授業中に課す課題への取り組み状況や授業中の態度や姿勢（20%）、筆記試験（80%）とし、総合評価60点以上を合格とします。

【フィードバック】毎回の授業で課す小レポートのなかの質問や良い意見について、次回授業冒頭でフィードバックします。

授業外学習

【事前予習】授業用フォルダに格納されている次回授業回のパワーポイントファイルを学内PCで確認し、それをしっかり読み込んで必要に応じて印刷しておくこと。また不明点は調べておくこと（各授業90分）。

【事後学修】毎時間に学習したことを各自で整理しノートにまとめておくこと（各授業90分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

（教科書）毎授業必携のテキストは使用しない。

（推薦書）授業の予習復習など自主学習のために、以下の書籍を推薦する。

1. 「相談の心理学」 金子書房 福島脩美 2011
2. 「カウンセリング/心理療法の4つの源流と比較」 北大路書房 W.ドライデン&J.ミットン 2005

（参考図書） 教室で紹介する

科目名	カウセリング理論		
担当教員名	松葉 百合香		
ナンバリング	KAb111		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は必修科目であり人間発達心理学科のディプロマポリシー 2 に該当している。

カウセリングという言葉自体は心理学の領域を越えて日常生活の至る所に入り込んでいる。しかし、ではカウセリングとは何か、何をすることかということの説明することは存外に難しいものである。そこで、この科目ではカウセリングとはどのようなもので、何をすることがカウセリングになるのかということについて学ぶ。また、2年次に学ぶカウセリングの基礎 (技法) の礎となる重要な科目でもある。

科目の概要

人が抱える心理的な問題や悩みに対する専門的な援助のひとつにカウセリングがある。では何ができることが「専門的に援助する」ことになるのだろうか。この科目ではカウセリングを専門的に学ぶうえで基礎となる事柄について専門的に学ぶ。

学修目標

カウセリングとはいかなるものかを事例やロールプレイなどの体験を通して、その知識や理解を深める。また、心理的問題や悩みなどの解決方法も身につくので、日常生活などでの活用が深まる。したがって、授業では他者への積極的関与を意識し学修することが求められる。

内容

授業はパワーポイントと用いた講義，グーグルフォームを使用したアクティブラーニングにより進められる。グーグルフォームでは，毎回の授業専用のWEB回答フォームから授業の感想や疑問を書き込み，次回の授業で主要な質問，感想についてフィードバックを行うほか，授業中に行う演習問題の回答とクラスシェアにも使用する。

1	はじめに
2	カウセリングとは何か
3	臨床心理面接とカウセリングが目指すもの
4	カウンセラーに必要な態度の3条件
5	ロジャーズのカウセリング理論
6	受理面接について
7	ラポールの形成
8	主訴の聴きとり
9	カウセリングにおける言語的・非言語的技法
10	ここまでのまとめとふりかえり
11	精神分析的カウセリングの基礎理論
12	行動的カウセリングの基礎理論
13	認知行動的カウセリングの基礎理論
14	総復習
15	まとめ

評価

授業中に課す課題への取り組み状況や授業中の態度や姿勢（20%）、筆記試験（80%）とし、総合評価60点以上を合格とします。

【フィードバック】毎回の授業で課す小レポートのなかの質問や良い意見について、次回授業冒頭でフィードバックします。

授業外学習

【事前予習】授業用フォルダに格納されている次回授業回のパワーポイントファイルを学内PCで確認し、それをしっかり読み込んで必要に応じて印刷しておくこと。また不明点は調べておくこと（各授業90分）。

【事後学修】毎時間に学習したことを各自で整理しノートにまとめておくこと（各授業90分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

（教科書）毎授業必携のテキストは使用しない。

（推薦書）授業の予習復習など自主学習のために、以下の書籍を推薦する。

1. 「相談の心理学」 金子書房 福島脩美 2011
2. 「カウンセリング/心理療法の4つの源流と比較」 北大路書房 W.ドライデン&J.ミットン 2005

（参考図書） 教室で紹介する

科目名	精神病理学		
担当教員名	小原 美樹		
ナンバリング	KAb312		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針2に該当する。

代表的な精神疾患の基礎知識を学び、心を病むとはどのようなことなのかを考察し、私たち人間の心の働きについての理解を深めることを目的とする。

科目の概要

精神医学の歴史、精神病理学の主要な理論・概念を概観するとともに、映画などの資料も用いながら精神医療現場で日常的に出会う主な疾患である統合失調症、気分障害（うつ病性障害、双極性障害）を中心に、様々なこころの病の特徴を理解する。またそれらの病を抱える人々にとって必要とされる心理社会的支援について紹介する。

学修目標（＝到達目標）

代表的な精神疾患の基礎知識を学び、心を病むとはどのようなことなのかを考察し、私たち人間の心の働きについての理解を深める。3日間の講義を通じ、さまざまな知識や情報に触れるだけでなく、各自が「心を病む」ことや「ひとを支援する」ということについて自分なりの考えを述べられるようになることを目指す。

内容

3日間で以下の内容を学習する。

- ・心の病の歴史
- ・精神病理学の誕生経緯と主要な理論・概念
- ・各精神疾患の基礎知識
- ・心を病む人々への心理社会的支援

授業の進め方は講義を中心とするが、積極的な参加を可能とするため、適宜グループでの討議等を取り入れる予定である。また映像資料の閲覧等も取り入れ、心を病むことについての現実的かつ総合的な理解を図る。

評価

授業への意欲・関心・参加態度20%、授業内のテスト40%、最終日に課す小レポート40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業の最初に前日の内容に関する質疑に回答し、学習内容の理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】心の病気や心の病気を抱える人々への支援について、自分なりに今知りたいことをまとめておく。事前質問は初回講義で内容を聞き取り、その後の講義内容に反映する。（60分程度）

【事後学修】講義内容に関する不明点について、翌日の講義内で質問できるよう準備する。(30分程度)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特定の教科書は定めず、パワーポイントの映写資料を中心に進める予定である。

パワーポイントの印刷は毎回授業開始時に配付する。

【推薦書】

- ・小俣和一郎「精神医学の歴史」(第三文明社)
- ・松本雅彦「精神病理学とは何だろうか」(星和書店)

【参考図書】授業内で適宜紹介する

科目名	精神保健		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング	KAb313		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

臨床現場でのフィールドワークの前提となる、精神保健に関する全般的な知識を得ることを目的とします。特に人間発達心理学科のディプロマポリシー の「専門教育で習得した理論・概念・知識・技能により、生活支援能力や身体のケア能力を身につける」ことを目指す

科目の概要

「心の健康と病理とは一体何か」を大きな問いにしながら、現代社会における心の病について考えていきます。各心の病についての知識を深めるとともに、実際の臨床現場でそのような知識をどのように生かしていくのかを具体的な事例と共に学んでいきたいと思ひます。

学修目標 (= 到達目標)

精神保健の対象について縦断的および横断的に理解する。

授業で学んだ内容について、自分なりの活かし方を習得する。

内容

この授業では、アクティブラーニングの要素を取り入れるために、トピックの変わり目ごとにグループワークを取り入れ、ディスカッションを促す。

1	イントロダクション 授業の取り決め
2	精神保健とは
3	うつ
4	いじめ
5	非行
6	心因性の問題神経症
7	不登校
8	発達障害
9	A D H D
10	L D
11	虐待
12	精神保健を実践する
13	精神保健を実践する
14	精神保健を実践する
15	まとめ

評価

各回のレポートが20点、テストが80点とし、総合評価60点以上を合格とする。

ただし、事例発表を行った者には30点を予め付与する。

【フィードバック】毎授業末にリアクションペーパーと、Google formを用いて質問や意見などを受付、双方向的な講義を実践する。

授業外学習

【事前準備】発表を行う者は事例のまとめ。それ以外のものは次の授業のテーマについての文献に触れてくる（各授業につき60分）。

【事後学修】授業中に呈示した関連文献を読んでくる（各授業につき60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特になし。適宜推薦する

科目名	乳幼児期の心理臨床		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング	KAb314		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 科目の性格 :

本科目は、人間発達心理学科の学位授与方針 1 . 2、3 に該当し、これまで学んできた発達心理学や教育心理学などの知見を踏まえ、乳幼児期に焦点を当て、発達の特徴に応じた支援を行うための科目です。

2. 科目の目標 :

乳幼児期における、認知、社会性などの諸側面の発達課題について理解することをまず目指します。そのうえで各発達の課題が達成されなかった場合、どのような問題が表れ易いか、そのような問題を未然に防ぎ、発達を支援するには、どのようなことが必要かを学びます。発達の問題に対する見解については、さまざまな立場があるため、立場の相違によって支援方法にどのような違いが生じるかに関しても、考えていく予定です。

3. 学修目標 :

- (1) 乳幼児期における認知、社会性、コミュニケーション等の発達課題についての理解。
- (2) 発達課題が達成されなかった場合に表れやすい問題の理解。
- (3) 発達の支援に関する理解。

内容

1. オリエンテーション
2. 発達とは 発達の課題とは
3. 発達の基礎理論
4. 胎生期～周産期の心理臨床
5. 新生児期の心理臨床
6. 乳児期の心理臨床 (1)
7. 乳児期の心理臨床 (2)
8. 幼児期の心理臨床 (1)
9. 幼児期の心理臨床 (2)
10. 幼児期の心理臨床 (3)
11. グループ発表
12. グループ発表
13. グループ発表
14. 発達の支援
15. まとめ

評価

100点満点中、授業への参加度 (課題提出・小テスト・中間テスト・授業態度など) 40%と、期末テストの成績60%を成績評価の対象とします。合計で60点以上を合格としますが、期末テストが100点満点中60点に満たない場合は、不合格とします。

毎授業の最初に前回授業における質疑に返答し、学習理解が深められるようにします。

授業外学習

【事前予習】講義予定に該当する教科書部分を予め読み、キーワードを心理学事典等で調べてA41枚にまとめてください（各講義に対して60分）。

【事後学修】毎回の講義終了時に出す課題に対して、教科書及び心理学事典等を活用し、義の復習をしてください（各講義に対して60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】伊藤恵子著（2015）『教育・保育・子育て支援のための発達臨床心理学』文化書房博文社

科目名	児童期から青年期の心理臨床		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング	KAb315		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

【科目の性格】

人間発達心理学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。

本科目は、学科専門科目の心理臨床領域に配置される。主に、児童・青年期における精神面の発達上の問題 (問題行動や不適応、精神的疾患など) について、その種類と特徴、原因、教育・治療的支援方法などを深める。「児童期の心理学」「青年期の心理学」などに関わりが深い。

【科目の概要】

心身の変化が大きい児童期から青年期という時期に、子どもたちがどのような心理的状态にあり、どのような問題に直面するのかについて学ぶ。また、問題行動や症状を呈している子どもおよびその家族に対して、専門的な知識をもちかつ訓練を受けた者がどのように関わりを重視しつつ支援活動を行うのかということについても学んでいく。

【学修目標 (= 到達目標) 】

児童期・青年期の子どもたちが直面するさまざまな心理的問題に関心を寄せることができる。

に関して、心理臨床的な知識や理論をもとにした支援方法について理解している。

ピアヘルパー取得要件科目 (領域) にあたる。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	はじめに：こころの発達と健康
2	大人になる」ことのむずかしさ?： 永遠の「中2病」
3	心が病むときとは?
4	非行の心理臨床?：大人になるための「つまづき」と「怒り」
5	不登校とその支援?：「学校」は行かなければいけない?
6	依存とその理解：やめられないとまらない
7	ひきこもりと支援?：家族との格闘
8	発達障害と支援：片づけられない女たち
9	もしかしてデートDV!??：愛がゆがまないために
10	ボディイメージと自己?：なりたい「ボディ」と今の「ワタシ」
11	メディアとコミュニケーション?：SNSと「ワタシ」の価値
12	児童期・青年期の心理臨床：男性の場合
13	児童期・青年期の心理臨床：女性の場合
14	児童期・青年期の心理療法：遊びの中で心を癒す方法
15	まとめ

評価

授業に取り組む姿勢や態度と課題（30%）、筆記試験（70%）、2/3以上の出席を必須とし、総合評価60点以上を合格とする。

毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】学習テーマに関する記事やデータを調べて講義にのぞむこと。（各授業に対して60分）

【事後学修】毎回授業で学んだことを整理し直しておくこと。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない

【推薦書】「思春期・青年期臨床心理学（朝倉心理学講座16）」伊藤美奈子編著 朝倉書店 2006

【参考図書】教室で紹介する

科目名	中高年期の心理臨床		
担当教員名	高橋 彩		
ナンバリング	KAb416		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科のDP1・2に該当する。

本科目は、人間発達心理学科の専門選択科目として、中高年期の人々の心理的・社会的・身体的な課題やニーズを実感的に理解し、その現状や背景を分析・考察できる思考力の醸成を目的とする。

科目の概要

中高年期の心理的特徴と課題を理解し、それに伴う様々な問題について多面的・包括的に考察する。

学修目標 (= 到達目標)

1. 中高年期の人々が直面する課題とそれらの背景や特徴を理解する。
2. 世代を超えた関係性について考察する。
3. 自身の生涯発達についても深い考えを持てるようになる。

内容

1	オリエンテーション (現在の自分とこれからの自分)
2	中高年期の理解 : 人生の移行期
3	中高年期の理解 : 中年期が抱える心理的課題
4	中高年期の課題 : 高年期が抱える心理的課題
5	中高年期の課題 : 働く場における問題と課題
6	中高年期の課題 : 中高年期のこころの病
7	中高年期の課題 : 中高年期の心理的ケア
8	中高年期の課題 : 認知症と家族の支援
9	中高年期の課題 : 死と向き合う
10	文学から見る老いと病
11	世代間交流による相互発達
12	職場における世代間の関わり
13	人生100年時代をどう生きるか
14	中高年期を見据えた今の自分・将来の自分を考える
15	まとめ

評価

授業への参加度20%、毎回の小レポート20%、筆記試験60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】小レポートで出された疑問点や質問は授業で回答し、内容を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】前回の授業の復習を必須とし、次回の授業テーマについて自分なりに事前に調べて書き出しておくこと。次回の授業の最初に確認する。（各授業に対して60分）

【事後学修】毎回講義内容について、興味をもったキーワードについて調べた上で小レポートを作成し、次回の授業の最初に提出すること。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず、授業はパワーポイントを使用する。パワーポイント資料は配布しないため、授業内容は自身でノートにまとめること。その他必要に応じて参考書を紹介し、プリントの配布を行う。

【推薦書】齋藤高雅・高橋正雄『中高年の心理臨床』放送大学教材

科目名	障害児・者の心理臨床		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング	KAb417		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

障害の状態にある人の機能的制約は、環境によって異なるため、環境因子の一つとして、適切な支援を行うことは極めて重要です。本科目は、人間発達心理学科の学位授与方針 1、2、3 に該当し、これまで学んできた知見を踏まえて適切な支援を行うための学習を通し、自らの生き方を考える科目です。

科目の概要：

各障害の診断基準および心理学的特徴に関して学習します。各障害の特徴に配慮した支援の在り方について受講者とともに考えていきます。

学修目標 (= 到達目標)：

1. 障害の理解。
2. 各障害の診断基準及び心理学的特徴の理解。
3. 上記を踏まえた上での各障害への対応及び支援の理解。

内容

- 1 オリエンテーション
- 2 障害とは
- 3 自閉^s°外^sム症児・者の心理学的特徴と支援 (1)
- 4 自閉^s°外^sム症児・者の心理学的特徴と支援 (2)
- 5 限局性学習症児・者の心理学的特徴と支援
- 6 注意欠如/多動症児・者の心理学的特徴と支援
- 7 知的発達症児・者の心理学的特徴と支援
- 8 視覚障害者・聴覚障害者・言語障害者の心理学的特徴と支援
- 9 肢体不自由者・重度重複障害者・病弱者の心理学的特徴と支援
- 10 精神障害者の心理学的特徴と支援
- 11 各障害児・者の心理学的特徴と支援のまとめ
- 12 グループ発表 (1)
- 13 グループ発表 (2)
- 14 グループ発表 (3)
- 15 まとめ

評価

100点満点中、日常点 (課題提出・小テスト・授業態度・発表など) 40%と、期末テストの成績60%を成績評価の対象とし、60点以上を合格とします。ただし、期末テストの得点が60点に満たない場合には、不合格となります。

毎授業の最初に前回授業における質疑に返答し、学習理解が深められるようにします。

授業外学習

【事前予習】講義予定に該当する教科書部分を予め読み、キーワードを心理学事典等で調べてA41枚にまとめてください（各講義に対して60分）。

【事後学修】毎回の講義終了時に出す課題に対して、教科書及び心理学事典等を活用し、義の復習をしてください（各講義に対して60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】伊藤恵子著(2015)『教育・保育・子育て支援のための発達臨床心理学』文化書房博文社

科目名	心理療法		
担当教員名	堀川 聡司		
ナンバリング	KAb418		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針 1 , 2 に該当する。

本科目は、講義形式を基本としつつ、学生自身の積極的な参加も求められる授業である (各自の自習、学生間の意見交換) 。それによって、「心理学的な研究方法から得られた実証的なデータに基づいて、人間、及び人間の発達に対する多面的な見方ができること」ならびに「心理学における基本的な理論や概念を理解し、共感的理解や対人コミュニケーション能力を身につけること」が目指される。

科目の概要

今日「心理療法」と名づけられる心理療法は数えきれないほどある。これほど多様な心理療法が生まれることになった理由は、実践現場におけるニーズに従ったからに他ならない。本科目では、そのように多様化した心理療法の世界を、事例を通して概観し、現場でどのような取り組みがなされているのかを学ぶことを目指す。

学修目標 (= 到達目標)

心理療法という実践がどのようなものか、その概観を掴み、自身が関心を持った心理療法 (少なくとも一つ以上) について、その理解を深める。

内容	
1	イントロダクション
2	アセスメントと見立て
3	精神分析的心理療法 (1) 設定と契約
4	精神分析的心理療法 (2) 反復と転移
5	精神分析的心理療法 (3) 投影同一化と逆転移
6	絵画療法 (1) パウムテストと風景構成法
7	絵画療法 (2) その他の技法
8	箱庭療法 (1) その成り立ち
9	箱庭療法 (2) その読み取り
10	行動療法と認知療法 (1) 摂食障害
11	行動療法と認知療法 (2) うつ病
12	行動療法と認知療法 (3) 加害者支援
13	支持的心理療法 (1) 親面接
14	支持的心理療法 (2) セクシュアルマイノリティの支援
15	まとめ

評価

「授業に対する意欲・関心・態度」を30点、期末レポート70点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】推薦図書に挙げた著書など、各心理療法に関して書かれた書籍の該当箇所を一読しておくこと。（各セッションにつき90分程度）

【事後学修】関心をもった心理療法について、授業で紹介した文献を読み、さらに学習を進めること。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】乾(2005)『心理療法ハンドブック』（創元社）、東畑(2015)『野の医者笑う』（誠信書房）

【参考図書】堀川（2016）『精神分析と昇華』（岩崎学術出版社）

科目名	発達臨床フィールドワーク		
担当教員名	伊藤 恵子、綿井 雅康		
ナンバリング	KAb419		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、人間発達心理学科の学位授与方針 1 . 2、3 に該当し、専門科目の発達領域および臨床領域で学んだ心理学の知見を基礎として、「心理学」が社会のさまざまな場で、どのように役立っているのかを実習を通して具体的に理解する科目です。

科目の概要

いくつかの臨床現場 (医療・保健の施設や機関、学校教育および関連する施設や機関、社会福祉関連の施設や機関) に向いて見学させていただくとともに、現場で従事されている専門家の方からのお話をうかがいます。事前のガイダンスと事後のまとめを見学ごとに行います。

学修目標

知識として学んできた発達心理学や臨床心理学などが現場でどう生きているか、現場で「心理学を活かすこと」にどんな難しさがあるのか等、発達臨床に対する理解を深めます。さらに、受講生が自分の将来の道を考える上での「心理学を活かす」という視点を実質化することを目指します。

内容

- 1 . 現場 (医療・保健関連、学校教育関連、社会福祉関連の施設や機関を予定) への見学等が学習活動に含まれます。
- 2 . 現場見学にあたっては、事前のガイダンスを実施します、事後のまとめを実施します、見学にかかる経費 (交通費など) は受講生の自己負担となります。
- 3 . 見学を実施する時期は、通常の授業が行われない日程となります (例えば集中講義期間、春期休業期間) 。
- 4 . 現場見学を行うために、受講生の人数 (上限) を設定します。
- 5 . 見学先、時期、受講制限などについては、学科オリエンテーションにて説明します。

評価

100 点満点中、実習態度得点 (積極性やことば使いなど) 20 % と、見学ごとのレポート得点 80 % (100 点 × 施設数) にて評価し、総合評価 60 点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】見学予定の施設に関して厚生労働省や文部科学省などのホームページを参照し、施設の概要などを事前に十分学習し、見学の視点を明確にしておいてください (各実習ごとに 2 ~ 3 時間) 。

【事後学修】見学で学んだ各施設の機能や役割、課題等を整理し、心理学的観点から分析し、最終的にレポートを作成してください。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しません。

【推薦書】事前ガイダンスにて、お伝えします。

科目名	発達臨床心理学（発達心理学）		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング	KAb173		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：

本科目は、人間発達心理学科の学位授与方針 1 . 2 に該当し、これまで学んできた発達理論、発達研究を実際の発達支援に生かすための応用力を培うための科目です。

科目の概要：

出生前から高齢期にいたる各ライフステージにおける発達とその支援について学習します。また、精神疾患の基礎知識、発達障害の基礎知識などについて受講者とともに考えていく予定です。

学修目標：

- 1 . 各ライフステージにおける発達とその支援について理解する。
- 2 . 精神疾患の基礎知識を学ぶ。
- 3 . 発達障害の基礎知識を学ぶ。

内容

- 1.オリエンテーション
- 2.発達臨床心理学とは
- 3.胎生期～新生児期における発達とその支援
- 4.乳児期における発達とその支援
- 5.幼児期における発達とその支援
- 6.児童期における発達とその支援
- 7.青年期における発達とその支援
- 8.成人期における発達とその支援
- 9.高齢期における発達とその支援
- 10.精神疾患 (1)障害とは (2)精神疾患とは
- 11.発達障害 (1)発達障害とは (2)代表的な発達障害
- 12.グループ発表(1)
- 13.グループ発表(2)
- 14.グループ発表(3)
- 15.まとめ

評価

100点満点中、日常点（課題提出・小テスト・授業態度・発表など）40%と、期末テストの成績60%を成績評価の対象とし、60点以上を合格とします。ただし、期末テストの得点が100点満点中60点に満たない場合には、不合格となります。

毎授業の最初に前回授業における質疑に返答し、学習理解が深められるようにします。

授業外学習

【事前予習】講義予定に該当する教科書部分を予め読み、キーワードを心理学事典等で調べてA41枚にまとめてください（各講義に対して60分）。

【事後学修】毎回の講義終了時に出す課題に対して、教科書及び心理学事典等を活用し、義の復習をしてください（各講義に対して60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】伊藤恵子著(2015)『教育・保育・子育て支援のための発達臨床心理学』文化書房博文社

科目名	心理学入門演習		
担当教員名	池田 まさみ、綿井 雅康		
ナンバリング	KAc220		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は人間発達心理学科・学位授与方針1・2に該当する。

学生が心理学の概念・理論・研究事例を主体的に学習し、その成果を発表し質疑応答を展開することで、受講生相互に学びを深める「演習」の入門科目である。演習での学習方法を修得することも目標の一つである。専門科目の学習や卒業研究の基礎となる科目である。

科目の概要

1年次の専門科目で学習した事項をもとに、心理学の主要分野（発達・臨床・教育・人格・社会等）の専門書の講読などを通じて、心理学の諸概念や理論について、より具体的なテーマに沿って考えて理解を深める。

受講生は4つのグループに分かれ、各グループに、二人の教員が前半と後半に分かれて担当する。教員ごとに扱う心理学分野は若干異なるが、進め方は基本的には同一である。発表担当者はテキストや文献をあらかじめ読んで、要約資料を作成・配布して報告する。他の受講者はこれに対して質疑応答を行い、全員で討論を行う。

学修目標

テキストや文献を読んで主体的に理解すること、それを参加者が理解できるように報告すること、具体的なテーマに沿って心理学の諸概念や理論を修得することが目標である。

内容

各教員が扱うテーマは以下の予定である。テーマと担当教員に関する詳細は、第1回に説明する。

- A．日常生活や社会における心理臨床に関する事例について調べる
- B．発達障害に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- C．人間の知覚や認知発達に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- D．日常生活や社会における記憶の働きを扱った研究事例について調べる

この授業では、プレゼンテーションとディスカッションを中心に展開し、学びを深めていく。

評価

発表と要約資料（50点）、質疑応答・討論への参加（30点）、レポート（20点）による計100点として、総合評価60点以上を合格とする。

リアクションペーパーを用いて学びの振り返りを行い、翌週の授業時に、教員のコメントを付して返却する。

授業外学習

【事前予習】出題された課題を十分な時間をかけて準備すること（課題に対して100分）

【事後学修】他者の発表から何を理解したのかを、言語化して説明できるようにする（各授業に対して70分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書・参考書】各担当教員から、適宜、指示と助言がある。

科目名	心理学入門演習		
担当教員名	永作 稔、綿井 雅康		
ナンバリング	KAc220		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は人間発達心理学科・学位授与方針1・2に該当する。

学生が心理学の概念・理論・研究事例を主体的に学習し、その成果を発表し質疑応答を展開することで、受講生相互に学びを深める「演習」の入門科目である。演習での学習方法を修得することも目標の一つである。専門科目の学習や卒業研究の基礎となる科目である。

科目の概要

1年次の専門科目で学習した事項をもとに、心理学の主要分野（発達・臨床・教育・人格・社会等）の専門書の講読などを通じて、心理学の諸概念や理論について、より具体的なテーマに沿って考えて理解を深める。

受講生は4つのグループに分かれ、各グループに、二人の教員が前半と後半に分かれて担当する。教員ごとに扱う心理学分野は若干異なるが、進め方は基本的には同一である。発表担当者はテキストや文献をあらかじめ読んで、要約資料を作成・配布して報告する。他の受講者はこれに対して質疑応答を行い、全員で討論を行う。

学修目標

テキストや文献を読んで主体的に理解すること、それを参加者が理解できるように報告すること、具体的なテーマに沿って心理学の諸概念や理論を修得することが目標である。

内容

第1回は、オリエンテーションで、受講者のグループ分けと各教員の内容の詳細な説明を行う。

第2回から第15回までは、グループに分かれ、教員ごとに7回ずつ演習形式で授業を行う。

各教員が扱うテーマは以下の予定である。テーマと担当教員に関する詳細は、第1回に説明する。

- A．日常生活や社会における心理臨床に関する事例について調べる
- B．発達障害に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- C．人間の知覚や認知発達に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- D．日常生活や社会における記憶の働きを扱った研究事例について調べる

この授業では、プレゼンテーションとディスカッションを中心に展開し、学びを深めていく。

評価

発表と要約資料（50点）、質疑応答・討論への参加（30点）、レポート（20点）による計100点として、総合評価60点以上を合格とする。

リアクションペーパーを用いて学びの振り返りを行い、翌週の授業時に、教員のコメントを付して返却する。

授業外学習

【事前予習】出題された課題を十分な時間をかけて準備すること（課題に対して100分）

【事後学修】他者の発表から何を理解したのかを、言語化して説明できるようにする（各授業に対して70分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書・参考書】各担当教員から、適宜、指示と助言がある。

科目名	心理学入門演習		
担当教員名	伊藤 恵子、綿井 雅康		
ナンバリング	KAc220		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は人間発達心理学科・学位授与方針1・2に該当する。

学生が心理学の概念・理論・研究事例を主体的に学習し、その成果を発表し質疑応答を展開することで、受講生相互に学びを深める「演習」の入門科目である。演習での学習方法を修得することも目標の一つである。専門科目の学習や卒業研究の基礎となる科目である。

科目の概要

1年次の専門科目で学習した事項をもとに、心理学の主要分野（発達・臨床・教育・人格・社会等）の専門書の講読などを通じて、心理学の諸概念や理論について、より具体的なテーマに沿って考えて理解を深める。

受講生は4つのグループに分かれ、各グループに、二人の教員が前半と後半に分かれて担当する。教員ごとに扱う心理学分野は若干異なるが、進め方は基本的には同一である。発表担当者はテキストや文献をあらかじめ読んで、要約資料を作成・配布して報告する。他の受講者はこれに対して質疑応答を行い、全員で討論を行う。

学修目標

テキストや文献を読んで主体的に理解すること、それを参加者が理解できるように報告すること、具体的なテーマに沿って心理学の諸概念や理論を修得することが目標である。

内容

第1回は、オリエンテーションで、受講者のグループ分けと各教員の内容の詳細な説明を行う。

第2回から第15回までは、グループに分かれ、教員ごとに7回ずつ演習形式で授業を行う。

各教員が扱うテーマは以下の予定である。テーマと担当教員に関する詳細は、第1回に説明する。

- A．日常生活や社会における心理臨床に関する事例について調べる
- B．発達障害に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- C．人間の知覚や認知発達に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- D．日常生活や社会における記憶の働きを扱った研究事例について調べる

この授業では、プレゼンテーションとディスカッションを中心に展開し、学びを深めていく。

評価

発表と要約資料（50点）、質疑応答・討論への参加（30点）、レポート（20点）による計100点として、総合評価60点以上を合格とする。

リアクションペーパーを用いて学びの振り返りを行い、翌週の授業時に、教員のコメントを付して返却する。

授業外学習

【事前予習】出題された課題を十分な時間をかけて準備すること（課題に対して100分）

【事後学修】他者の発表から何を理解したのかを、言語化して説明できるようにする（各授業に対して70分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書・参考書】各担当教員から、適宜、指示と助言がある。

科目名	心理学入門演習		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KAc220		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は人間発達心理学科・学位授与方針1・2に該当する。

学生が心理学の概念・理論・研究事例を主体的に学習し、その成果を発表し質疑応答を展開することで、受講生相互に学びを深める「演習」の入門科目である。演習での学習方法を修得することも目標の一つである。専門科目の学習や卒業研究の基礎となる科目である。

科目の概要

1年次の専門科目で学習した事項をもとに、心理学の主要分野（発達・臨床・教育・人格・社会等）の専門書の講読などを通じて、心理学の諸概念や理論について、より具体的なテーマに沿って考えて理解を深める。

受講生は4つのグループに分かれ、各グループに、二人の教員が前半と後半に分かれて担当する。教員ごとに扱う心理学分野は若干異なるが、進め方は基本的には同一である。発表担当者はテキストや文献をあらかじめ読んで、要約資料を作成・配布して報告する。他の受講者はこれに対して質疑応答を行い、全員で討論を行う。

学修目標

テキストや文献を読んで主体的に理解すること、それを参加者が理解できるように報告すること、具体的なテーマに沿って心理学の諸概念や理論を修得することが目標である。

内容

第1回は、オリエンテーションで、受講者のグループ分けと各教員の内容の詳細な説明を行う。

第2回から第15回までは、グループに分かれ、教員ごとに7回ずつ演習形式で授業を行う。

各教員が扱うテーマは以下の予定である。テーマと担当教員に関する詳細は、第1回に説明する。

- A．日常生活や社会における心理臨床に関する事例について調べる
- B．発達障害に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- C．人間の知覚や認知発達に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- D．日常生活や社会における記憶の働きを扱った研究事例について調べる

この授業では、プレゼンテーションとディスカッションを中心に展開し、学びを深めていく。

評価

発表と要約資料（50点）、質疑応答・討論への参加（30点）、レポート（20点）による計100点として、総合評価60点以上を合格とする。

リアクションペーパーを用いて学びの振り返りを行い、翌週の授業時に、教員のコメントを付して返却する。

授業外学習

【事前予習】出題された課題を十分な時間をかけて準備すること（課題に対して100分）

【事後学修】他者の発表から何を理解したのかを、言語化して説明できるようにする（各授業に対して70分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書・参考書】各担当教員から、適宜、指示と助言がある。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング	KAc321		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針1、2に該当する。

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、これまでの学科の専門科目の学びを活かしながら、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

この授業はゼミナール形式の授業であり、口頭発表、グループディスカッション等を取り入れながら、学びを深めていく。

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

授業内での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100

点とし、60点以上を合格とする。

【フィードバック】 口頭発表、研究実習、グループワーク等、学生の学習活動に対して、教員が適宜評価をフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること(各授業に対して60分)

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング	KAc321		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針1、2に該当する。

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、これまでの学科の専門科目の学びを活かしながら、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

この授業はゼミナール形式の授業であり、口頭発表、グループディスカッション等を取り入れながら、学びを深めていく。

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

授業内での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100

点とし、60点以上を合格とする。

【フィードバック】 口頭発表、研究実習、グループワーク等、学生の学習活動に対して、教員が適宜評価をフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること(各授業に対して60分)

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング	KAc321		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針1、2に該当する。

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、これまでの学科の専門科目の学びを活かしながら、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

この授業はゼミナール形式の授業であり、口頭発表、グループディスカッション等を取り入れながら、学びを深めていく。

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

授業内での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100

点とし、60点以上を合格とする。

【フィードバック】 口頭発表、研究実習、グループワーク等、学生の学習活動に対して、教員が適宜評価をフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること(各授業に対して60分)

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング	KAc321		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	3	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針1、2に該当する。

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、これまでの学科の専門科目の学びを活かしながら、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

この授業はゼミナール形式の授業であり、口頭発表、グループディスカッション等を取り入れながら、学びを深めていく。

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

授業内での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100

点とし、60点以上を合格とする。

【フィードバック】 口頭発表、研究実習、グループワーク等、学生の学習活動に対して、教員が適宜評価をフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること(各授業に対して60分)

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング	KAc321		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	3	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針1、2に該当する。

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、これまでの学科の専門科目の学びを活かしながら、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

この授業はゼミナール形式の授業であり、口頭発表、グループディスカッション等を取り入れながら、学びを深めていく。

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

授業内での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100

点とし、60点以上を合格とする。

【フィードバック】 口頭発表、研究実習、グループワーク等、学生の学習活動に対して、教員が適宜評価をフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること(各授業に対して60分)

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング	KAc321		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	3	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針1、2に該当する。

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、これまでの学科の専門科目の学びを活かしながら、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

この授業はゼミナール形式の授業であり、口頭発表、グループディスカッション等を取り入れながら、学びを深めていく。

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

授業内での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100

点とし、60点以上を合格とする。

【フィードバック】 口頭発表、研究実習、グループワーク等、学生の学習活動に対して、教員が適宜評価をフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること(各授業に対して60分)

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	教員未設定		
ナンバリング	KAc321		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	3	ク ラ ス	2Gクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針1、2に該当する。

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、これまでの学科の専門科目の学びを活かしながら、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

この授業はゼミナール形式の授業であり、口頭発表、グループディスカッション等を取り入れながら、学びを深めていく。

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

授業内での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100

点とし、60点以上を合格とする。

【フィードバック】 口頭発表、研究実習、グループワーク等、学生の学習活動に対して、教員が適宜評価をフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること(各授業に対して60分)

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング	KAc321		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	3	ク ラ ス	2Hクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針1、2に該当する。

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、これまでの学科の専門科目の学びを活かしながら、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

この授業はゼミナール形式の授業であり、口頭発表、グループディスカッション等を取り入れながら、学びを深めていく。

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

授業内での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100

点とし、60点以上を合格とする。

【フィードバック】 口頭発表、研究実習、グループワーク等、学生の学習活動に対して、教員が適宜評価をフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること(各授業に対して60分)

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング	KAc321		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	3	ク ラ ス	2Jクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針1、2に該当する。

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、これまでの学科の専門科目の学びを活かしながら、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

この授業はゼミナール形式の授業であり、口頭発表、グループディスカッション等を取り入れながら、学びを深めていく。

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

授業内での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100

点とし、60点以上を合格とする。

【フィードバック】 口頭発表、研究実習、グループワーク等、学生の学習活動に対して、教員が適宜評価をフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること(各授業に対して60分)

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAc321		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	3	ク ラ ス	2Kクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針1、2に該当する。

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、これまでの学科の専門科目の学びを活かしながら、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

この授業はゼミナール形式の授業であり、口頭発表、グループディスカッション等を取り入れながら、学びを深めていく。

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

授業内での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100

点とし、60点以上を合格とする。

【フィードバック】 口頭発表、研究実習、グループワーク等、学生の学習活動に対して、教員が適宜評価をフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること(各授業に対して60分)

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KAc321		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	3	ク ラ ス	2Lクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針1、2に該当する。

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、これまでの学科の専門科目の学びを活かしながら、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

この授業はゼミナール形式の授業であり、口頭発表、グループディスカッション等を取り入れながら、学びを深めていく。

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

授業内での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100

点とし、60点以上を合格とする。

【フィードバック】 口頭発表、研究実習、グループワーク等、学生の学習活動に対して、教員が適宜評価をフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること(各授業に対して60分)

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	永作 稔		
ナンバリング	KAc321		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	3	ク ラ ス	2Mクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針1、2に該当する。

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、これまでの学科の専門科目の学びを活かしながら、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

この授業はゼミナール形式の授業であり、口頭発表、グループディスカッション等を取り入れながら、学びを深めていく。

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

授業内での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100

点とし、60点以上を合格とする。

【フィードバック】 口頭発表、研究実習、グループワーク等、学生の学習活動に対して、教員が適宜評価をフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること(各授業に対して60分)

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング	KAc321		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	2Nクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針1、2に該当する。

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、これまでの学科の専門科目の学びを活かしながら、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

この授業はゼミナール形式の授業であり、口頭発表、グループディスカッション等を取り入れながら、学びを深めていく。

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

授業内での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100

点とし、60点以上を合格とする。

【フィードバック】 口頭発表、研究実習、グループワーク等、学生の学習活動に対して、教員が適宜評価をフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること(各授業に対して60分)

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	発達心理学外書講読		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング	KAc222		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の選択専門科目であり、人間発達心理学科の学位授与方針1に該当する。発達心理学や臨床心理学の基礎を理解したうえで心理学に関する英語文献を精読する必要があるので、「発達心理学概論」「臨床心理学概論」などの科目を履修済であることがもとめられる。

科目の内容

英文で発達心理学および発達臨床心理学の文献を読む。人の発達はその人の育つ社会や文化と切り離せない。世界中で研究されている発達心理学は国によっていろいろな発達の様相を示しているが、日本語で読めるのはそのごく一部である。英語で文献を読むことによって、世界の文化のなかの多様な人の発達の姿を見ることができる。大学院進学者の受験対策も兼ねているので、大学院進学を考えている学生には受講をすすめる。

学修目標

1. 英語文献の要点を読みとることができる。
2. 英語文献の内容を理解しまとめることができる。
3. 英語文献を読むことを通し、様々な文化の中での発達の様子を知る。

内容

15回の授業を通して、発達心理学と臨床心理学に関係した文献を読む。文献は担当者が用意する。

- ・発達心理学の歴史上重要でよく知られている研究についてやさしく書かれた文を読む。
- ・臨床心理学のなかで受講学生の興味に従って文献を選び、読む。

授業は受講者が毎回指定箇所の内容をレジюмеにして発表することを中心とした演習形式の授業である。教員は受講者の発表にその場でフィードバックをし、全員で英語文献を読み進めることを通じて理解を深めていく。

評価

毎回のレジюме作成・発表 (50%)、期末試験 (50%) とし、総合得点60点以上で合格とする。

授業内でレジюме・発表の内容について講評を行う。期末試験は採点して個別に返却する。

授業外学習

【事前予習】当該箇所を事前に訳し、レジюмеにまとめてくる。(各授業に対して90分)

【事後学修】授業内での発表に対する教員のコメントを確認し、レジюмеの加筆・修正を行う。また、専門用語の定訳を整理しノートにまとめる。(各授業に対して30分)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業時に指定する。M.Cole「the development of children」, 「Atkinson & Hilgard's Introduction to Psychology」などから抜粋して読む予定。

科目名	心理学研究法		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング	KAc223		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針1に該当する。

心理学には普段の生活で感じる「心についての疑問」を、系統だてて調べる方法が確立されている。本科目ではこれらの一般的な研究方法を解説し、受講生が多様な研究法を遂行できることを目標とする。

科目の概要

心理学の方法としてよく用いられる、1)調査・質問紙法、2)実験、3)観察について解説する。

主に卒業研究を例にとり、これらの研究が「何を知りたくて、何を測り、いかに解析したか」の過程を実例から追う。毎回、授業後に短いエッセイの提出を求め、次の授業で優れたエッセイを紹介し、復習と更なる学びの材料とする。

学修目標

卒業研究に取り組むための素地を作りたい。

自らが抱く「心についての疑問」に答えを得るために、相応しい方法を探す機会を提供する。

内容

講義を中心とするが。随時、課題を設け、個人・集団で取り組みながら学びを深める。

予定講義内容

- 1: イントロダクション。心は構成概念。因果関係と相関関係
- 2: 心理学の歴史。哲学から精神物理学、近代心理学まで
- 3: 質的研究その1。観察、面接、フィールドワークの概要
- 4: 質的研究その2。時間見本法の実践
- 5: 質問紙調査その1。長所と短所。妥当性
- 6: 質問紙調査その2。回答法の選択。尺度の4水準。信頼性
- 7: 質問紙調査その3。測定誤差を減らす。質問項目の吟味
- 8: 質問紙調査その4。質問紙データの解析。妥当性と信頼性の検討
- 9: 心理学実験その1。独立変数と従属変数。参加者内/間比較
- 10: 心理学実験その2。要因と水準。統制条件。Fittsの法則実験の実習
- 11: 心理学実験その3。統計検定。帰無仮説とタイプ1・2エラー
- 12: 心理学実験その4。数字から言葉の世界へ。統計解析の考察
- 13: 振り返り1。仮説をたてる。仮説に見合った研究法の選択
- 14: 振り返り2。仮説に見合った観察・調査・実験の詳細な計画
- 15: まとめ。構成概念である心の測定は可能なのか？

評価

毎回の授業でエッセイの提出を求める。エッセイ50%と筆記試験50%を評価の対象とし、総合評価合計で60%以上を合格とする。エッセイにはコメントを付け、次回の授業で返却する。合格点に満たない場合、再試験を行うことがある。

授業外学習

【事前準備】前回講義での優れたエッセイを載せたプリントを予め配布するので、それを精読し、理解や考えを深めておく（各授業について15分）。

【事後学修】講義を通じて1)理解できたこと、2)理解できなかったことや疑問、を文章としてまとめる練習をする（各授業について15分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】

高野陽太郎，岡隆 編（2004）心理学研究法 心を見つめる科学のまなざし（有斐閣アルマ）

他の推薦図書は授業の中で、随時紹介する。

科目名	心理学研究法		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング	KAc223		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針1に該当する。

心理学には普段の生活で感じる「心についての疑問」を、系統だてて調べる方法が確立されている。本科目ではこれらの一般的な研究方法を解説し、受講生が多様な研究法を遂行できることを目標とする。

科目の概要

心理学の方法としてよく用いられる、1)調査・質問紙法、2)実験、3)観察について解説する。

主に卒業研究を例にとり、これらの研究が「何を知りたくて、何を測り、いかに解析したか」の過程を実例から追う。毎回、授業後に短いエッセイの提出を求め、次の授業で優れたエッセイを紹介し、復習と更なる学びの材料とする。

学修目標

卒業研究に取り組むための素地を作りたい。

自らが抱く「心についての疑問」に答えを得るために、相応しい方法を探す機会を提供する。

内容

講義を中心とするが。随時、課題を設け、個人・集団で取り組みながら学びを深める。

予定講義内容

- 1: イントロダクション。心は構成概念。因果関係と相関関係
- 2: 心理学の歴史。哲学から精神物理学、近代心理学まで
- 3: 質的研究その1。観察、面接、フィールドワークの概要
- 4: 質的研究その2。時間見本法の実践
- 5: 質問紙調査その1。長所と短所。妥当性
- 6: 質問紙調査その2。回答法の選択。尺度の4水準。信頼性
- 7: 質問紙調査その3。測定誤差を減らす。質問項目の吟味
- 8: 質問紙調査その4。質問紙データの解析。妥当性と信頼性の検討
- 9: 心理学実験その1。独立変数と従属変数。参加者内/間比較
- 10: 心理学実験その2。要因と水準。統制条件。Fittsの法則実験の実習
- 11: 心理学実験その3。統計検定。帰無仮説とタイプ1・2エラー
- 12: 心理学実験その4。数字から言葉の世界へ。統計解析の考察
- 13: 振り返り1。仮説をたてる。仮説に見合った研究法の選択
- 14: 振り返り2。仮説に見合った観察・調査・実験の詳細な計画
- 15: まとめ。構成概念である心の測定は可能なのか？

評価

毎回の授業でエッセイの提出を求める。エッセイ50%と筆記試験50%を評価の対象とし、総合評価合計で60%以上を合格とする。エッセイにはコメントを付け、次回の授業で返却する。合格点に満たない場合、再試験を行うことがある。

授業外学習

【事前準備】前回講義での優れたエッセイを載せたプリントを予め配布するので、それを精読し、理解や考えを深めておく（各授業について15分）。

【事後学修】講義を通じて1)理解できたこと、2)理解できなかったことや疑問、を文章としてまとめる練習をする（各授業について15分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】

高野陽太郎，岡隆 編（2004）心理学研究法 心を見つめる科学のまなざし（有斐閣アルマ）

他の推薦図書は授業の中で、随時紹介する。

科目名	心理学情報処理法		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAc125		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間発達心理学科の学位授与方針1、2に該当する。

全ての受講生が既に履修している必修科目「心理学統計法」と関連がある科目である。1年次に学んだ様々な統計的方法について、パソコンを使って実習することで、知識の定着やより深い理解を促す。

科学として心理学が成り立つためには、実験や調査などを通じて知り得たことが客観性を持った事実であることを明らかにする必要がある。そのために、心理学の研究においては統計解析が非常に重視される。また、実際の心理学の研究では、データ解析にはコンピュータやアプリケーションが用いられており、その使用は避けては通れないものである。本科目では統計的な考え方の基礎を復習しながら、パソコンを用いてデータの処理方法について学ぶ。

実際のデータをどのように処理するか、データの水準に応じてどのような解析方法を選択すべきかといった、より実践的なデータ解析と結果の整理の方法を身につけることを目標とする。分析ツールとしては、代表的な表計算ソフトであるMs-Excelを使用する。

内容

この授業は講義に加え、実習を取り入れながら、学びを深めていく。

1. ガイダンス 心理学情報処理法で何を学ぶのか
2. 尺度の水準と解析方法の選択 (質的データと量的データ)
3. グラフで表現してデータの特徴をつかもう (表とグラフの作成)
4. 統計処理の基本: 平均値、度数分布、標準偏差を計算する
5. 標本調査における平均値の信頼性区間について学ぼう
6. 2項目間の偏りを調べよう (クロス集計表と 2検定)
7. 2項目間の偏りを調べよう (クロス集計表と 2検定)
8. 2つの平均値に差があるか調べよう: 対応のない t 検定
9. 2つの平均値に差があるか調べよう: 対応のある t 検定
10. 2項目間の関連を調べよう (相関係数)
11. 3つ以上のグループ間に差があるか調べよう: 一元配置分散分析
12. どこの組み合わせに差がある?: 分散分析後の多重比較
13. 調査データの集計・分析
14. 調査データの集計・分析
15. 調査データの集計・分析

評価

レポート50点+授業内での課題50点によって評価を行い、60点以上を合格とする。実習を含む科目なので、毎回の授

業に出席すること。出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。

【フィードバック】授業内に行なう課題の成績のフィードバックについては授業終了時までに行なう。また、課題の中で誤りが多い点については授業内で再度説明し、理解を深める。

授業外学習

【事前予習】実習する統計手法についてテキストや配布資料をよく読み、統計的处理に必要なエクセルの操作を予習する(各授業に対して30分)

【事後学修】毎週、授業の最初に前回実習した統計手法について課題を出すので、配布資料やテキストなどを使って復習し、授業内での課題に備える(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業開始時に指定する。

科目名	心理学情報処理法		
担当教員名	山下 倫実、奥村 基生		
ナンバリング	KAc125		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間発達心理学科の学位授与方針1、2に該当する。

全ての受講生が既に履修している必修科目「心理学統計法」と関連がある科目である。1年次に学んだ様々な統計的方法について、パソコンを使って実習することで、知識の定着やより深い理解を促す。

科学として心理学が成り立つためには、実験や調査などを通じて知り得たことが客観性を持った事実であることを明らかにする必要がある。そのために、心理学の研究においては統計解析が非常に重視される。また、実際の心理学の研究では、データ解析にはコンピュータやアプリケーションが用いられており、その使用は避けては通れないものである。本科目では統計的な考え方の基礎を復習しながら、パソコンを用いてデータの処理方法について学ぶ。

実際のデータをどのように処理するか、データの水準に応じてどのような解析方法を選択すべきかといった、より実践的なデータ解析と結果の整理の方法を身につけることを目標とする。分析ツールとしては、代表的な表計算ソフトであるMs-Excelを使用する。

内容

この授業は講義に加え、実習を取り入れながら、学びを深めていく。

1. ガイダンス 心理学情報処理法で何を学ぶのか
2. 尺度の水準と解析方法の選択 (質的データと量的データ)
3. グラフで表現してデータの特徴をつかもう (表とグラフの作成)
4. 統計処理の基本: 平均値、度数分布、標準偏差を計算する
5. 標本調査における平均値の信頼性区間について学ぼう
6. 2項目間の偏りを調べよう (クロス集計表と 2検定)
7. 2項目間の偏りを調べよう (クロス集計表と 2検定)
8. 2つの平均値に差があるか調べよう: 対応のない t 検定
9. 2つの平均値に差があるか調べよう: 対応のある t 検定
10. 2項目間の関連を調べよう (相関係数)
11. 3つ以上のグループ間に差があるか調べよう: 一元配置分散分析
12. どこの組み合わせに差がある?: 分散分析後の多重比較
13. 調査データの集計・分析
14. 調査データの集計・分析
15. 調査データの集計・分析

評価

レポート50点+授業内での課題50点によって評価を行い、60点以上を合格とする。実習を含む科目なので、毎回の授

業に出席すること。出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。

【フィードバック】授業内に行なう課題の成績のフィードバックについては授業終了時までに行なう。また、課題の中で誤りが多い点については授業内で再度説明し、理解を深める。

授業外学習

【事前予習】実習する統計手法についてテキストや配布資料をよく読み、統計的处理に必要なエクセルの操作を予習する(各授業に対して30分)

【事後学修】毎週、授業の最初に前回実習した統計手法について課題を出すので、配布資料やテキストなどを使って復習し、授業内での課題に備える(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業開始時に指定する。

科目名	心理学情報処理法		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAc125		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間発達心理学科の学位授与方針1、2に該当する。

全ての受講生が既に履修している必修科目「心理学統計法」と関連がある科目である。1年次に学んだ様々な統計的方法について、パソコンを使って実習することで、知識の定着やより深い理解を促す。

科学として心理学が成り立つためには、実験や調査などを通じて知り得たことが客観性を持った事実であることを明らかにする必要がある。そのために、心理学の研究においては統計解析が非常に重視される。また、実際の心理学の研究では、データ解析にはコンピュータやアプリケーションが用いられており、その使用は避けては通れないものである。本科目では統計的な考え方の基礎を復習しながら、パソコンを用いてデータの処理方法について学ぶ。

実際のデータをどのように処理するか、データの水準に応じてどのような解析方法を選択すべきかといった、より実践的なデータ解析と結果の整理の方法を身につけることを目標とする。分析ツールとしては、代表的な表計算ソフトであるMs-Excelを使用する。

内容

この授業は講義に加え、実習を取り入れながら、学びを深めていく。

1. ガイダンス 心理学情報処理法で何を学ぶのか
2. 尺度の水準と解析方法の選択 (質的データと量的データ)
3. グラフで表現してデータの特徴をつかもう (表とグラフの作成)
4. 統計処理の基本: 平均値、度数分布、標準偏差を計算する
5. 標本調査における平均値の信頼性区間について学ぼう
6. 2項目間の偏りを調べよう (クロス集計表と 2検定)
7. 2項目間の偏りを調べよう (クロス集計表と 2検定)
8. 2つの平均値に差があるか調べよう: 対応のない t 検定
9. 2つの平均値に差があるか調べよう: 対応のある t 検定
10. 2項目間の関連を調べよう (相関係数)
11. 3つ以上のグループ間に差があるか調べよう: 一元配置分散分析
12. どこの組み合わせに差がある?: 分散分析後の多重比較
13. 調査データの集計・分析
14. 調査データの集計・分析
15. 調査データの集計・分析

評価

レポート50点+授業内での課題50点によって評価を行い、60点以上を合格とする。実習を含む科目なので、毎回の授

業に出席すること。出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。

【フィードバック】授業内に行なう課題の成績のフィードバックについては授業終了時までに行なう。また、課題の中で誤りが多い点については授業内で再度説明し、理解を深める。

授業外学習

【事前予習】実習する統計手法についてテキストや配布資料をよく読み、統計的处理に必要なエクセルの操作を予習する(各授業に対して30分)

【事後学修】毎週、授業の最初に前回実習した統計手法について課題を出すので、配布資料やテキストなどを使って復習し、授業内での課題に備える(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業開始時に指定する。

科目名	心理学情報処理法		
担当教員名	山下 倫実、奥村 基生		
ナンバリング	KAc125		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間発達心理学科の学位授与方針1、2に該当する。

全ての受講生が既に履修している必修科目「心理学統計法」と関連がある科目である。1年次に学んだ様々な統計的方法について、パソコンを使って実習することで、知識の定着やより深い理解を促す。

科学として心理学が成り立つためには、実験や調査などを通じて知り得たことが客観性を持った事実であることを明らかにする必要がある。そのために、心理学の研究においては統計解析が非常に重視される。また、実際の心理学の研究では、データ解析にはコンピュータやアプリケーションが用いられており、その使用は避けては通れないものである。本科目では統計的な考え方の基礎を復習しながら、パソコンを用いてデータの処理方法について学ぶ。

実際のデータをどのように処理するか、データの水準に応じてどのような解析方法を選択すべきかといった、より実践的なデータ解析と結果の整理の方法を身につけることを目標とする。分析ツールとしては、代表的な表計算ソフトであるMs-Excelを使用する。

内容

この授業は講義に加え、実習を取り入れながら、学びを深めていく。

1. ガイダンス 心理学情報処理法で何を学ぶのか
2. 尺度の水準と解析方法の選択 (質的データと量的データ)
3. グラフで表現してデータの特徴をつかもう (表とグラフの作成)
4. 統計処理の基本: 平均値、度数分布、標準偏差を計算する
5. 標本調査における平均値の信頼性区間について学ぼう
6. 2項目間の偏りを調べよう (クロス集計表と 2検定)
7. 2項目間の偏りを調べよう (クロス集計表と 2検定)
8. 2つの平均値に差があるか調べよう: 対応のない t 検定
9. 2つの平均値に差があるか調べよう: 対応のある t 検定
10. 2項目間の関連を調べよう (相関係数)
11. 3つ以上のグループ間に差があるか調べよう: 一元配置分散分析
12. どこの組み合わせに差がある?: 分散分析後の多重比較
13. 調査データの集計・分析
14. 調査データの集計・分析
15. 調査データの集計・分析

評価

レポート50点+授業内での課題50点によって評価を行い、60点以上を合格とする。実習を含む科目なので、毎回の授

業に出席すること。出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。

【フィードバック】授業内に行なう課題の成績のフィードバックについては授業終了時までに行なう。また、課題の中で誤りが多い点については授業内で再度説明し、理解を深める。

授業外学習

【事前予習】実習する統計手法についてテキストや配布資料をよく読み、統計的处理に必要なエクセルの操作を予習する(各授業に対して30分)

【事後学修】毎週、授業の最初に前回実習した統計手法について課題を出すので、配布資料やテキストなどを使って復習し、授業内での課題に備える(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業開始時に指定する。

科目名	データ解析法		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング	KAc428		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針「1. 心理学的な研究方法から得られた実証的なデータに基づいて、人間、及び人間の発達に対する多面的な見方ができる」、「2. 心理学における基本的な論や概念できる」に該当する専門科目であり、研究法・実習科目の1つである。履修にあたり、統計の基礎知識がもとめられるので、心理統計法、心理学情報処理法の単位取得済みであることが必要である。

統計解析ソフトSPSSを用いた実習を通して、実験や調査で収集されたデータの集計、解析方法を学習する。統計解析専門ソフトをいかした、より複雑な分析方法として、多変量解析の1つである因子分析の実施方法も学習する。PC実習室を使用するため、希望者多数の場合は初回の授業で選考を行う。

学修目標

- ・ SPSSの使用方法をマスターする。
- ・ データの性質に応じた適切な分析方法の選択、分析結果の読み方、解釈の仕方を身につける。

内容

SPSSを用いて以下の分析方法について学習する。練習問題などでSPSSの操作方法を学習した後に、その技術をいかして実際のデータの集計・分析を行う形で授業を進めていく予定である。

- (1) SPSSの基本操作
- (2) データの整理・要約 (平均値と標準偏差)
- (3) 質的データの集計 (単純集計と標準偏差)
- (4) 新しい変数の生成
- (5) 統計的検定: 質的データの検定 (2検定)
- (6) 2つの平均値の差の検定 (t検定)
- (7) 相関係数
- (8) 分散分析
- (9) 心理尺度の処理
- (10) 多変量解析 (因子分析)

評価

期末レポート50点、中間テスト30点、授業内の課題10点、平常点10点により評価を行う。60点以上を合格とする。中間テスト、授業内の課題は添削の上返却する。

授業外学習

【事前予習】授業でとりあげる統計手法に関して、心理統計法のテキストを使って調べ予習をしてくる。(60分)

【事後学修】授業で実習した統計手法について課題を出すので、それを行う。(60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しない。資料を配布する。

【参考図書】小塩真司 (2018). 「SPSSとAMOSによる心理・調査データ解析」第3版 東京図書

科目名	データ解析法		
担当教員名	中江 須美子		
ナンバリング	KAc428		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針1.2に該当する。

本科目は、人間発達心理学科の専門科目であり、研究法・実習科目の1つである。履修にあたり、統計の基礎知識が求められるので、心理統計法、心理学情報処理法の単位取得済みであることが必要である。

科目の概要

統計解析ソフトSPSSを用いた実習を通して、実験や調査で収集されたデータの集計、解析方法を学習する。統計解析専門ソフトをいかした、より複雑な分析方法として、多変量解析の1つである因子分析の実施方法も学習する。PC実習室を使用するため、希望者多数の場合は初回の授業で選考を行う。

学修目標

- ・ SPSSの使用方法をマスターする。
- ・ データの性質に応じた適切な分析方法の選択、分析結果の読み方、解釈の仕方を身につける。

内容

SPSSを用いて以下の分析方法について学習する。練習問題などでSPSSの操作方法を学習した後に、その技術をいかして実際のデータの集計・分析を行う形で授業を進めていく予定である。

- (1) SPSSの基本操作
- (2) データの整理・要約 (平均値と標準偏差)
- (3) 質的データの集計 (単純集計と標準偏差)
- (4) 新しい変数の生成
- (5) 統計的検定: 質的データの検定 (2検定)
- (6) 2つの平均値の差の検定 (t検定)
- (7) 相関係数
- (8) 分散分析
- (9) 心理尺度の処理
- (10) 多変量解析 (因子分析)

評価

期末レポート50点、中間テスト30点、授業内の課題10点、平常点10点により評価を行う。総合評価60点以上を合格とする。中間テスト、授業内の課題は添削の上返却する。期末レポートについては成績をもってフィードバックとする。

授業外学習

【事前準備】授業でとりあげる統計手法に関して、心理統計法のテキストなどを使って調べ予習をしてくる。（各授業に対して60分）

【事後学修】実習した統計手法について課題を出すので、それを行う。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業開始後に指定する。必要に応じて資料を配布する。

科目名	心理学実験演習		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング	KAc329		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

? 間発達? 理学科の学位授与? 針1、2に該当する。

心理学研究法・実習科目 (選択必修科目) のひとつ「実験」について学ぶ。

実験を作成する技法として、Power Point や Visual Basic (簡易プログラミング) を通して、心理学実験の刺激作成・実施に関するスキルを身につける。単に技法を習得するだけでなく、実験プログラムの作成を通して、実験デザインを理解すると同時に、研究を「論理的に組み立てる」力を習得する。

科目の概要

- ・実験デザイン (設計、刺激の作成、データの種類の収集法など) について学ぶ
- ・自ら被験者となって、さまざまな心理学実験 (コンピュータ制御による実験) を体験する
- ・自ら作成した実験プログラムを用いて、データの収集、解析、考察を行う

学修目標

- ・「心理学実験」に慣れ親しむ・「プログラミング」に慣れ親しむ
- ・ものごとを論理的に考える・組み立てる力を身につける
- ・心理学的な視点 (問題・仮説を設定する力) を身につける
- ・実験をデザインする力 (科学的に検証する力 = 分析スキル) を身につける
- ・実験結果を報告する力 (レポート・論文における文章作成能力) を身につける

内容

演習形式 (実験デザイン・刺激の作成、分析、レポート作成等) を通して理解を深める。

基本的な操作から、実験プログラムの作成まで、順を追って、プログラミングの技法を習得する。

習得過程において、学生は自らが実験者および被験者となり、体験を通して心理学実験のあり方を学ぶ。

- 1 ガイダンス：研究の手順は、料理の手順と似ている!?
- 2 Visual Basicの基本操作法
- 3 Visual Basicの基本操作 描いてみよう
- 4 Visual Basicの基本操作 プロパティを使いこなす
- 5 Visual Basicの基本操作 メソッドを使ってみよう
- 6 実験してみよう
- 7 Visual Basicの基本操作 変数の設定、ユーザー定義プロシージャ
- 8 Visual Basicの基本操作 条件文、乱数
- 9 Visual Basicの基本操作 繰り返し文、配列
- 10 実験してみよう
- 11 実験プログラムを制御するために 配列のランダム化
- 12 実験プログラムを制御するために キー押し反応

- 13 実験プログラムを制御するために 時間制御
- 14 実験プログラムを制御するために データの記録・ファイルの保存
- 15 実験してみよう

受講者数および授業の進捗状況により、実験内容およびスケジュールは若干変更することがある。

評価

基礎課題（総合評価の30%）、応用課題（総合評価の50%）、実験レポート・発表等（総合評価の20%）をあわせて、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業ごとに提示された調べものなどの課題に取り組む（30分程度）

【事後学修】授業ごとに提示された練習問題や提出課題に取り組む（40分程度）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。授業ごとに配布プリントを用意する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）は授業時に適宜紹介する。

科目名	調査法		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング	KAc330		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針「1. 心理学的な研究方法から得られた実証的なデータに基づいて、人間、及び人間の発達に対する多面的な見方ができる」、「2. 心理学における基本的な理論や概念を理解できる」に該当する。4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を身につけることを目的とする。

科目の概要

質問紙を使った調査法は、実験法や観察法などと並び、心理学の研究において頻繁に用いられる重要な研究方法の1つである。調査法の特徴として、多数の調査協力者に質問紙に回答してもらい、得られたデータを統計的に処理し、一般的傾向を導き出そうとする点が挙げられる。本実習では、小グループに分かれて、調査テーマの設定、質問紙の作成・実施、収集したデータの集計と統計解析、調査結果に関する報告書の作成という調査研究の一連の流れを体験し、その習得を目指す。

学修目標

質問紙調査の技法を身につける。また、調査テーマに関わる心理特性を的確に測定するための心理尺度項目を作成することによって、心理学研究で扱う抽象的な概念をどのように測定するかについても理解する。

内容

この授業では、テキストに基づく演習と心理尺度を含む調査用紙作成の実習を並行して行なう。小グループに分かれて、テキストの購読発表をした後、グループごとに調査テーマを設定し、それを測定する尺度項目、調査用紙を作成の上、実際に調査を実施し、得られたデータを分析する。

1. 質問紙調査法の概要
2. 標本抽出の方法
3. 調査テーマの設定
4. 心理尺度項目の作成 (1)
5. 心理尺度項目の作成 (2)
6. 心理尺度項目の概念妥当性を検討する方法
7. 心理尺度項目に関する調査用紙の作成 (1)
8. 心理尺度項目に関する調査用紙の作成 (2)
9. 心理尺度項目に関する調査の実施
10. データの整理方法
11. データ分析 (1) 心理尺度の項目分析
12. データ分析 (2) 尺度の信頼性・妥当性の検討
13. データ分析 (3) 心理尺度の得点化
14. データ解析 (4) 仮説の検討 (相関分析、t検定、分散分析など)
15. レポート作成ガイダンス

この授業では統計的処理を行なうが、統計を学ぶ授業ではなく、統計を使って処理をすることを目的とした授業である。各自統計の復習をしながら、授業に参加してほしい。

評価

最終レポート60%+授業への参加状況40%で評価し、60点以上を合格とする。実習を含む授業なので、出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。調査項目の設定、調査用紙の作成の仕方、データ分析のやり方について授業内で適否をフィードバックする。グループで作業を行うことが多くなるので、欠席や非協力的な態度などで、他のメンバーに迷惑をかけないようにすること。

授業外学習

【事前予習】WordやExcel等の基本的な操作方法の確認を行なうこと。基本的に、統計的処理の基本は理解しているものとして授業を進めるため、心理統計法のテキストなどを復習してくること。(60分)【事後学修】授業内で行なった作業(質問項目の選定、データセット作成等)について、次の授業の際に不足がないよう、授業資料や作成したファイルを振り返り、要点をまとめておくこと。(60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】鎌原雅彦他 『心理学マニュアル 質問紙法』 北大路書房

* 受講者選考後、購入の方法については授業中に説明する

科目名	調査法		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAc330		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針「 1 . 心理学的な研究方法から得られた実証的なデータに基づいて、人間、及び人間の発達に対する多面的な見方ができる」、「 2 . 心理学における基本的な理論や概念を理解できる」に該当する。4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を身につけることを目的とする。

科目の概要

質問紙を使った調査法は、実験法や観察法などと並び、心理学の研究において頻繁に用いられる重要な研究方法の1つである。調査法の特徴として、多数の調査協力者に質問紙に回答してもらい、得られたデータを統計的に処理し、一般的傾向を導き出そうとする点が挙げられる。本実習では、小グループに分かれて、調査テーマの設定、質問紙の作成・実施、収集したデータの集計と統計解析、調査結果に関する報告書の作成という調査研究の一連の流れを体験し、その習得を目指す。

学修目標

質問紙調査の技法を身につける。また、調査テーマに関わる心理特性を的確に測定するための心理尺度項目を作成することによって、心理学研究で扱う抽象的な概念をどのように測定するかについても理解する。

内容

この授業では、テキストに基づく演習と心理尺度を含む調査用紙作成の実習を並行して行なう。小グループに分かれて、テキストの購読発表をした後、グループごとに調査テーマを設定し、それを測定する尺度項目、調査用紙を作成の上、実際に調査を実施し、得られたデータを分析する。

1. 質問紙調査法の概要
2. 標本抽出の方法
3. 調査テーマの設定
4. 心理尺度項目の作成 (1)
5. 心理尺度項目の作成 (2)
6. 心理尺度項目の概念妥当性を検討する方法
7. 心理尺度項目に関する調査用紙の作成 (1)
8. 心理尺度項目に関する調査用紙の作成 (2)
9. 心理尺度項目に関する調査の実施
10. データの整理方法
11. データ分析 (1) 心理尺度の項目分析
12. データ分析 (2) 尺度の信頼性・妥当性の検討
13. データ分析 (3) 心理尺度の得点化
14. データ解析 (4) 仮説の検討 (相関分析、t検定、分散分析など)
15. レポート作成ガイダンス

この授業では統計的処理を行なうが、統計を学ぶ授業ではなく、統計を使って処理をすることを目的とした授業である。各自統計の復習をしながら、授業に参加してほしい。

評価

最終レポート60%+授業への参加状況40%で評価し、60点以上を合格とする。実習を含む授業なので、出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。調査項目の設定、調査用紙の作成の仕方、データ分析のやり方について授業内で適否をフィードバックする。グループで作業を行うことが多くなるので、欠席や非協力的な態度などで、他のメンバーに迷惑をかけないようにすること。

授業外学習

【事前予習】WordやExcel等の基本的な操作方法の確認を行なうこと。基本的に、統計的処理の基本は理解しているものとして授業を進めるため、心理統計法のテキストなどを復習してくること。(60分)【事後学修】授業内で行なった作業(質問項目の選定、データセット作成等)について、次の授業の際に不足がないよう、授業資料や作成したファイルを振り返り、要点をまとめておくこと。(60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】鎌原雅彦他 『心理学マニュアル 質問紙法』 北大路書房

* 受講者選考後、購入の方法については授業中に説明する

科目名	調査法		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KAc330		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針「1. 心理学的な研究方法から得られた実証的なデータに基づいて、人間、及び人間の発達に対する多面的な見方ができる」、「2. 心理学における基本的な理論や概念を理解できる」に該当する。4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を身につけることを目的とする。

科目の概要

質問紙を使った調査法は、実験法や観察法などと並び、心理学の研究において頻繁に用いられる重要な研究方法の1つである。調査法の特徴として、多数の調査協力者に質問紙に回答してもらい、得られたデータを統計的に処理し、一般的傾向を導き出そうとする点が挙げられる。本実習では、小グループに分かれて、調査テーマの設定、質問紙の作成・実施、収集したデータの集計と統計解析、調査結果に関する報告書の作成という調査研究の一連の流れを体験し、その習得を目指す。

学修目標

質問紙調査の技法を身につける。また、調査テーマに関わる心理特性を的確に測定するための心理尺度項目を作成することによって、心理学研究で扱う抽象的な概念をどのように測定するかについても理解する。

内容

この授業では、テキストに基づく演習と心理尺度を含む調査用紙作成の実習を並行して行なう。小グループに分かれて、テキストの購読発表をした後、グループごとに調査テーマを設定し、それを測定する尺度項目、調査用紙を作成の上、実際に調査を実施し、得られたデータを分析する。。

1. 質問紙調査法の概要
2. 標本抽出の方法
3. 調査テーマの設定
4. 心理尺度項目の作成 (1)
5. 心理尺度項目の作成 (2)
6. 心理尺度項目の概念妥当性を検討する方法
7. 心理尺度項目に関する調査用紙の作成 (1)
8. 心理尺度項目に関する調査用紙の作成 (2)
9. 心理尺度項目に関する調査の実施
10. データの整理方法
11. データ分析 (1) 心理尺度の項目分析
12. データ分析 (2) 尺度の信頼性・妥当性の検討
13. データ分析 (3) 心理尺度の得点化
14. データ解析 (4) 仮説の検討 (相関分析、t検定、分散分析など)
15. レポート作成ガイダンス

この授業では統計的処理を行なうが、統計を学ぶ授業ではなく、統計を使って処理をすることを目的とした授業である。各自統計の復習をしながら、授業に参加してほしい。

評価

最終レポート60%+授業への参加状況40%で評価し、60点以上を合格とする。実習を含む授業なので、出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。調査項目の設定、調査用紙の作成の仕方、データ分析のやり方について授業内で適否をフィードバックする。グループで作業を行うことが多くなるので、欠席や非協力的な態度などで、他のメンバーに迷惑をかけないようにすること。

授業外学習

【事前予習】WordやExcel等の基本的な操作方法の確認を行なうこと。基本的に、統計的処理の基本は理解しているものとして授業を進めるため、心理統計法のテキストなどを復習してくること。(60分)【事後学修】授業内で行なった作業(質問項目の選定、データセット作成等)について、次の授業の際に不足がないよう、授業資料や作成したファイルを振り返り、要点をまとめておくこと。(60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】鎌原雅彦他 『心理学マニュアル 質問紙法』 北大路書房

* 受講者選考後、購入の方法については授業中に説明する

科目名	調査法		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング	KAc330		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針「1. 心理学的な研究方法から得られた実証的なデータに基づいて、人間、及び人間の発達に対する多面的な見方ができる」、「2. 心理学における基本的な理論や概念を理解できる」に該当する。4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を身につけることを目的とする。

科目の概要

質問紙を使った調査法は、実験法や観察法などと並び、心理学の研究において頻繁に用いられる重要な研究方法の1つである。調査法の特徴として、多数の調査協力者に質問紙に回答してもらい、得られたデータを統計的に処理し、一般的傾向を導き出そうとする点が挙げられる。本実習では、小グループに分かれて、調査テーマの設定、質問紙の作成・実施、収集したデータの集計と統計解析、調査結果に関する報告書の作成という調査研究の一連の流れを体験し、その習得を目指す。

学修目標

質問紙調査の技法を身につける。また、調査テーマに関わる心理特性を的確に測定するための心理尺度項目を作成することによって、心理学研究で扱う抽象的な概念をどのように測定するかについても理解する。

内容

この授業では、テキストに基づく演習と心理尺度を含む調査用紙作成の実習を並行して行なう。小グループに分かれて、テキストの購読発表をした後、グループごとに調査テーマを設定し、それを測定する尺度項目、調査用紙を作成の上、実際に調査を実施し、得られたデータを分析する。

1. 質問紙調査法の概要
2. 標本抽出の方法
3. 調査テーマの設定
4. 心理尺度項目の作成 (1)
5. 心理尺度項目の作成 (2)
6. 心理尺度項目の概念妥当性を検討する方法
7. 心理尺度項目に関する調査用紙の作成 (1)
8. 心理尺度項目に関する調査用紙の作成 (2)
9. 心理尺度項目に関する調査の実施
10. データの整理方法
11. 尺度の信頼性・妥当性の検討
12. 項目分析の方法
13. 仮説の検討例 (相関分析、 χ^2 検定など)
14. 仮説の検討例 (t検定、分散分析など)
15. レポート作成ガイダンス

この授業では統計的処理を行なうが、統計を学ぶ授業ではなく、統計を使って処理をすることを目的とした授業である。各自統計の復習をしながら、授業に参加してほしい。

評価

授業中の課題40点、最終レポート60点で評価し、60点以上を合格とする。実習を含む授業なので、出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。特に、グループで作業を行うことが多くなるので、欠席や非協力的な態度などで、他のメンバーに迷惑をかけないようにすること。

授業外学習

【事前予習】WordやExcel等の基本的な操作方法の確認を行なうこと。基本的に、統計的処理の基本は理解しているものとして授業を進めるため、心理統計法のテキストなどを復習してくること。(60分)【事後学修】授業内で行なった作業(質問項目の選定、データセット作成等)について、次の授業の際に不足がないよう、授業資料や作成したファイルを振り返り、要点をまとめておくこと。(60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】鎌原雅彦他 『心理学マニュアル 質問紙法』 北大路書房

* 受講者選考後、購入の方法については授業中に説明する

科目名	調査法		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAc330		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針「1. 心理学的な研究方法から得られた実証的なデータに基づいて、人間、及び人間の発達に対する多面的な見方ができる」、「2. 心理学における基本的な理論や概念を理解できる」に該当する。4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を身につけることを目的とする。

科目の概要

質問紙を使った調査法は、実験法や観察法などと並び、心理学の研究において頻繁に用いられる重要な研究方法の1つである。調査法の特徴として、多数の調査協力者に質問紙に回答してもらい、得られたデータを統計的に処理し、一般的傾向を導き出そうとする点が挙げられる。本実習では、小グループに分かれて、調査テーマの設定、質問紙の作成・実施、収集したデータの集計と統計解析、調査結果に関する報告書の作成という調査研究の一連の流れを体験し、その習得を目指す。

学修目標

質問紙調査の技法を身につける。また、調査テーマに関わる心理特性を的確に測定するための心理尺度項目を作成することによって、心理学研究で扱う抽象的な概念をどのように測定するかについても理解する。

内容

この授業では、テキストに基づく演習と心理尺度を含む調査用紙作成の実習を並行して行なう。小グループに分かれて、テキストの購読発表をした後、グループごとに調査テーマを設定し、それを測定する尺度項目、調査用紙を作成の上、実際に調査を実施し、得られたデータを分析する。。

1. 質問紙調査法の概要
2. 標本抽出の方法
3. 調査テーマの設定
4. 心理尺度項目の作成 (1)
5. 心理尺度項目の作成 (2)
6. 心理尺度項目の概念妥当性を検討する方法
7. 心理尺度項目に関する調査用紙の作成 (1)
8. 心理尺度項目に関する調査用紙の作成 (2)
9. 心理尺度項目に関する調査の実施
10. データの整理方法
11. データ分析 (1) 心理尺度の項目分析
12. データ分析 (2) 尺度の信頼性・妥当性の検討
13. データ分析 (3) 心理尺度の得点化
14. データ解析 (4) 仮説の検討 (相関分析、t検定、分散分析など)
15. レポート作成ガイダンス

この授業では統計的処理を行なうが、統計を学ぶ授業ではなく、統計を使って処理をすることを目的とした授業である。各自統計の復習をしながら、授業に参加してほしい。

評価

最終レポート60%+授業への参加状況40%で評価し、60点以上を合格とする。実習を含む授業なので、出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。調査項目の設定、調査用紙の作成の仕方、データ分析のやり方について授業内で適否をフィードバックする。グループで作業を行うことが多くなるので、欠席や非協力的な態度などで、他のメンバーに迷惑をかけないようにすること。

授業外学習

【事前予習】WordやExcel等の基本的な操作方法の確認を行なうこと。基本的に、統計的処理の基本は理解しているものとして授業を進めるため、心理統計法のテキストなどを復習してくること。(60分)【事後学修】授業内で行なった作業(質問項目の選定、データセット作成等)について、次の授業の際に不足がないよう、授業資料や作成したファイルを振り返り、要点をまとめておくこと。(60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】鎌原雅彦他 『心理学マニュアル 質問紙法』 北大路書房

* 受講者選考後、購入の方法については授業中に説明する

科目名	調査法		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KAc330		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針「1. 心理学的な研究方法から得られた実証的なデータに基づいて、人間、及び人間の発達に対する多面的な見方ができる」、「2. 心理学における基本的な理論や概念を理解できる」に該当する。4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を身につけることを目的とする。

科目の概要

質問紙を使った調査法は、実験法や観察法などと並び、心理学の研究において頻繁に用いられる重要な研究方法の1つである。調査法の特徴として、多数の調査協力者に質問紙に回答してもらい、得られたデータを統計的に処理し、一般的傾向を導き出そうとする点が挙げられる。本実習では、小グループに分かれて、調査テーマの設定、質問紙の作成・実施、収集したデータの集計と統計解析、調査結果に関する報告書の作成という調査研究の一連の流れを体験し、その習得を目指す。

学修目標

質問紙調査の技法を身につける。また、調査テーマに関わる心理特性を的確に測定するための心理尺度項目を作成することによって、心理学研究で扱う抽象的な概念をどのように測定するかについても理解する。

内容

この授業では、テキストに基づく演習と心理尺度を含む調査用紙作成の実習を並行して行なう。小グループに分かれて、テキストの購読発表をした後、グループごとに調査テーマを設定し、それを測定する尺度項目、調査用紙を作成の上、実際に調査を実施し、得られたデータを分析する。

1. 質問紙調査法の概要
2. 標本抽出の方法
3. 調査テーマの設定
4. 心理尺度項目の作成 (1)
5. 心理尺度項目の作成 (2)
6. 心理尺度項目の概念妥当性を検討する方法
7. 心理尺度項目に関する調査用紙の作成 (1)
8. 心理尺度項目に関する調査用紙の作成 (2)
9. 心理尺度項目に関する調査の実施
10. データの整理方法
11. データ分析 (1) 心理尺度の項目分析
12. データ分析 (2) 尺度の信頼性・妥当性の検討
13. データ分析 (3) 心理尺度の得点化
14. データ解析 (4) 仮説の検討 (相関分析、t検定、分散分析など)
15. レポート作成ガイダンス

この授業では統計的処理を行なうが、統計を学ぶ授業ではなく、統計を使って処理をすることを目的とした授業である。各自統計の復習をしながら、授業に参加してほしい。

評価

最終レポート60%+授業への参加状況40%で評価し、60点以上を合格とする。実習を含む授業なので、出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。調査項目の設定、調査用紙の作成の仕方、データ分析のやり方について授業内で適否をフィードバックする。グループで作業を行うことが多くなるので、欠席や非協力的な態度などで、他のメンバーに迷惑をかけないようにすること。

授業外学習

【事前予習】WordやExcel等の基本的な操作方法の確認を行なうこと。基本的に、統計的処理の基本は理解しているものとして授業を進めるため、心理統計法のテキストなどを復習してくること。(60分)【事後学修】授業内で行なった作業(質問項目の選定、データセット作成等)について、次の授業の際に不足がないよう、授業資料や作成したファイルを振り返り、要点をまとめておくこと。(60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】鎌原雅彦他 『心理学マニュアル 質問紙法』 北大路書房

* 受講者選考後、購入の方法については授業中に説明する

科目名	面接法		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング	KAc331		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針の1、2に該当する。

本科目は、学科専門科目における研究法・実習科目の科目である。本科目は心理学的研究法の1つである面接法について、文献や実習体験をもとに理解や知識を身につける。「心理学研究法」「観察法」「実験計画法」「調査法」などと関連がある。

科目の概要

面接法には、臨床的面接法と調査的面接法があり、本科目はとくに後者の調査的面接法 (research interview) を取り上げ、他のデータ収集法と比較して、どのような特性があり、どのような利点と課題をもっているかを学ぶ。面接におけるデータとは、面接者から面接対象者への質問に対する回答およびそれらにかかわる情報のことである。このことを手がかりにして、4年次の卒業研究において各自の研究テーマにおける分析や方法の一つとして繋げていく科目でもある。

学修目標 (= 到達目標)

面接法 (とくに「調査的面接法」) の持つ特徴や利点、課題について理解する。

面接法に関する諸技法を理解し身につける。

調査テーマに関して、面接法を用いた研究計画を立案、実施できる。

内容

本講義は、意見交換・発表などグループワークやディスカッションを主とする講義形態をとる。そのため、受講生には積極的な参加態度を求める。

1	オリエンテーション
2	調査的面接法とはなにか / 調査的面接法の分類
3	調査的面接法のデザイン
4	調査的面接に必要な技法
5	調査的面接の実施手順とガイドライン
6	面接法におけるデータ整理方法
7	面接法における倫理的配慮
8	調査テーマの設定
9	シナリオの作成、調査準備
10	面接調査の実施
11	調査結果の分析(1)トランスクリプト
12	調査結果の分析(2)概念抽出と整理
13	調査結果の考察(3)内容分析、仮説の検証
14	分析結果の発表
15	まとめ

評価

授業中の参加態度や提出物（40%）、発表内容（60%）により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。
毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】教科書（テキスト）をもとに、事前に指示した課題に取り組む。（各授業に対して60分）

【事後学修】自他の発表をフィードバックし、理解に対する「ふりかえり」を行う。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】鈴木淳子 調査的面接法の技法【第2版】 ナカニシヤ出版 2002

科目名	面接法		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング	KAc331		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針の1、2に該当する。

本科目は、学科専門科目における研究法・実習科目の科目である。本科目は心理学的研究法の1つである面接法について、文献や実習体験をもとに理解や知識を身につける。「心理学研究法」「観察法」「実験計画法」「調査法」などと関連がある。

科目の概要

面接法には、臨床的面接法と調査的面接法があり、本科目はとくに後者の調査的面接法 (research interview) を取り上げ、他のデータ収集法と比較して、どのような特性があり、どのような利点と課題をもっているかを学ぶ。面接におけるデータとは、面接者から面接対象者への質問に対する回答およびそれらにかかわる情報のことである。このことを手がかりにして、4年次の卒業研究において各自の研究テーマにおける分析や方法の一つとして繋げていく科目でもある。

学修目標 (= 到達目標)

面接法 (とくに「調査的面接法」) の持つ特徴や利点、課題について理解する。

面接法に関する諸技法を理解し身につける。

調査テーマに関して、面接法を用いた研究計画を立案、実施できる。

内容

本講義は、意見交換・発表などグループワークやディスカッションを主とする講義形態をとる。そのため、受講生には積極的な参加態度を求める。

1	オリエンテーション
2	調査的面接法とはなにか / 調査的面接法の分類
3	調査的面接法のデザイン
4	調査的面接に必要な技法
5	調査的面接の実施手順とガイドライン
6	面接法におけるデータ整理方法
7	面接法における倫理的配慮
8	調査テーマの設定
9	シナリオの作成、調査準備
10	面接調査の実施
11	調査結果の分析(1)トランスクリプト
12	調査結果の分析(2)概念抽出と整理
13	調査結果の考察(3)内容分析、仮説の検証
14	分析結果の発表
15	まとめ

評価

授業中の参加態度や提出物（40%）、発表内容（60%）により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。
毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】教科書（テキスト）をもとに、事前に指示した課題に取り組む。（各授業に対して60分）

【事後学修】自他の発表をフィードバックし、理解に対する「ふりかえり」を行う。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】鈴木淳子 調査的面接法の技法【第2版】 ナカニシヤ出版 2002

科目名	面接法		
担当教員名	永作 稔		
ナンバリング	KAc331		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針の1、2に該当する。

本科目は、学科専門科目における研究法・実習科目の科目である。本科目は心理学的研究法の1つである面接法について、文献や実習体験をもとに理解や知識を身につける。「心理学研究法」「観察法」「実験計画法」「調査法」などと関連がある。

科目の概要

面接法には、臨床的面接法と調査的面接法があり、本科目はとくに後者の調査的面接法 (research interview) を取り上げ、他のデータ収集法と比較して、どのような特性があり、どのような利点と課題をもっているかを学ぶ。面接におけるデータとは、面接者から面接対象者への質問に対する回答およびそれらにかかわる情報のことである。このことを手がかりにして、4年次の卒業研究において各自の研究テーマにおける分析や方法の一つとして繋げていく科目でもある。

学修目標 (= 到達目標)

面接法 (とくに「調査的面接法」) の持つ特徴や利点、課題について理解する。

面接法に関する諸技法を理解し身につける。

調査テーマに関して、面接法を用いた研究計画を立案、実施できる。

内容

本講義は、意見交換・発表などグループワークやディスカッションを主とする講義形態をとる。そのため、受講生には積極的な参加態度を求める。

1	オリエンテーション
2	調査的面接法とはなにか / 調査的面接法の分類
3	調査的面接法のデザイン
4	調査的面接に必要な技法
5	調査的面接の実施手順とガイドライン
6	面接法におけるデータ整理方法
7	面接法における倫理的配慮
8	調査テーマの設定
9	シナリオの作成、調査準備
10	面接調査の実施
11	調査結果の分析(1)トランスクリプト
12	調査結果の分析(2)概念抽出と整理
13	調査結果の考察(3)内容分析、仮説の検証
14	分析結果の発表
15	まとめ

評価

授業中の参加態度や提出物（40%）、発表内容（60%）により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。
毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】教科書（テキスト）をもとに、事前に指示した課題に取り組む。（各授業に対して60分）

【事後学修】自他の発表をフィードバックし、理解に対する「ふりかえり」を行う。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】鈴木淳子 調査的面接法の技法【第2版】 ナカニシヤ出版 2002

科目名	面接法		
担当教員名	永作 稔		
ナンバリング	KAc331		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針の1、2に該当する。

本科目は、学科専門科目における研究法・実習科目の科目である。本科目は心理学的研究法の1つである面接法について、文献や実習体験をもとに理解や知識を身につける。「心理学研究法」「観察法」「実験計画法」「調査法」などと関連がある。

科目の概要

面接法には、臨床的面接法と調査的面接法があり、本科目はとくに後者の調査的面接法 (research interview) を取り上げ、他のデータ収集法と比較して、どのような特性があり、どのような利点と課題をもっているかを学ぶ。面接におけるデータとは、面接者から面接対象者への質問に対する回答およびそれらにかかわる情報のことである。このことを手がかりにして、4年次の卒業研究において各自の研究テーマにおける分析や方法の一つとして繋げていく科目でもある。

学修目標 (= 到達目標)

面接法 (とくに「調査的面接法」) の持つ特徴や利点、課題について理解する。

面接法に関する諸技法を理解し身につける。

調査テーマに関して、面接法を用いた研究計画を立案、実施できる。

内容

本講義は、意見交換・発表などグループワークやディスカッションを主とする講義形態をとる。そのため、受講生には積極的な参加態度を求める。

1	オリエンテーション
2	調査的面接法とはなにか / 調査的面接法の分類
3	調査的面接法のデザイン
4	調査的面接に必要な技法
5	調査的面接の実施手順とガイドライン
6	面接法におけるデータ整理方法
7	面接法における倫理的配慮
8	調査テーマの設定
9	シナリオの作成、調査準備
10	面接調査の実施
11	調査結果の分析(1)トランスクリプト
12	調査結果の分析(2)概念抽出と整理
13	調査結果の考察(3)内容分析、仮説の検証
14	分析結果の発表
15	まとめ

評価

授業中の参加態度や提出物（40%）、発表内容（60%）により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。
毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】教科書（テキスト）をもとに、事前に指示した課題に取り組む。（各授業に対して60分）

【事後学修】自他の発表をフィードバックし、理解に対する「ふりかえり」を行う。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】鈴木淳子 調査的面接法の技法【第2版】 ナカニシヤ出版 2002

科目名	観察法		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング	KAc332		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、人間発達心理学科の学位授与方針 1 . 2 に該当し、研究法、実習科目における選択必修科目の一つです。4年次の卒業研究で活用可能な研究技法を身につける専門科目です。

科目の概要

日常の生活の場や臨床的な場で人の行動を観察することは、人をよく理解するための大事な方法の一つです。行動観察法は人の行動の意味、人と人との関係、発達の過程その他を知るために、心理学の多くの領域で使われる方法です。人の行動を観察するというのは、誰でもできるように、実はしっかりした訓練がないとうまくできません。この技法の基礎を実習を通して学びます。授業や卒業研究にだけでなく、将来臨床や実践の場で仕事をする上での基礎技法としても役立つ力をつけることを目指します。

学修目標 (= 到達目標)

- (1) 行動観察の基本を学びます。
- (2) 観察法を用いて行動の分析を行うことを学びます。

内容

1	オリエンテーション
2	観察の基本を学ぶ(1)
3	観察の基本を学ぶ(2)
4	観察の基本を学ぶ(3)
5	映像の行動観察の記述を行う(1)
6	映像の行動観察の記述を行う(2)
7	観察法を用いて、行動の分析を行う(1)
8	観察法を用いて、行動の分析を行う(2)
9	映像の行動観察の記述を行う(3)
10	映像の行動観察の記述を行う(4)
11	観察法を用いて、行動の分析を行う(3)
12	観察法を用いて、行動の分析を行う(4)
13	行動の分析結果の比較を行う
14	分析結果発表
15	まとめ

評価

各実習のレポート (60%)、期末レポート (30%)、平常点 (10%) とし、100点換算で総合評価60点以上を合格とします。

提出された各実習レポートに対し、毎回フィードバックを行います。

授業外学習

【事前予習】課題でとりあげる観察手法の概要や手順を心理学事典等及び配布資料等において確認しておいてください（各授業に対して60分）。

【事後学修】授業で配布した資料をもとに、キーワード等を確実に理解し、課題として観察を行った結果を見直して報告（レポート）をまとめます（各授業に対して60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】中澤潤也「心理学マニュアル観察法」北王路書房
柴山真琴「子どもエスノグラフィー入門」新曜社

科目名	観察法		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング	KAc332		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、人間発達心理学科の学位授与方針 1 . 2 に該当し、研究法、実習科目における選択必修科目の一つです。4年次の卒業研究で活用可能な研究技法を身につける専門科目です。

科目の概要

日常生活の場や臨床的な場で人の行動を観察することは、人をよく理解するための大事な方法の一つです。行動観察法は人の行動の意味、人と人との関係、発達の過程その他を知るために、心理学の多くの領域で使われる方法です。人の行動を観察するというのは、誰でもできるように、実はしっかりした訓練がないとうまくできません。この技法の基礎を実習を通して学びます。授業や卒業研究にだけでなく、将来臨床や実践の場で仕事をする上での基礎技法としても役立つ力をつけることを目指します。

学修目標 (= 到達目標)

- (1) 行動観察の基本を学びます。
- (2) 観察法を用いて行動の分析を行うことを学びます。

内容

1	オリエンテーション
2	観察の基本を学ぶ(1)
3	観察の基本を学ぶ(2)
4	観察の基本を学ぶ(3)
5	映像の行動観察の記述を行う(1)
6	映像の行動観察の記述を行う(2)
7	観察法を用いて、行動の分析を行う(1)
8	観察法を用いて、行動の分析を行う(2)
9	映像の行動観察の記述を行う(3)
10	映像の行動観察の記述を行う(4)
11	観察法を用いて、行動の分析を行う(3)
12	観察法を用いて、行動の分析を行う(4)
13	行動の分析結果の比較を行う
14	分析結果発表
15	まとめ

評価

各実習のレポート (60%)、期末レポート (30%)、平常点 (10%) とし、100点換算で総合評価60点以上を合格とします。

提出された各実習レポートに対し、毎回フィードバックを行います。

授業外学習

【事前予習】課題でとりあげる観察手法の概要や手順を心理学事典等及び配布資料等において確認しておいてください（各授業に対して60分）。

【事後学修】授業で配布した資料をもとに、キーワード等を確実に理解し、課題として観察を行った結果を見直して報告（レポート）をまとめます（各授業に対して60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】中澤潤也「心理学マニュアル観察法」北王路書房
柴山真琴「子どもエスノグラフィー入門」新曜社

科目名	観察法		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング	KAc332		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、人間発達心理学科の学位授与方針 1 . 2 に該当し、研究法、実習科目における選択必修科目の一つです。4年次の卒業研究で活用可能な研究技法を身につける専門科目です。

科目の概要

日常生活の場や臨床的な場で人の行動を観察することは、人をよく理解するための大事な方法の一つです。行動観察法は人の行動の意味、人と人との関係、発達の過程その他を知るために、心理学の多くの領域で使われる方法です。人の行動を観察するというのは、誰でもできるように、実はしっかりした訓練がないとうまくできません。この技法の基礎を実習を通して学びます。授業や卒業研究にだけでなく、将来臨床や実践の場で仕事をする上での基礎技法としても役立つ力をつけることを目指します。

学修目標 (= 到達目標)

- (1) 行動観察の基本を学びます。
- (2) 観察法を用いて行動の分析を行うことを学びます。

内容

1	オリエンテーション
2	観察の基本を学ぶ(1)
3	観察の基本を学ぶ(2)
4	観察の基本を学ぶ(3)
5	映像の行動観察の記述を行う(1)
6	映像の行動観察の記述を行う(2)
7	観察法を用いて、行動の分析を行う(1)
8	観察法を用いて、行動の分析を行う(2)
9	映像の行動観察の記述を行う(3)
10	映像の行動観察の記述を行う(4)
11	観察法を用いて、行動の分析を行う(3)
12	観察法を用いて、行動の分析を行う(4)
13	行動の分析結果の比較を行う
14	分析結果発表
15	まとめ

評価

各実習のレポート (60%)、期末レポート (30%)、平常点 (10%) とし、100点換算で総合評価60点以上を合格とします。

提出された各実習レポートに対し、毎回フィードバックを行います。

授業外学習

【事前予習】課題でとりあげる観察手法の概要や手順を心理学事典等及び配布資料等において確認しておいてください（各授業に対して60分）。

【事後学修】授業で配布した資料をもとに、キーワード等を確実に理解し、課題として観察を行った結果を見直して報告（レポート）をまとめます（各授業に対して60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】中澤潤也「心理学マニュアル観察法」北王路書房
柴山真琴「子どもエスノグラフィー入門」新曜社

科目名	観察法		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング	KAc332		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、人間発達心理学科の学位授与方針 1 . 2 に該当し、研究法、実習科目における選択必修科目の一つです。4年次の卒業研究で活用可能な研究技法を身につける専門科目です。

科目の概要

日常生活の場や臨床的な場で人の行動を観察することは、人をよく理解するための大事な方法の一つです。行動観察法は人の行動の意味、人と人との関係、発達の過程その他を知るために、心理学の多くの領域で使われる方法です。人の行動を観察するというのは、誰でもできるようでいて、実はしっかりした訓練がないとうまくできません。この技法の基礎を実習を通して学びます。授業や卒業研究にだけでなく、将来臨床や実践の場で仕事をする上での基礎技法としても役立つ力をつけることを目指します。

学修目標 (= 到達目標)

- (1) 行動観察の基本を学びます。
- (2) 観察法を用いて行動の分析を行うことを学びます。

内容

1	オリエンテーション
2	観察の基本を学ぶ(1)
3	観察の基本を学ぶ(2)
4	観察の基本を学ぶ(3)
5	映像の行動観察の記述を行う(1)
6	映像の行動観察の記述を行う(2)
7	観察法を用いて、行動の分析を行う(1)
8	観察法を用いて、行動の分析を行う(2)
9	映像の行動観察の記述を行う(3)
10	映像の行動観察の記述を行う(4)
11	観察法を用いて、行動の分析を行う(3)
12	観察法を用いて、行動の分析を行う(4)
13	行動の分析結果の比較を行う
14	分析結果発表
15	まとめ

評価

各実習のレポート (60%)、期末レポート (30%)、平常点 (10%) とし、100点換算で総合評価60点以上を合格とします。

提出された各実習レポートに対し、毎回フィードバックを行います。

授業外学習

【事前予習】課題でとりあげる観察手法の概要や手順を心理学事典等及び配布資料等において確認しておいてください（各授業に対して60分）。

【事後学修】授業で配布した資料をもとに、キーワード等を確実に理解し、課題として観察を行った結果を見直して報告（レポート）をまとめます（各授業に対して60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】中澤潤也「心理学マニュアル観察法」北王路書房
柴山真琴「子どもエスノグラフィー入門」新曜社

科目名	心理検査法		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング	KAc333		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「研究法・実習科目」における選択必修科目の一つである。4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を身につけることが目標になる。

「臨床心理学概論」「青年期の心理臨床」と関連が強いため、その両方を履修して単位を取得してから、履修することを強く勧める。特に人間発達心理学科のディプロマポリシーの「心理学的な研究方法から得られた実証的なデータに基づいて、人間、及び人間の発達に対する多面的な見方ができる」ことが大きな目標となる。

科目の概要

こころの状態や問題について理解・介入を行うために、情報収集をする方法として、心理検査がある。まず、心理査定とは何かといった概論の後、臨床現場で用いられることの多い代表的な心理検査を受講生自身が実施し、基本的な技法、判定結果の見方、倫理的配慮を身につける。より実践的な理解を深めるために、事例を中心に学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

1. こころを理解するとはどういうことなのかを学ぶ
2. 心理検査の実施、結果の分析を学ぶ

内容

ゼミ形式で心理検査法について学んでいく。

目的は以下の3つである。

1. 卒業研究で使用できる検査法をマスターする
2. 人の心を理解する際に必要な慎重さを身につける
3. いかにして心を理解するのかを習得する

なお、参加メンバーの希望によって、流動的に習得する心理検査を決めていくこととする。

評価

討論への参加などの日常点を50点、最後のレポートを50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】各授業末にそれぞれ一人ずつに発言機会を与え、それに教員が応答する。

授業外学習

【事前準備】提示された心理検査について実際に行ってくる (各授業につき60分)

【事後学修】心理検査についての解釈を行ってくる (各授業につき60分)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

適宜指示する

科目名	心理検査法		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング	KAc333		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

研究法・実習科目」における選択必修科目の一つである。4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を身につけることが目標になる。

「臨床心理学概論」「青年期の心理臨床」と関連が強いため、その両方を履修して単位を取得してから、履修することを強く勧める。特に人間発達心理学科のディプロマポリシー「心理学的な研究方法から得られた実証的なデータに基づいて、人間、及び人間の発達に対する多面的な見方ができる」ことが大きな目標となる。

科目の概要

こころの状態や問題について理解・介入を行うために、情報収集をする方法として、心理検査がある。まず、心理査定とは何かといった概論の後、臨床現場で用いられることの多い代表的な心理検査を受講生自身が実施し、基本的な技法、判定結果の見方、倫理的配慮を身につける。より実践的な理解を深めるために、事例を中心に学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

1. こころを理解するとはどういうことなのかを学ぶ
2. 心理検査の実施、結果の分析を学ぶ

内容

ゼミ形式で心理検査法について学んでいく。

目的は以下の3つである。

1. 卒業研究で使用できる検査法をマスターする
2. 人の心を理解する際に必要な慎重さを身につける
3. いかにして心を理解するのかを習得する

なお、参加メンバーの希望によって、流動的に習得する心理検査を決めていくこととする。

評価

討論への参加などの日常点を50点、最後のレポートを50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】各授業末に一人ずつ発言機会を与え、教員が応答する。

授業外学習

【事前準備】提示された心理検査について実際に行ってくる (各授業につき60分)

【事後学修】心理検査についての解釈を行ってくる (各授業につき60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

適宜指示する

科目名	心理検査法		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング	KAc333		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

「研究法・実習科目」における選択必修科目の一つである。4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を身につけることが目標になる。

「臨床心理学概論」「精神保健」と関連が強いいため、その両方を履修して単位を取得してから、履修することを強く勧める。特にディプロマポリシー「心理学的な研究方法から得られた実証的なデータに基づいて、人間、及び人間の発達に対する多面的な見方ができる」ことが大きな目標となる。

科目の概要

こころの状態や問題について理解・介入を行うために、情報収集をする方法として、心理検査がある。まず、心理査定とは何かといった概論の後、臨床現場で用いられることの多い代表的な心理検査を受講生自身が実施し、基本的な技法、判定結果の見方、倫理的配慮を身につける。より実践的な理解を深めるために、事例を中心に学ぶ。

学修目標（＝到達目標）

1. こころを理解するとはどういうことなのかを学ぶ
2. 心理検査の実施、結果の分析を学ぶ

内容

ゼミ形式で心理検査法について学んでいく。

目的は以下の3つである。

1. 卒業研究で使用できる検査法をマスターする
2. 人の心を理解する際に必要な慎重さを身につける
3. いかにして心を理解するのかを習得する

なお、参加メンバーの希望によって、流動的に習得する心理検査を決めていくこととする。

評価

討論への参加などの日常点を50点、最後のレポートを50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業末に全員に発言機会をもち、教員が応答する

授業外学習

【事前準備】提示された心理検査について実際に行ってくる（各授業につき60分）

【事後学修】心理検査についての解釈を行ってくる（各授業につき60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜指示する

科目名	心理検査法		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング	KAc333		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「研究法・実習科目」における選択必修科目の一つである。4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を身につけることが目標になる。

「臨床心理学概論」「精神保健」と関連が強いいため、その両方を履修して単位を取得してから、履修することを強く勧める。特に人間発達心理学科のディプロマポリシー「心理学的な研究方法から得られた実証的なデータに基づいて、人間、及び人間の発達に対する多面的な見方ができる」ことが大きな目標となる。

科目の概要

こころの状態や問題について理解・介入を行うために、情報収集をする方法として、心理検査がある。まず、心理査定とは何かといった概論の後、臨床現場で用いられることの多い代表的な心理検査を受講生自身が実施し、基本的な技法、判定結果の見方、倫理的配慮を身につける。より実践的な理解を深めるために、事例を中心に学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

1. こころを理解するとはどういうことなのかを学ぶ
2. 心理検査の実施、結果の分析を学ぶ

内容

ゼミ形式で心理検査法について学んでいく。

目的は以下の3つである。

1. 卒業研究で使用できる検査法をマスターする
2. 人の心を理解する際に必要な慎重さを身につける
3. いかにして心を理解するのかを習得する

なお、参加メンバーの希望によって、流動的に習得する心理検査を決めていくこととする。

評価

討論への参加などの日常点を50点、最後のレポートを50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】各授業末に学生の発言機会を持ち、教員がそれに応答する。

授業外学習

【事前準備】提示された心理検査について実際に行ってくる (各授業につき60分)

【事後学修】心理検査についての解釈を行ってくる (各授業につき60分)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜指示する

科目名	実験計画法		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング	KAc334		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

- ・ ? 間発達? 理学科の学位授与? 針1、2に該当する。
- ・ 「研究法・実習科目」における選択必修科目の1つ。
- ・ 4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を修得する。
- ・ 心理学研究法としての「実験」を作成する技法を身につける。
- ・ 技法の学習にとどまらず、実験デザインの立案について理解する。

科目の概要

- ・ 履修学生自身が実験参加者となり、心理学実験を体験する。
- ・ 実験を作成する (実験計画、要因統制、材料と課題の設定) 。
- ・ 実験を実施してデータを収集し、統計解析と考察を行う。

学修目標 (= 到達目標)

- ・ 「心理学実験」の参加者を経験することで、実験の基本事項を理解する。
- ・ 仮説検証という考え方を身につける。
- ・ 要因統制としての実験計画法という視点をもつ。
- ・ 実験データの解析技能を向上させる。

内容

演習形式 (実験への参加・分析、グループディスカッション、レポート作成等) を通して理解を深める。

1	実験計画法とは
2	実験における変数・要因の統制
3	参加者内1要因実験 (1) 要因計画の理解と体験
4	参加者内1要因実験 (2) 材料と課題の作成
5	参加者内1要因実験 (3) 自作実験の実施とデータ集計
6	参加者内1要因実験 (4) データ解析と考察
7	参加者間1要因実験 (1) 要因計画の理解と体験
8	参加者間1要因実験 (2) 材料と課題の作成
9	参加者間1要因実験 (3) 自作実験の実施とデータ集計
10	参加者間1要因実験 (4) データ解析と考察
11	混合2要因実験 (1) 要因計画の理解と体験
12	混合2要因実験 (2) 材料と課題の作成
13	混合2要因実験 (3) 自作実験の実施とデータ集計
14	混合2要因実験 (4) データ解析と考察
15	まとめ

評価

授業内課題の実施・提出を55点、実験レポートの提出を45点として、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】前回の授業に関する理解（質疑・感想等）の振り返りを行う。

授業外学習

【事前準備】PCソフトの基本操作の確認、統計処理の基本事項の復習、指示された課題への取り組み（30分程度）

【事後学修】授業内で行なった学習活動・理解を振り返り、次の授業の際に不足がないよう確認する（40分程度）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】授業内で適宜紹介する

科目名	実験計画法		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング	KAc334		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

- ・ ? 開発? 理学科の学位授与? 針1、2に該当する。
- ・ 「研究法・実習科目」における選択必修科目の1つ。
- ・ 4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を修得する。
- ・ 心理学研究法としての「実験」を作成する技法を身につける。
- ・ 技法の学習にとどまらず、実験デザインの立案について理解する。

科目の概要

- ・ 履修学生自身が実験参加者となり、心理学実験を体験する。
- ・ 実験を作成する (実験計画、要因統制、材料と課題の設定) 。
- ・ 実験を実施してデータを収集し、統計解析と考察を行う。

学修目標 (= 到達目標)

- ・ 「心理学実験」の参加者を経験することで、実験の基本事項を理解する。
- ・ 仮説検証という考え方を身につける。
- ・ 要因統制としての実験計画法という視点をもつ。
- ・ 実験データの解析技能を向上させる。

内容

演習形式 (実験への参加・分析、グループディスカッション、レポート作成等) を通して理解を深める。

1	実験計画法とは
2	実験における変数・要因の統制
3	参加者内1要因実験 (1) 要因計画の理解と体験
4	参加者内1要因実験 (2) 材料と課題の作成
5	参加者内1要因実験 (3) 自作実験の実施とデータ集計
6	参加者内1要因実験 (4) データ解析と考察
7	参加者間1要因実験 (1) 要因計画の理解と体験
8	参加者間1要因実験 (2) 材料と課題の作成
9	参加者間1要因実験 (3) 自作実験の実施とデータ集計
10	参加者間1要因実験 (4) データ解析と考察
11	混合2要因実験 (1) 要因計画の理解と体験
12	混合2要因実験 (2) 材料と課題の作成
13	混合2要因実験 (3) 自作実験の実施とデータ集計
14	混合2要因実験 (4) データ解析と考察
15	まとめ

評価

授業内課題の実施・提出を55点、実験レポートの提出を45点として、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】前回の授業に関する理解（質疑・感想等）の振り返りを行う。

授業外学習

【事前準備】PCソフトの基本操作の確認、統計処理の基本事項の復習、指示された課題への取り組み（30分程度）

【事後学修】授業内で行なった学習活動・理解を振り返り、次の授業の際に不足がないよう確認する（40分程度）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】授業内で適宜紹介する

科目名	実験計画法		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング	KAc334		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

- ・ ? 開発? 理学科の学位授与? 針1、2に該当する。
- ・ 「研究法・実習科目」における選択必修科目の1つ。
- ・ 4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を修得する。
- ・ 心理学研究法としての「実験」を作成する技法を身につける。
- ・ 技法の学習にとどまらず、実験デザインの立案について理解する。

科目の概要

- ・ 履修学生自身が実験参加者となり、心理学実験を体験する。
- ・ 実験を作成する (実験計画、要因統制、材料と課題の設定) 。
- ・ 実験を実施してデータを収集し、統計解析と考察を行う。

学修目標 (= 到達目標)

- ・ 「心理学実験」の参加者を経験することで、実験の基本事項を理解する。
- ・ 仮説検証という考え方を身につける。
- ・ 要因統制としての実験計画法という視点をもつ。
- ・ 実験データの解析技能を向上させる。

内容

演習形式 (実験への参加・分析、グループディスカッション、レポート作成等) を通して理解を深める。

1	実験計画法とは
2	実験における変数・要因の統制
3	参加者内1要因実験 (1) 要因計画の理解と体験
4	参加者内1要因実験 (2) 材料と課題の作成
5	参加者内1要因実験 (3) 自作実験の実施とデータ集計
6	参加者内1要因実験 (4) データ解析と考察
7	参加者間1要因実験 (1) 要因計画の理解と体験
8	参加者間1要因実験 (2) 材料と課題の作成
9	参加者間1要因実験 (3) 自作実験の実施とデータ集計
10	参加者間1要因実験 (4) データ解析と考察
11	混合2要因実験 (1) 要因計画の理解と体験
12	混合2要因実験 (2) 材料と課題の作成
13	混合2要因実験 (3) 自作実験の実施とデータ集計
14	混合2要因実験 (4) データ解析と考察
15	まとめ

評価

授業内課題の実施・提出を55点、実験レポートの提出を45点として、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】前回の授業に関する理解（質疑・感想等）の振り返りを行う。

授業外学習

【事前準備】PCソフトの基本操作の確認、統計処理の基本事項の復習、指示された課題への取り組み（30分程度）

【事後学修】授業内で行なった学習活動・理解を振り返り、次の授業の際に不足がないよう確認する（40分程度）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】授業内で適宜紹介する

科目名	実験計画法		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング	KAc334		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

- ・ ? 間発達? 理学科の学位授与? 針1、2に該当する。
- ・ 「研究法・実習科目」における選択必修科目の1つ。
- ・ 4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を修得する。
- ・ 心理学研究法としての「実験」を作成する技法を身につける。
- ・ 技法の学習にとどまらず、実験デザインの立案について理解する。

科目の概要

- ・ 履修学生自身が実験参加者となり、心理学実験を体験する。
- ・ 実験を作成する (実験計画、要因統制、材料と課題の設定) 。
- ・ 実験を実施してデータを収集し、統計解析と考察を行う。

学修目標 (= 到達目標)

- ・ 「心理学実験」の参加者を経験することで、実験の基本事項を理解する。
- ・ 仮説検証という考え方を身につける。
- ・ 要因統制としての実験計画法という視点をもつ。
- ・ 実験データの解析技能を向上させる。

内容

演習形式 (実験への参加・分析、グループディスカッション、レポート作成等) を通して理解を深める。

1	実験計画法とは
2	実験における変数・要因の統制
3	参加者内1要因実験 (1) 要因計画の理解と体験
4	参加者内1要因実験 (2) 材料と課題の作成
5	参加者内1要因実験 (3) 自作実験の実施とデータ集計
6	参加者内1要因実験 (4) データ解析と考察
7	参加者間1要因実験 (1) 要因計画の理解と体験
8	参加者間1要因実験 (2) 材料と課題の作成
9	参加者間1要因実験 (3) 自作実験の実施とデータ集計
10	参加者間1要因実験 (4) データ解析と考察
11	混合2要因実験 (1) 要因計画の理解と体験
12	混合2要因実験 (2) 材料と課題の作成
13	混合2要因実験 (3) 自作実験の実施とデータ集計
14	混合2要因実験 (4) データ解析と考察
15	まとめ

評価

授業内課題の実施・提出を55点、実験レポートの提出を45点として、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】前回の授業に関する理解（質疑・感想等）の振り返りを行う。

授業外学習

【事前準備】PCソフトの基本操作の確認、統計処理の基本事項の復習、指示された課題への取り組み（30分程度）

【事後学修】授業内で行なった学習活動・理解を振り返り、次の授業の際に不足がないよう確認する（40分程度）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】授業内で適宜紹介する

科目名	カウセリング技法		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング	KAc435		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「臨床心理学概論」を基礎としたうえで、「カウセリング基礎」、「カウセリング基礎」の応用科目である。特にディプロマポリシー「心理学における基本的な理論や概念を理解し、共感的理解や対人コミュニケーション能力を身につける」を目指す。

科目の概要

実践的な演習を通して、カウセリングの技法を習得することをねらいとしている。DVDによる映像教材及びロールプレイを行うことで、カウセリング技法を復習する。その後、受講生同士がペアとなり、授業時間以外で試行カウセリングを行う。録画したDVDと発話を逐語録にしたものをもとに、クラスでディスカッションを行う。したがって、授業時間外に2,3時間の事前学習が必須である。

学修目標 (= 到達目標)

- ・カウセリングの疑似的体験を通して、カウセリング技法の理解を目指す。
- ・DVDや逐語録により、自分や他者のカウセリング技法を客観的に分析し、改善点を見出す。

内容

各回にそれぞれ学生が発表を行い、それに対して学生全員が発言を行い理解を深めていく。教員が最後にそれらを総括する。

1. イントロダクション 授業の説明
2. カウセリング技法 - 聴く
3. カウセリング技法 - 訊く
4. カウセリング技法 - 考える
5. 試行カウセリングの実践と討議
6. 試行カウセリングの実践と討議
7. 試行カウセリングの実践と討議
8. 試行カウセリングの実践と討議
9. 試行カウセリングの実践と討議
10. 試行カウセリングの実践と討議
11. 試行カウセリングの実践と討議
12. 試行カウセリングの実践と討議
13. 試行カウセリングの実践と討議
14. 試行カウセリングの実践と討議
15. まとめ

評価

各回のレポート提出が20点、提出物40点と期末レポート40点で総合評価を行い、60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業末にリアクションペーパーを実施し、教員が応答する。

授業外学習

【事前準備】試行カウンセリングを行い、レジメを準備する（各授業について60分）

【事後学修】振り返りを行い、文献と突き合わせる（各授業について60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】授業中に適宜指示する

科目名	発達・教育相談		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング	KAc436		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針の1、2、3に該当する。

発達心理学科の研究法・実習領域の科目である。学校現場で生じる問題について、事例やロールプレイングを通して相談の手順や対応方法について、具体的かつ実践的に学ぶ。「教育相談」「健康相談活動」「心理療法」等と関連がある。

科目の概要

不登校や発達障害、心身症など困難を抱える子どもたちへの対応方法について、ロールプレイングなどを通して体験的に理解する。また、発達・教育相談の技法を習得するのみならず相談担当者としての資質も含めて総合的に学習する。なお、相談活動に役立つ実践的な方法として、エンカウンターグループやプレイセラピー、描画法などの臨床心理学的手法も取り入れる予定である。

学修目標

- ・発達・教育相談に関する基本的な知識を身につける。
- ・卒業後、心理・福祉・教育などの現場で相談に携わる際に役立つ実践的スキルを身につける。

内容

本講義はグループワークやロールプレイなど参加型の講義形態を取る。そのため、受講生には積極的な参加態度を求める。

1	オリエンテーション
2	エンカウンターグループ
3	よい聴き手と悪い聴き手とは？
4	演習：子ども編 問題がわからない子ども
5	演習：子ども編 なかなか打ち明けない子ども
6	実践：発達・教育現場で用いることができる心理療法 遊戯療法
7	演習：子ども編 問題行動が見られる子ども
8	演習：子ども編 こころの不調を訴える子ども
9	実践：発達・教育現場で用いることができる心理療法 描画療法
10	演習：親編 困難な保護者への対応
11	演習：親編 保護者のメンタルヘルスを考える
12	実践：相談室を作ってみよう 構造からカウンセリングを学ぶ
13	演習：教師編 教師のメンタルヘルスを考える
14	演習：緊急対応・地域連携編 震災から学ぼう
15	まとめ

評価

授業中の参加態度や提出物35%、最終発表内容65%により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合、レポートを課す。

提出されたレポート等は、翌週以降の授業内にフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】事前に内容に即した事例や資料を調べておくことを推奨する。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業ノートをまとめる，関連科目とのつながりをまとめることを推奨する。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。

【推薦書】岡田守弘監修 『教師のための学校教育相談学』 ナカニシヤ出版 2008

菅野純 『教師のための学校カウンセリングゼミナール』 実務教育出版 1995

【参考図書】授業中に適宜紹介する。

科目名	発達支援活動		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KAc337		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、人間発達心理学科・学位授与方針2.3に該当する。

学科専門科目の発達領域および臨床領域で学んだ心理学の知識や技法を基礎として、支援活動の実践に取り組む科目である。

科目の概要

人間発達心理学科では、学科・学校を窓口として、大学周辺の県市教育委員会によるボランティア活動への応募取りまとめと相談を行っている。その他にも、多くの市区教育委員会から要請のあった学校教育ボランティア、社会福祉施設・団体等から要請のあったボランティア活動を随時紹介している。

発達支援活動とは、学科の学生が小中学校等で行う教育ボランティアや福祉施設等で行う各種ボランティア活動を通じて、1)臨床・実践場面において、心理的側面から支援・援助活動に取り組む意義を理解するとともに、2)人々との交流を深めるなかで、専門科目で学んできた心理学的な知見・理論・技法の理解を深化充実させることを目的とする。

学修目標

活動先において責任者の指示を厳守し、対象となる人々のために活動する。支援活動を通じて、自らの専門知識や技能の有用性と不足点を確認する。

内容

1. ボランティア活動への応募にあたっては、活動の趣旨・目的を十分に理解すること。
2. 活動するにあたっては、活動における遵守事項や留意すべき点をふまえ、学校長など活動を要請する側の要望や趣旨を十分に理解し、その目的に沿うこと。
3. 活動を通して学び理解したこと、大学で学修した事柄と実践的な活動をどのように結びつけたのか、さらには、大学で今後学習すべき課題は何かを、自省し文章にまとめること。
4. 活動の終了時には、活動全体を振り返り、交流してきた人々にとっての活動の意義や収穫、および、学生自身にとっての活動の意義や成果をまとめること。

この授業は学外の機関・施設等におけるサービス・ラーニングの取り組み自体と、取り組みに基づいた主体的な気づきや学びを言語化する中で、学びを深化させていく。

評価

評価は、本科目での活動に対する意欲・関心・態度を30点、活動を通じた学修の成果(提出および発表)を70点の計100点で行い、60点以上を合格とする。

科目の特質上、提出された成果に対して、授業外にてフィードバックを個別に行う。

授業外学習

【事前予習】それまで学科で学んだ心理学的な知識/態度/技能を活用できるようにしておく(毎回の活動前に60分)

【事後学修】子どもたちとの関わりの具体的 / 表面的な事柄にとらわれることなく、本質的な課題、内面的な変化などを洞察すること（毎回の活動後に90分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】学校教育ボランティアの場合：菅野純 『不登校 予防と支援Q & A 70』 明治図書

科目名	発達支援活動		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KAc337		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、人間発達心理学科・学位授与方針 2 . 3 に該当する。

専門科目の発達領域および臨床領域で学んだ心理学の知識や技法を基礎として、支援活動の実践に取り組む科目である。

科目の概要

人間発達心理学科では、学科・学校を窓口として、大学周辺の県市教育委員会によるボランティア活動への応募取りまとめと相談を行っている。その他にも、多くの市区教育委員会から要請のあった学校教育ボランティア、社会福祉施設・団体等から要請のあったボランティア活動を随時紹介している。

発達支援活動とは、学科の学生が小中学校等で行う教育ボランティアや福祉施設等で行う各種ボランティア活動を通じて、1) 臨床・実践場面において、心理的側面から支援・援助活動に取り組む意義を理解するとともに、2) 人々との交流を深めるなかで、専門科目で学んできた心理学的な知見・理論・技法の理解を深化充実させることを目的とする。

学修目標

活動先において責任者の指示を厳守し、対象となる人々のために活動する。支援活動を通じて、自らの専門知識や技能の有用性と不足点を確認する。

内容

1. ボランティア活動への応募にあたっては、活動の趣旨・目的を十分に理解すること。
2. 活動にあたっては、活動における遵守事項や留意すべき点をふまえ、学校長など活動を要請する側の要望や趣旨を十分に理解し、その目的達成に向けて取り組むこと。
3. 活動を通して学び理解したこと、大学で学習した事柄と実践的な活動をどのように結びつけたのか、さらには、大学で今後学習すべき課題は何かを、自省して適宜文章にまとめること。
4. 活動の終了時には、活動全体を振り返り、交流してきた人々にとっての活動の意義や収穫、および、学生自身にとっての活動の意義や成果をまとめること。

この授業は学外の機関・施設等におけるサービス・ラーニングの取り組み自体と、取り組みに基づいた主体的な気づきや学びを言語化する中で、学びを深化させていく。

評価

評価は、本科目での活動に対する意欲・関心・態度を 30 点、活動を通じた学修の成果 (提出および発表) を 70 点の計 100 点で行い、60 点以上を合格とする。

科目の特質上、提出された成果に対して、授業外にてフィードバックを個別に行う。

授業外学習

【事前予習】それまで学科で学んだ心理学的な知識 / 態度 / 技能を活用できるようにしておく (毎回の活動前に 60 分)

【事後学修】こどもたちとの関わりの具体的 / 表面的な事柄にとらわれることなく、本質的な課題、内面的な変化などを洞

察すること（毎回の活動後に90分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】学校教育ボランティアの場合：菅野純 『不登校 予防と支援Q & A 70』 明治図書

科目名	心理学統計法		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KAc124		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、人間発達心理学科・学位授与方針1に該当する。また本科目は、学科専門科目「研究法・実習」領域の基礎となる科目である。心理学の実証的研究を進める上で必要不可欠である統計法の基礎を身につける。卒業研究に至るまでの研究法に関する科目の基礎基本となる事項を学ぶ。

科目の概要

最初に、記述統計学と呼ばれるデータ集計の基礎を学習する。細かな計算式の解説ではなく、具体的なデータを実際に集計することで、統計用語に親しみ、計算手順を経験し、記述統計の考え方を理解することを重視する。次に、推測統計を学習する。実験計画法に基づいて測定されたデータに対する統計的仮説検定の手順について、具体的なデータの分析を通して習得する。「仮説」をどのように立てるのか、実験・調査の計画の立て方についても、合わせて理解することを目指す。

ほとんどの受講生が統計法について初学であることを考慮して、本科目における統計計算には、コンピュータアプリケーションではなく電卓を用いる。データを丹念に眺めること、計算の意味を理解し、計算手順を厳守する態度を養って欲しい。

学修目標

統計手法の実践力を身につけること、集計結果や検定結果を分析の目的に即して読み解く力を学ぶことが目標である。ほぼ毎回宿題を課すので確実に解答すること。

内容

- 1 . ガイダンス、心理統計法の意義
- 2 . 心理データの測定と尺度
- 3 . 度数分布
- 4 . 統計図表 (質的変数の図示法、量的変数の図示法)
- 5 . 代表値 (平均値、中央値、最頻値)
- 6 . 散布度 (分散と標準偏差、範囲、四分領域)
- 7 . 正規分布と相対的位置
- 8 . 2 変数間の相関、線形回帰
- 9 . 2 つの平均の比較 (t 検定)
- 10 . クロス集計
- 11 . 2 乗検定と連関係数
- 12 . 3 つ以上の平均の比較 (分散分析)
- 13 . 記述統計の確認
- 14 . 統計的検定の応用
- 15 . まとめ

この授業では、講義を基本としながらも、授業内の演習課題について受講生が少人数グループとなり、解答算出に対して主

体的に取り組み、学びを深めていく。特に、計算過程よりも、統計的な判断を下す解決力の育成をおこなう。

評価

授業への参加度10%、授業外課題10%、筆記試験（統計計算課題と基礎理解課題）80%として、総合評価60点以上を合格とする。毎回の授業で課外課題を出題し、翌週の授業では、確認の上返却を行う。合格点に達しない場合、一定の条件を満たした受講生には8月上旬に再試験を行う。

授業外学習

【事前準備】シラバスに基づいて、該当する教科書を読み、統計的な意味を理解しノートにまとめる（授業ごとに60分間）

【事後学修】出題された課題（宿題）について、受講内容を確認しながら解答する（授業ごとに60分間）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 吉田寿夫 『ほんとうにわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』 北大路書房

【電卓】 計算とメモリ機能（MRとMCが別ボタン）を備えた大きめのサイズの電卓を用意すること(毎時使用します)

科目名	心理学統計法		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KAc124		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、人間発達心理学科・学位授与方針1に該当する。また本科目は、学科専門科目「研究法・実習」領域の基礎となる科目である。心理学の実証的研究を進める上で必要不可欠である統計法の基礎を身につける。卒業研究に至るまでの研究法に関する科目の基礎基本となる事項を学ぶ。

科目の概要

最初に、記述統計学と呼ばれるデータ集計の基礎を学習する。細かな計算式の解説ではなく、具体的なデータを実際に集計することで、統計用語に親しみ、計算手順を経験し、記述統計の考え方を理解することを重視する。次に、推測統計を学習する。実験計画法に基づいて測定されたデータに対する統計的仮説検定の手順について、具体的なデータの分析を通して習得する。「仮説」をどのように立てるのか、実験・調査の計画の立て方についても、合わせて理解することを目指す。

ほとんどの受講生が統計法について初学であることを考慮して、本科目における統計計算には、コンピュータアプリケーションではなく電卓を用いる。データを丹念に眺めること、計算の意味を理解し、計算手順を厳守する態度を養って欲しい。

学修目標

統計手法の実践力を身につけること、集計結果や検定結果を分析の目的に即して読み解く力を学ぶことが目標である。ほぼ毎回宿題を課すので確実に解答すること。

内容

- 1．ガイダンス、心理統計法の意義
- 2．心理データの測定と尺度
- 3．度数分布
- 4．統計図表 (質的変数の図示法、量的変数の図示法)
- 5．代表値 (平均値、中央値、最頻値)
- 6．散布度 (分散と標準偏差、範囲、四分領域)
- 7．正規分布と相対的位置
- 8．2変数間の相関、線形回帰
- 9．2つの平均の比較 (t 検定)
- 10．クロス集計
- 11．2乗検定と連関係数
- 12．3つ以上の平均の比較 (分散分析)
- 13．記述統計の確認
- 14．統計的検定の応用
- 15．まとめ

この授業では、講義を基本としながらも、授業内の演習課題について受講生が少人数グループとなり、解答算出に対して主

体的に取り組み、学びを深めていく。特に、計算過程よりも、統計的な判断を下す解決力の育成をおこなう。

評価

授業への参加度10%、授業外課題10%、筆記試験（統計計算課題と基礎理解課題）80%として、総合評価60点以上を合格とする。毎回の授業で課外課題を出題し、翌週の授業では、確認の上返却を行う。合格点に達しない場合、一定の条件を満たした受講生には8月上旬に再試験を行う。

授業外学習

【事前準備】シラバスに基づいて、該当する教科書を読み、統計的な意味を理解しノートにまとめる（授業ごとに60分間）

【事後学修】出題された課題（宿題）について、受講内容を確認しながら解答する（授業ごとに60分間）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 吉田寿夫 『ほんとうにわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』 北大路書房

【電卓】 計算とメモリ機能（MRとMCが別ボタン）を備えた大きめのサイズの電卓を用意すること(毎時使用します)

科目名	心理学実験		
担当教員名	山下 倫実、綿井 雅康		
ナンバリング	KAc197		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針1、2に該当する。「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や4年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。また、公認心理師資格に対応する科目でもある。

科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。

学修目標

- ・心理学の実験の施行について学ぶ。
- ・実験の目的にそって選定された「要因」を実際に測定する体験を通して、実験計画立案の基礎を学ぶ。
- ・心理学の実験で得られたデータの解析について学ぶ。
- ・心理学のレポートの書き方を学ぶ。

内容

この授業は演習科目であり、実習およびグループディスカッション、レポート作成を通して学びを深めていく。

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として2週連続して行う。
 - (1)集中度と瞬目回数との関連の検討
 - (2)囚人のジレンマ
 - (3)二点弁別闘
 - (4)心的回転
 - (5)調査法1：尺度作成
 - (6)調査法2：集計解析
3. レポート講評：6つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評を行う。

* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

* レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組む必要がある。

評価

15回の授業のうち、12回以上出席した学生を評価対象とする。また、遅刻は2回で欠席1回となるので注意すること。各実験課題すべてについてレポートを提出した学生が評価対象である。そのうえで、各レポート(20点×5=100点)

により評価する。総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出したレポートについては基本的に授業内に返却する。授業内に講評も行なう。

授業外学習

【事前予習】テキストを使って、各実験課題の概要や手順の下調べをする。分からない心理学・統計の用語については調べてノートにまとめる(各授業に対して30分)

【事後学修】各実験課題ごとに、得られたデータの分析を行い、実験レポートを作成し提出する(各授業に対して90分以上)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	心理学実験		
担当教員名	山下 倫実、平田 智秋		
ナンバリング	KAc197		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針1、2に該当する。「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や4年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。また、公認心理師資格に対応する科目でもある。

科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。

学修目標

- ・心理学の実験の施行について学ぶ。
- ・実験の目的にそって選定された「要因」を実際に測定する体験を通して、実験計画立案の基礎を学ぶ。
- ・心理学の実験で得られたデータの解析について学ぶ。
- ・心理学のレポートの書き方を学ぶ。

内容

この授業は演習科目であり、実習およびグループディスカッション、レポート作成を通して学びを深めていく。

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として2週連続して行う。
 - (1) 集中度と瞬目回数との関連の検討
 - (2) 囚人のジレンマ
 - (3) 二点弁別闘
 - (4) 心的回転
 - (5) 調査法1：尺度作成
 - (6) 調査法2：集計解析
3. レポート講評：6つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評を行う。

* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

* レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組む必要がある。

評価

15回の授業のうち、12回以上出席した学生を評価対象とする。また、遅刻は2回で欠席1回となるので注意すること。各実験課題すべてについてレポートを提出した学生が評価対象である。そのうえで、各レポート(20点×5=100点)

により評価する。総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出したレポートについては基本的に授業内に返却する。授業内に講評も行なう。

授業外学習

【事前予習】テキストを使って、各実験課題の概要や手順の下調べをする。分からない心理学・統計の用語については調べてノートにまとめる(各授業に対して30分)

【事後学修】各実験課題ごとに、得られたデータの分析を行い、実験レポートを作成し提出する(各授業に対して90分以上)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	心理学実験		
担当教員名	山下 倫実、池田 まさみ		
ナンバリング	KAc197		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針1、2に該当する。「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や4年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。また、公認心理師資格に対応する科目でもある。

科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。

学修目標

- ・心理学の実験の施行について学ぶ。
- ・実験の目的にそって選定された「要因」を実際に測定する体験を通して、実験計画立案の基礎を学ぶ。
- ・心理学の実験で得られたデータの解析について学ぶ。
- ・心理学のレポートの書き方を学ぶ。

内容

この授業は演習科目であり、実習およびグループディスカッション、レポート作成を通して学びを深めていく。

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として2週連続して行う。
 - (1) 集中度と瞬目回数との関連の検討
 - (2) 囚人のジレンマ
 - (3) 二点弁別闘
 - (4) 心的回転
 - (5) 調査法1：尺度作成
 - (6) 調査法2：集計解析
3. レポート講評：6つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評を行う。

* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

* レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組む必要がある。

評価

15回の授業のうち、12回以上出席した学生を評価対象とする。また、遅刻は2回で欠席1回となるので注意すること。各実験課題すべてについてレポートを提出した学生が評価対象である。そのうえで、各レポート(20点×5=100点)

により評価する。総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出したレポートについては基本的に授業内に返却する。授業内に講評も行なう。

授業外学習

【事前予習】テキストを使って、各実験課題の概要や手順の下調べをする。分からない心理学・統計の用語については調べてノートにまとめる(各授業に対して30分)

【事後学修】各実験課題ごとに、得られたデータの分析を行い、実験レポートを作成し提出する(各授業に対して90分以上)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	心理学実験		
担当教員名	山下 倫実、風間 文明		
ナンバリング	KAc197		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針1、2に該当する。「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や4年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。また、公認心理師資格に対応する科目でもある。

科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。

学修目標

- ・心理学の実験の施行について学ぶ。
- ・実験の目的にそって選定された「要因」を実際に測定する体験を通して、実験計画立案の基礎を学ぶ。
- ・心理学の実験で得られたデータの解析について学ぶ。
- ・心理学のレポートの書き方を学ぶ。

内容

この授業は演習科目であり、実習およびグループディスカッション、レポート作成を通して学びを深めていく。

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として2週連続して行う。
 - (1)集中度と瞬目回数との関連の検討
 - (2)囚人のジレンマ
 - (3)二点弁別闘
 - (4)心的回転
 - (5)調査法1：尺度作成
 - (6)調査法2：集計解析
3. レポート講評：6つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評を行う。

* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

* レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組む必要がある。

評価

15回の授業のうち、12回以上出席した学生を評価対象とする。また、遅刻は2回で欠席1回となるので注意すること。各実験課題すべてについてレポートを提出した学生が評価対象である。そのうえで、各レポート(20点×5=100点)

により評価する。総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出したレポートについては基本的に授業内に返却する。授業内に講評も行なう。

授業外学習

【事前予習】テキストを使って、各実験課題の概要や手順の下調べをする。分からない心理学・統計の用語については調べてノートにまとめる(各授業に対して30分)

【事後学修】各実験課題ごとに、得られたデータの分析を行い、実験レポートを作成し提出する(各授業に対して90分以上)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	心理学実験		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAc197		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針1、2に該当する。「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や4年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。また、公認心理師資格に対応する科目でもある。

科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。

学修目標

- ・心理学の実験の施行について学ぶ。
- ・実験の目的にそって選定された「要因」を実際に測定する体験を通して、実験計画立案の基礎を学ぶ。
- ・心理学の実験で得られたデータの解析について学ぶ。
- ・心理学のレポートの書き方を学ぶ。

内容

この授業は演習科目であり、実習およびグループディスカッション、レポート作成を通して学びを深めていく。

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として2週連続して行う。
 - (1)集中度と瞬目回数との関連の検討
 - (2)囚人のジレンマ
 - (3)二点弁別闘
 - (4)心的回転
 - (5)調査法1：尺度作成
 - (6)調査法2：集計解析
3. レポート講評：6つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評を行う。

* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

* レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組む必要がある。

評価

15回の授業のうち、12回以上出席した学生を評価対象とする。また、遅刻は2回で欠席1回となるので注意すること。各実験課題すべてについてレポートを提出した学生が評価対象である。そのうえで、各レポート(20点×5=100点)

により評価する。総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出したレポートについては基本的に授業内に返却する。授業内に講評も行なう。

授業外学習

【事前予習】テキストを使って、各実験課題の概要や手順の下調べをする。分からない心理学・統計の用語については調べてノートにまとめる(各授業に対して30分)

【事後学修】各実験課題ごとに、得られたデータの分析を行い、実験レポートを作成し提出する(各授業に対して90分以上)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	心理学実験		
担当教員名	山下 倫実、石田 有理		
ナンバリング	KAc197		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針1、2に該当する。「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や4年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。また、公認心理師資格に対応する科目でもある。

科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。

学修目標

- ・心理学の実験の施行について学ぶ。
- ・実験の目的にそって選定された「要因」を実際に測定する体験を通して、実験計画立案の基礎を学ぶ。
- ・心理学の実験で得られたデータの解析について学ぶ。
- ・心理学のレポートの書き方を学ぶ。

内容

この授業は演習科目であり、実習およびグループディスカッション、レポート作成を通して学びを深めていく。

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として2週連続して行う。
 - (1)集中度と瞬目回数との関連の検討
 - (2)囚人のジレンマ
 - (3)二点弁別闘
 - (4)心的回転
 - (5)調査法1：尺度作成
 - (6)調査法2：集計解析
3. レポート講評：6つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評を行う。

* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

* レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組む必要がある。

評価

15回の授業のうち、12回以上出席した学生を評価対象とする。また、遅刻は2回で欠席1回となるので注意すること。各実験課題すべてについてレポートを提出した学生が評価対象である。そのうえで、各レポート(20点×5=100点)

により評価する。総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出したレポートについては基本的に授業内に返却する。授業内に講評も行なう。

授業外学習

【事前予習】テキストを使って、各実験課題の概要や手順の下調べをする。分からない心理学・統計の用語については調べてノートにまとめる(各授業に対して30分)

【事後学修】各実験課題ごとに、得られたデータの分析を行い、実験レポートを作成し提出する(各授業に対して90分以上)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	心理アセスメント入門		
担当教員名	加藤 陽子、中村 有		
ナンバリング	Kac275		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針の1・2に該当する。

本科目は学科の専門科目で、研究法・演習・実習領域の科目に配置される。心理学の各分野における代表的な心理アセスメントを理解し、その技法を学ぶ。「面接法」「観察法」「心理検査法」などと関連が深い。

科目の概要

- (1) 心理アセスメントの作られ方、実際の使い方、使用上の注意点などについて理解する。
- (2) 実際に使用する器具や道具を用いながら、実際に各アセスメントの実施方法を学ぶ。また、アセスメント結果について、整理の仕方や返却の注意点などについても学んでいく。

なお、進行や内容は扱うアセスメントによって異なるので、担当の教員の指示にしたがうこと。

学修目標

- (1) アセスメントの目的と意味、限界と問題点を理解し、その実施技法を習得する。
- (2) アセスメントから得られた結果の整理方法について、発達心理学や臨床心理学の基礎的な知見と関連させながら理解している。

内容

この授業は、グループワーク・演習形式を中心に学びを深めていく。

受講生は小人数のグループに分かれて、グループごとに決められた分野のアセスメントについて学ぶ。具体的な流れは以下の通り。

第1～2回：ガイダンス

心理アセスメントの基礎知識と実施における注意事項の確認

第3回～第14回：アセスメントの実施と結果の整理

知能検査、発達検査、作業検査、投影法などについて、それぞれ実施方法と結果の整理方法について学ぶ。

第15回：まとめ

アセスメントごと担当した教官が講評を行う。

* アセスメント毎に、ガイダンス、実習（実施と結果の整理）、まとめを行う。

* それぞれ担当の教員が課題を課す（課題の詳細は担当教員の指示による）。

* グループに分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

アセスメント毎の「課題レポート」70点と「毎回の授業への参加度(取組み)」30点の計100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

実習授業のため、原則、遅刻・欠席は認めない。

課題レポートは、最終講義にてフィードバックを行う。

授業外学習

【事前予習】事前に配布された資料を用いて事前学習を行う（各授業に対して60分）

【事後学修】毎回授業で学んだことを整理し直す（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	心理アセスメント入門		
担当教員名	伊藤 恵子、石田 有理		
ナンバリング	Kac275		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針の1・2に該当する。

本科目は学科の専門科目で、研究法・演習・実習領域の科目に配置される。心理学の各分野における代表的な心理アセスメントを理解し、その技法を学ぶ。「面接法」「観察法」「心理検査法」などと関連が深い。

科目の概要

- (1) 心理アセスメントの作られ方、実際の使い方、使用上の注意点などについて理解する。
- (2) 実際に使用する器具や道具を用いながら、実際に各アセスメントの実施方法を学ぶ。また、アセスメント結果について、整理の仕方や返却の注意点などについても学んでいく。

なお、進行や内容は扱うアセスメントによって異なるので、担当の教員の指示にしたがうこと。

学修目標

- (1) アセスメントの目的と意味、限界と問題点を理解し、その実施技法を習得する。
- (2) アセスメントから得られた結果の整理方法について、発達心理学や臨床心理学の基礎的な知見と関連させながら理解している。

内容

この授業は、グループワーク・演習形式を中心に学びを深めていく。

受講生は小人数のグループに分かれて、グループごとに決められた分野のアセスメントについて学ぶ。具体的な流れは以下の通り。

第1～2回：ガイダンス

心理アセスメントの基礎知識と実施における注意事項の確認

第3回～第14回：アセスメントの実施と結果の整理

知能検査、発達検査、作業検査、投影法などについて、それぞれ実施方法と結果の整理方法について学ぶ。

第15回：まとめ

アセスメントごと担当した教官が講評を行う。

* アセスメント毎に、ガイダンス、実習（実施と結果の整理）、まとめを行う。

* それぞれ担当の教員が課題を課す（課題の詳細は担当教員の指示による）。

* グループに分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

アセスメント毎の「課題レポート」70点と「毎回の授業への参加度(取組み)」30点の計100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

実習授業のため、原則、遅刻・欠席は認めない。

課題レポートは、最終講義にてフィードバックを行う。

授業外学習

【事前予習】事前に配布された資料を用いて事前学習を行う（各授業に対して60分）

【事後学修】毎回授業で学んだことを整理し直す（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	心理アセスメント入門		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング	Kac275		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針の1・2に該当する。

本科目は学科の専門科目で、研究法・演習・実習領域の科目に配置される。心理学の各分野における代表的な心理アセスメントを理解し、その技法を学ぶ。「面接法」「観察法」「心理検査法」などと関連が深い。

科目の概要

- (1) 心理アセスメントの作られ方、実際の使い方、使用上の注意点などについて理解する。
- (2) 実際に使用する器具や道具を用いながら、実際に各アセスメントの実施方法を学ぶ。また、アセスメント結果について、整理の仕方や返却の注意点などについても学んでいく。

なお、進行や内容は扱うアセスメントによって異なるので、担当の教員の指示にしたがうこと。

学修目標

- (1) アセスメントの目的と意味、限界と問題点を理解し、その実施技法を習得する。
- (2) アセスメントから得られた結果の整理方法について、発達心理学や臨床心理学の基礎的な知見と関連させながら理解している。

内容

この授業は、グループワーク・演習形式を中心に学びを深めていく。

受講生は小人数のグループに分かれて、グループごとに決められた分野のアセスメントについて学ぶ。具体的な流れは以下の通り。

第1～2回：ガイダンス

心理アセスメントの基礎知識と実施における注意事項の確認

第3回～第14回：アセスメントの実施と結果の整理

知能検査、発達検査、作業検査、投影法などについて、それぞれ実施方法と結果の整理方法について学ぶ。

第15回：まとめ

アセスメントごと担当した教官が講評を行う。

* アセスメント毎に、ガイダンス、実習（実施と結果の整理）、まとめを行う。

* それぞれ担当の教員が課題を課す（課題の詳細は担当教員の指示による）。

* グループに分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

アセスメント毎の「課題レポート」70点と「毎回の授業への参加度(取組み)」30点の計100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

実習授業のため、原則、遅刻・欠席は認めない。

課題レポートは、最終講義にてフィードバックを行う。

授業外学習

【事前予習】事前に配布された資料を用いて事前学習を行う（各授業に対して60分）

【事後学修】毎回授業で学んだことを整理し直す（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	心理アセスメント入門		
担当教員名	永作 稔		
ナンバリング	Kac275		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針の1・2に該当する。

本科目は学科の専門科目で、研究法・演習・実習領域の科目に配置される。心理学の各分野における代表的な心理アセスメントを理解し、その技法を学ぶ。「面接法」「観察法」「心理検査法」などと関連が深い。

科目の概要

- (1) 心理アセスメントの作られ方、実際の使い方、使用上の注意点などについて理解する。
- (2) 実際に使用する器具や道具を用いながら、実際に各アセスメントの実施方法を学ぶ。また、アセスメント結果について、整理の仕方や返却の注意点などについても学んでいく。

なお、進行や内容は扱うアセスメントによって異なるので、担当の教員の指示にしたがうこと。

学修目標

- (1) アセスメントの目的と意味、限界と問題点を理解し、その実施技法を習得する。
- (2) アセスメントから得られた結果の整理方法について、発達心理学や臨床心理学の基礎的な知見と関連させながら理解している。

内容

この授業は、グループワーク・演習形式を中心に学びを深めていく。

受講生は小人数のグループに分かれて、グループごとに決められた分野のアセスメントについて学ぶ。具体的な流れは以下の通り。

第1～2回：ガイダンス

心理アセスメントの基礎知識と実施における注意事項の確認

第3回～第14回：アセスメントの実施と結果の整理

知能検査、発達検査、作業検査、投影法などについて、それぞれ実施方法と結果の整理方法について学ぶ。

第15回：まとめ

アセスメントごと担当した教官が講評を行う。

* アセスメント毎に、ガイダンス、実習（実施と結果の整理）、まとめを行う。

* それぞれ担当の教員が課題を課す（課題の詳細は担当教員の指示による）。

* グループに分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

アセスメント毎の「課題レポート」70点と「毎回の授業への参加度(取組み)」30点の計100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

実習授業のため、原則、遅刻・欠席は認めない。

課題レポートは、最終講義にてフィードバックを行う。

授業外学習

【事前予習】事前に配布された資料を用いて事前学習を行う（各授業に対して60分）

【事後学修】毎回授業で学んだことを整理し直す（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	コミュニケーションの心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KAd239		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科・学位授与方針2に該当する。本科目は、学科専門選択科目として、初学者を対象に、「人間の心と社会の諸場面に関する基本的な理論や概念について学び、人々の心や行動の特徴を分析的に考える力を養う」ための科目である。

科目の概要

コミュニケーション活動とは、メッセージを送る人と受け取る人との共同作業であり、メッセージという情報が表現され伝達され受容され理解されるというプロセスからなるものである。このプロセスのなかで、人間がどのような行動を行っているのか、心や行動にどのような影響を及ぼすのか、について明らかにされている心理学的なメカニズムや法則性を中心に述べる。私たちが普通に行っている行動に影響を及ぼす心理的な要因について、論理的かつ分析的に理解する知識を身につけるとともに、行動の潜在的な意味や目的を客観的に考える態度や視点を養ってほしい。

学修目標

評価基準ともなる学習到達目標は、1)教科書の記述内容を理解しようと努力したか、2)コミュニケーション行動に関するメカニズムや法則性を理解したか、3)コミュニケーション行動に関する理論を日常生活での行動に適用して説明できるかである。

内容

- 1．コミュニケーション行動と心理学
- 2．対人コミュニケーションの成立
- 3．対人コミュニケーションの特徴
- 4．言語とコミュニケーション
- 5．言語コミュニケーションの特質
- 6．非言語メディアによるコミュニケーション
- 7．自己開示の概念と領域
- 8．自己開示が果たす機能
- 9．自己開示を規定する要因
- 10．自己呈示と社会的スキル
 - 11．防衛的自己呈示と主張的自己提示
 - 12．他者を動かすコミュニケーション（要請承諾・説得）
 - 13．説得的コミュニケーションと態度変容
 - 14．要請技法と心理的效果
 - 15．まとめ

この授業は、講義形式と基本としながらも、学びのまとめと日常生活との関連づけに主体的に取り組む活動を行うことで、学びを深化させる。さらに、WEB上で小課題への解答を作成することで、理解を深化させる。

評価

授業内の小課題10点、期末テスト90点、の計100点満点により評価を行う。

総合評価60点以上を合格とする。

授業内小課題については、次回の授業にて全体に対してフィードバックを行う。

授業外学習

【事前予習】授業で取り上げる教科書の該当章を読んで、概要を理解することを目指してノートに概要をまとめる（授業ごとに60分間）

【事後学修】学習内容を整理し直してノートにまとめるとともに、日常生活での身近な行動に当てはめてみたことを文章化する（授業ごとに60分間）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 深田博己著 『インターパーソナルコミュニケーション』 北大路書房

科目名	対人関係の心理学		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAd340		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間発達心理学科の学位授与方針1、2に該当する。人間発達心理学科の選択専門科目である。

1年次の社会心理学概論で学習した対人魅力領域の話を発展させ、その観点から人間関係について考える。よって社会心理学概論の知識が基礎となり、またコミュニケーションの心理学、対人関係の心理学とも密接な関連を持つ。

われわれは人を好きになったり嫌いになったりする。人に対して好意を感じることは人間関係を成立させるきっかけとなり、さらにその関係を親密な関係へと進めていく力を持つ。この、人を好きとか嫌いとか感じることを社会心理学では「対人魅力」と呼び、それにまつわる多くの研究がこれまで行われてきている。この対人魅力は対人関係進展のために欠かせない要素である。本講義では、対人魅力を中心とした人間関係に関わる社会心理学的な実証研究について、その方法、実験結果などを詳しく解説し、その知見に基づき人間関係の形成、進展について解説をする。

対人関係領域の知識を身につけると共に、多彩な研究例から研究の考え方ややり方などの方法論についても理解を深め、受講生自身の問題意識の明確化に活かして欲しい。また受講を通して、日常生活においてよりよい人間関係をつくるためにどのようなことが重要であるかを考えるきっかけにもなるとよい。

内容

この講義は講義を基本に、リアクションペーパーを活用した全体共有やディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	ガイダンス：対人魅力とは何か
2	好意をどのようにして測定する？
3	側にいる人を好きになる？好きな人の側にいたい！
4	美しい人を好きになる！美しい人に幻滅する！
5	美しく装って魅力を高める - 被服・化粧と対人魅力 -
6	自分と似た性格・態度を持つ人を好きになる！
7	能力が高い人は本当に好かれる？
8	中間テスト
9	魅力を高める自己開示・自己呈示
10	傷ついた時に側にいてくれる人を好きになる？
11	相手から好かれることの効果
12	環境条件と魅力の関連
13	対人関係の親密化～魅力が力を発揮する時
14	対人関係の進展と崩壊
15	まとめ

評価

期末テスト70点+中間テスト30点により評価を行い、60点以上を合格とする。出席については、2/3以上の出席が必要。満たさない場合には、単位は取得できない。

【フィードバック】毎回、リアクションペーパーについてコメントし、学習理解を深める。中間テストについては試験終了時に答え合わせをする。成績については期末テストまでにフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】次の授業のキーワードについて、これまでの授業で学んだこと、新聞や雑誌の記事等を調べて予習してくる(各授業につき30分)

【事後学修】学習内容についてノートを整理し、自らの日常生活を振り返りながら復習する(各授業につき60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】指定しない。必要に応じて資料を配付する。

科目名	グループダイナミクス		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング	KAd341		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間発達心理学科の学位授与方針「1. 心理学的な研究方法から得られた実証的なデータに基づいて、人間、及び人間の発達に対する多面的な見方ができる」、「2. 心理学における基本的な論や概念できる」に該当する選択専門科目である。社会心理学の中の集団に関する研究領域を取り上げる。よって社会心理学概論の知識を基礎とする。また他の社会心理学領域の科目とも関連があり、特に産業・組織心理学との関連は密接である。

グループ・ダイナミクスとは、集団およびその成員の行動に関する一般的法則を明らかにしようとする社会科学の1分野で、心理学では主に社会心理学においてその領域の研究が行われている。具体的には、集団の形成過程、集団内の地位・役割分化、集団規範への同調と逸脱、集団での意志決定、集団の生産性、リーダーシップなどの諸問題を研究対象とする。この授業では、グループ・ダイナミクスに関する様々な領域の研究知見について日常的な集団経験と照らし合わせながら、わかりやすく解説する。

集団研究の方法、知識を身につけると共に、集団における人間の心理について理解を深め、教育組織、企業組織など実際の集団や組織にいかに応用できるかという実践的な観点も持てるようになることを目標とする。

内容

グループ・ダイナミクスの主要な研究領域について講義形式で解説する。また講義内容と関連のある模擬的実験や心理尺度なども実施する予定である。以下の内容を予定。

1	ガイダンス
2	集団とは何か
3	集団の構造を把握する
4	集団の形成と発達過程
5	集団規範の発生
6	集団規範の測定：リターンポテンシャルモデル
7	集団凝集性
8	リーダーシップ(1)：特性論からスタイル論へ
9	リーダーシップ(2)：PM理論
10	リーダーシップ(3)：条件即応モデル
11	少数派の影響(1)
12	少数派の影響(2)
13	集団意志決定
14	集団と個人
15	まとめ

評価

期末テスト80%+授業内の課題20%とし、総合評価60点以上を合格とする
リアクションペーパーの質問には回答する。

授業外学習

【事前予習】次の授業でとりあげるキーワードについて調べ、ノートにまとめる。(30分)

【事後学修】授業時のノートと配付資料を基に、理解した内容をノートに整理する。(60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】指定しない。資料を配付する。

科目名	産業・組織心理学		
担当教員名	高口 央		
ナンバリング	KAd342		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針1, 2に該当する。

本科目は、社会心理学などの知見をもとに、産業場面、組織場面での人の心理、行動について扱う応用領域の心理学である。

科目の概要

本科目では、仕事におけるモチベーション、職場における人間関係と意思決定、組織における人の行動、リーダーシップ、職場のストレスなどを扱う。社会心理学など、様々な心理学の領域における研究成果に基づいて産業活動における諸現象について講義を行う。

学修目標 (= 到達目標)

さまざまな心理学の知識を、産業、組織、働くという場面にどのように応用可能かを考えながら、産業・組織心理学について理解を深めることを目標とする。

内容

講義は、下に示す内容に沿って、パワーポイント資料をスクリーンに提示し、解説を加え進行する。

なお、提示するパワーポイント資料をもとに作成するノート用配布資料も毎回の講義時に配布する。

また、3回に1回程度、リアクションペーパーを活用して理解度の確認を行いつつ授業内容の補足説明や全体共有を図りつつ、学びを深めていく。

また、両資料については、LiveCampusの授業共有ファイルとして、受講生の復習用資料として供する。

1	産業・組織心理学とは何か? - ガイダンス -
2	ホーソン研究: 物理的環境か心理的要因か
3	作業に関わる心理学: 社会的手抜きと補償
4	仕事への動機づけ研究1: 欲求階層・ERG理論
5	仕事への動機づけ研究2: 内発的動機・外発的動機
6	仕事への動機づけ研究3: 報酬
7	組織における人の行動: 公正感と自発的行動
8	組織コミットメントと役割外行動(組織市民行動)
9	組織の中でのコミュニケーション: 集団分極化
10	対人葛藤: プラスの効果・バーンアウト
11	リーダーシップ1: 偉人論・特性論
12	リーダーシップ2: PM理論・ライフサイクル理論
13	上司と部下の関係構築: 投資モデルの援用

14	職場での行動の獲得・学習：PDCAサイクル
15	まとめ

評価

講義3回に1回程度で課すミニレポート(計50点)、期末試験(50点)とし、総合評価60点以上を合格とする。出席が2/3に満たない場合、単位は取得できない。

【フィードバック】期末試験については、講義の成績評価をもって代える。授業時に求めるリアクショナルレポートについては、代表的な意見や興味深い指摘をとりあげ、授業の中で返答する。

授業外学習

【事前準備】各回の授業予定内容について、推薦図書などの資料を調べ予習に取り組む。(各授業について30分)

【事後学修】学習内容について授業資料を整理し復習をする。(各授業について60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

指定しない。必要に応じて授業時に資料を配布する。

【推薦書】

山口裕幸/金井篤子(編)・「よくわかる産業・組織心理学」・ミネルヴァ書房

田尾雅夫(編)・「組織行動の社会心理学」・北大路書房

小口孝司/楠見孝/今井芳昭(編)・「仕事のスキル」・北大路書房

原マサヒコ・「トヨタのPDCA」・あさ出版

科目名	職場のメンタルヘルス		
担当教員名	尾崎 健一		
ナンバリング	KAd443		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針「2. 心理学における基本的な理論や概念を理解し、共感的理解や対人コミュニケーション能力を身につける」「3. 専門教育で習得した理論・概念・知識・技能により、生活支援能力や身体のケア能力を身につける」に該当する。

労働者のストレス、メンタルヘルスについて学び、働く人のストレスとその現状を理解し、自らストレスケアできることを到達目標とする。「健康心理学」や「産業・組織心理学」との関連が強い。

科目の概要

労働者を取り巻く社会の現状、ストレスが心身に及ぼす影響、ストレスとの付き合い方について学ぶ。「メンタルヘルス・マネジメント検定 種」資格試験に合格する知識と実際のセルフケアスキルを身につけることができる。

学修目標 (= 到達目標)

- ・労働者を取り巻く現状、ストレスやメンタルヘルスについての基本を学ぶ。
- ・ストレス・マネジメントを日常生活で役立てるスキルを身につける。
- ・メンタルヘルス・マネジメント検定 種の合格レベルを目指す。

内容

講義方針：各回に事例、課題を提示し、個人ワーク、グループワークにより理解を深める。

1	オリエンテーション～労働者のストレスの現状
2	職場・産業組織分野の制度・法律
3	産業組織分野の倫理/労働者の作業改善・安全衛生
4	職業性ストレスとメンタルヘルス、過労・バーンアウトの防止
5	人事・ヒューマンリソースマネジメント
6	キャリア形成、職業選択、ワークライフバランス
7	産業組織分野における心理学的アセスメント・ストレスチェック
8	産業カウンセリング、職場のストレス予防とストレスマネジメント
9	職場のダイナミクス、チームワーク、コミュニケーション
10	リーダーシップとメンバーの心理、ワークモチベーション、職場適応
11	メンタルヘルスケアの意義とそのために必要なこと
12	セルフケアの実践、気づきと対処、自発的相談、活用できる資源
13	産業カウンセリングの実際
14	メンタルヘルス・マネジメント検定対策
15	まとめ

評価

講義への参加度10%、各回の課題評価が20%、最終試験が70%で、総合評価60%以上の評価を得て合格とする。

【フィードバック】各前回の質問について、講義内で回答する。

授業外学習

【事前予習】講義で扱うテキストの該当ページを読んで、重要と思われるキーワードをノートに書きだしておく（60分）。疑問があれば講義中に解決すること。

【事後学修】その回の講義内容とテキスト該当部分を振り返り、講義中に出される課題の答えをまとめる（60分）。次回講義ではその答えを検討材料とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

・大阪商工会議所編「メンタルヘルス・マネジメント検定試験 公式テキスト 種セルフケアコース（第4版）」 中央経済社

・春日未歩子 著「メンタルヘルス・マネジメント検定試験 公式テキスト 種セルフケアコース 過去問題集（2018年度版）」 中央経済社

科目名	社会行動の心理学		
担当教員名	高口 央		
ナンバリング	KAd444		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針1, 2に該当する。

本科目は、社会心理学などの知見をもとに、消費場面での人の心理、行動について扱う応用領域の心理学である。

科目の概要

なぜ人々はブランド物を選ぶのか、どのようにすれば購買や消費を促進できるのか、どのような広告が効果的かなどが消費者行動の心理学として扱われてきたテーマである。本科目では、隣接学問分野にも配慮しつつ、社会心理学的手法を用いて明らかにされてきた研究を紹介し、消費者行動に注目しながら社会的な行動を科学的に理解することを目的とする。

学修目標 (= 到達目標)

さまざまな心理学の知識を、消費行動という場面にどのように応用可能かを考えながら、社会的な行動への理解を深めることを目標とする。

内容

講義は、下に示す内容に沿って、パワーポイント資料をスクリーンに提示し、解説を加え進行する。

なお、提示するパワーポイント資料をもとに作成するノート用配布資料も毎回の講義時に配布する。

また、3回に1回程度、リアクションペーパーを活用して理解度の確認を行いつつ授業内容の補足説明や全体共有を図りつつ、学びを深めていく。

また、両資料については、LiveCampusの授業共有ファイルとして、受講生の復習用資料として供する。

1	消費者行動からみる社会的な行動
2	消費者行動のプロセス
3	消費者行動のプロセス
4	消費者の知覚(価格判断のプロセス)
5	消費者の知覚(価格判断のプロセス)
6	店舗内の消費行動(計画購買と非計画購買)
7	店舗内の消費行動(計画購買と非計画購買)
8	同調と流行
9	ライフスタイルの違いと消費行動
10	口コミとクチコミと購買意思決定
11	口コミとクチコミと購買意思決定
12	販売の訴求テクニック・広告活動
13	販売の訴求テクニック・広告活動
14	地域性を考慮した広告の効果
15	まとめ

評価

3回に1回程度で求めるリアクションペーパー(計50点)、期末試験(50点)とし、総合評価60点以上を合格とする。出席が2/3に満たない場合、単位は取得できない。

【フィードバック】期末試験については、講義の成績評価をもって代える。授業時に求めるリアクションペーパーについては、代表的な意見や興味深い指摘をとりあげ、授業の中で返答する。

授業外学習

【事前準備】各回の授業予定内容について、推薦図書などの資料を調べ予習に取り組む。(各授業について30分)

【事後学修】学習内容について授業資料を整理し復習をする。(各授業について60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】指定しない。必要に応じて授業時に資料を配付する。

【推薦書】竹村和久(編)「消費行動の社会心理学」北大路書房
杉本徹雄(編)「新・消費者理解のための心理学」福村出版
杉本徹雄「マーケティングと広告の心理学」朝倉書店

科目名	キャリア発達心理学		
担当教員名	杉本 英晴		
ナンバリング	KAd445		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：人間発達心理学科の学位授与方針 1 . 2 に該当する。

本科目は、グループワークを通して生涯のキャリアを歩む人間、および、その発達に対する多面的な見方を獲得するとともに、他者のキャリアへの共感的理解を深め対人コミュニケーション能力も身に付ける。グループダイナミクスや産業心理学、職場のメンタルヘルス（産業・組織心理学）などに関連のある社会科目である。

科目の概要：キャリアとは、職業人や家庭人、地域社会の一員など様々な役割を果たす過程の中で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見出していく連なりや積み重ねである。そのため、キャリアについて考える際、単純にどのような仕事の経歴があるかということだけでなく、たとえば、ある仕事に就くまでに、職業活動を通して、そして仕事と家庭の両立を通してなど、自身や関係性の発達に目を向ける必要がある。そこで本授業では、私たちがどうやって職業を選択しどうやって職業人となっていくのか、働くことの意味は何か、ワークライフバランスを保つためにはどうすればよいのかなどの社会的な問題を考える。

学修目標：これまで学んできた心理学の知識をキャリアという領域に応用しながら、キャリア心理学について理解を深めることを目標とする。またそれだけでなく、就職を目前に控えた受講生にとって自身の職業選択や職業生活、家庭生活のイメージを具体化することもあわせて目標とする。

内容

基本的には講義形式での授業を行うが、個人ワークやグループワークを通しての自己理解や職業理解も取り入れる。

1	オリエンテーション
2	キャリアとは何か
3	キャリア発達の理論
4	進路の意思決定プロセス
5	キャリアにおける社会的問題
6	現代の就職活動
7	ライフ・キャリア・レインボー
8	キャリア自己効力感と社会認知的キャリア理論
9	職業興味
10	働くことの価値観とキャリア・パースペクティブ
11	ワーク・ライフ・バランス
12	キャリアに対する関心
13	計画された偶発性理論
14	ワーク・モチベーション
15	まとめ

評価

授業への参加度30%、授業内レポート・課題20%、最終課題・レポート50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

提出された授業レポートに、次回の授業でコメントをする。

授業外学習

【事前準備】次の授業でとりあげるテーマについて、現在の自分の考えを書き出しておく。

【事後学習】授業内容について、家族や友人などに説明する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】指定しない。必要に応じて資料を配付する。

科目名	社会心理学概論（社会・集団・家族心理学）		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング	KAd198		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

人間発達心理学科の学位授与方針「1．心理学的な研究方法から得られた実証的なデータに基づいて、人間、及び人間の発達に対する多面的な見方ができる」、「2．心理学における基本的な論や概念できる」に該当する必修科目であり社会心理学に関する入門科目である。コミュニケーションの心理学、対人社会心理学、人間関係の心理学、グループ・ダイナミックス、産業・組織心理学などの基礎となる。

社会心理学の「社会」とは他者がいる状況を意味する。私たちの日常生活は、ほとんどが他者のいる状況だといえる。したがって社会心理学は、日常生活の中で私たちが他者から受ける影響や逆に他者に与える影響を問題とし、そこに潜む法則性を明らかにしていく心理学の一領域といえる。「どうやったら人からもっと好かれるかしら?」「どうやったらあの人を説得できるかな?」「グループをうまくまとめたのだけど・・・」など、私たちが普段感じる疑問の中のいくつかはそのまま社会心理学の問題になり得るものである。本講義では、社会心理学の研究成果について日常的な現象と結びつけながら、わかりやすく解説する。

目標は、社会心理学の基礎知識を身につけることと、さらに社会心理学のもつ人間観について理解を深め、習得した知識を自分が実生活を視るときの視点として活用できるようになることである。

内容

社会心理学の基礎的な事項について講義形式で解説する。グループによるディスカッションなども入れて理解を深める。

1	ガイダンス：社会心理学とは
2	社会的認知(1)：ステレオタイプ
3	社会的認知(2)：原因を考える
4	対人関係(1)：他者を好きになる
5	対人関係(2)：対人魅力の規定因
6	対人関係(2)：対人関係の進展
7	対人行動(1)：説得と態度変容
8	対人行動(2)：攻撃と援助
9	言語と非言語コミュニケーション
10	集団内での個人の行動
11	リーダーシップ
12	社会的ジレンマ
13	自己
14	進化の視点
15	まとめ

評価

期末テスト60% + 中間テスト30% + 授業内の課題10%により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。ただし受験資格として2/3以上の出席が必要である。合格点に達しない場合再試験を行う。

リアクションペーパーの質問には回答する。中間テスト、授業内での課題は採点の上、返却する。

授業外学習

【事前予習】次の授業でとりあげるキーワードについて調べ、ノートにまとめる。(30分)

【事後学修】授業時のノートと配付資料を基に、理解した内容をノートに整理する。(60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】指定しない。資料を配付する。

科目名	社会心理学概論（社会・集団・家族心理学）		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング	KAd198		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

人間発達心理学科の学位授与方針「1．心理学的な研究方法から得られた実証的なデータに基づいて、人間、及び人間の発達に対する多面的な見方ができる」、「2．心理学における基本的な論や概念できる」に該当する必修科目であり社会心理学に関する入門科目である。コミュニケーションの心理学、対人社会心理学、人間関係の心理学、グループ・ダイナミクス、産業・組織心理学などの基礎となる。

社会心理学の「社会」とは他者がいる状況を意味する。私たちの日常生活は、ほとんどが他者のいる状況だといえる。したがって社会心理学は、日常生活の中で私たちが他者から受ける影響や逆に他者に与える影響を問題とし、そこに潜む法則性を明らかにしていく心理学の一領域といえる。「どうやったら人からもっと好かれるかしら？」「どうやったらあの人を説得できるかな？」「グループをうまくまとめたのだけど・・・」など、私たちが普段感じる疑問の中のいくつかはそのまま社会心理学の問題になり得るものである。本講義では、社会心理学の研究成果について日常的な現象と結びつけながら、わかりやすく解説する。

目標は、社会心理学の基礎知識を身につけることと、さらに社会心理学のもつ人間観について理解を深め、習得した知識を自分が実生活を視るときの視点として活用できるようになることである。

内容

社会心理学の基礎的な事項について講義形式で解説する。グループによるディスカッションなども入れて理解を深める。

1	ガイダンス：社会心理学とは
2	社会的認知(1)：ステレオタイプ
3	社会的認知(2)：原因を考える
4	対人関係(1)：他者を好きになる
5	対人関係(2)：対人魅力の規定因
6	対人関係(2)：対人関係の進展
7	対人行動(1)：説得と態度変容
8	対人行動(2)：攻撃と援助
9	言語と非言語コミュニケーション
10	集団内での個人の行動
11	リーダーシップ
12	社会的ジレンマ
13	自己
14	進化の視点
15	まとめ

評価

期末テスト60% + 中間テスト30% + 授業内の課題10%により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。ただし受験資格として2/3以上の出席が必要である。合格点に達しない場合再試験を行う。

リアクションペーパーの質問には回答する。中間テスト、授業内での課題は採点の上、返却する。

授業外学習

【事前予習】次の授業でとりあげるキーワードについて調べ、ノートにまとめる。(30分)

【事後学修】授業時のノートと配付資料を基に、理解した内容をノートに整理する。(60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】指定しない。資料を配付する。

科目名	家族心理学（社会・集団・家族心理学）		
担当教員名	大野 祥子		
ナンバリング	Kad378		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目では、家族という営みに現れる大人・子ども双方の発達や、親子・家族の関係について実証的に検討していきます。現代の家族がおかれた社会的な状況について理解を深めると同時に、異なる経験・異なる信念を持つ他者の視点を理解することを目指します。

本科目はディプロマ・ポリシー「1. 心理学的な研究方法から得られた実証的なデータに基づいて、人間、及び人間の発達に対する多面的な見方ができる」および「2. 心理学における基本的な理論や概念を理解し、共感的理解や対人コミュニケーション能力を身につける」と関連しています。

科目の概要

この科目では、主に家族心理学の理論と概念を学び、実証的な研究結果に基づいて現代の家族の問題を考えていきます。家族の問題を、親 - 子、また男性 - 女性双方の視点から、さらにBio - Psycho - Socialという各方面から多角的に眺めながら、人間にとって家族とは何か、どのような関係・機能が求められているかを考えます。

学修目標（=到達目標）

1. 家族という営みに現れる家族メンバー間の関係を多角的に理解する視点を養う。
2. 現代の家族が抱える困難を把握し、求められる支援の方向性に対する自分の考えを持つ。
3. 自分が育てられてきた体験、自分の家族観を相対化する視点を持つ。

内容

授業は講義形式を中心とし、一部ワークやグループディスカッションを取り入れます。

調べものの宿題を課すこともあります。

1	家族とは何だろうか（テキスト1,3,4章）
2	現代の家族（テキスト2,5,6,7章）
3	母性神話を再考する（テキスト21章）
4	育児ストレス（映像資料視聴）
5	育児ストレスはなぜ起こるか（テキスト18章）
6	子育て期の家庭生活（テキスト8,9章）
7	子育て期の夫婦関係（テキスト10,11章）
8	男女共同参画社会と家族（テキスト12,13,30章）
9	家族にふりかかるストレス（テキスト29章）
10	現代の親子関係（テキスト14,15,16,17章）
11	家族システムの中の親子（テキスト23,25章）
12	家族に対するカウンセリング（テキスト20章）
13	子育て支援の制度・社会資源
14	地域子育て支援
15	まとめ

評価

授業内での提出物（感想のコメントペーパー含む）60%，最終課題40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

提出物は翌週以降の授業で講評を行う。

授業外学習

【事前予習】テキストからその回の内容に該当する章を読み，わからない用語を調べておくこと。その他に準備してほしいことがある場合は前の回に指示する。（60分）

【事後学修】授業ノートをふり返り，授業内容を理解したか確認すること。自分の意見はどうかを考えること。授業中に紹介された参考資料にあたり，発展的な学習をすること。（60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】柏木恵子・大野祥子・平山順子『家族心理学への招待[第2版]』ミネルヴァ書房

【推薦書】柏木恵子『子どもが育つ条件』岩波新書

中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子『家族心理学』有斐閣ブックス

根ヶ山光一『発達行動学の視座： 個 の自立発達の人間科学的探究』金子書房

【参考図書】授業中に紹介します。

科目名	産業心理学（産業・組織心理学）		
担当教員名	高口 央		
ナンバリング	KAd379		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針1, 2に該当する。

本科目は、社会心理学などの知見をもとに、産業場面、組織場面での人の心理、行動について扱う応用領域の心理学である。

科目の概要

本科目では、仕事におけるモチベーション、職場における人間関係と意思決定、組織における人の行動、リーダーシップ、職場のストレスなどを扱う。社会心理学など、様々な心理学の領域における研究成果に基づいて産業活動における諸現象について講義を行う。

学修目標（＝到達目標）

さまざまな心理学の知識を、産業、組織、働くという場面にどのように応用可能かを考えながら、産業・組織心理学について理解を深めることを目標とする。

内容

講義は、下に示す内容に沿って、パワーポイント資料をスクリーンに提示し、解説を加え進行する。

なお、提示するパワーポイント資料をもとに作成するノート用配布資料も毎回の講義時に配布する。

また、3回に1回程度、リアクションペーパーを活用して理解度の確認を行いつつ授業内容の補足説明や全体共有を図りつつ、学びを深めていく。

また、両資料については、LiveCampusの授業共有ファイルとして、受講生の復習用資料として供する。

1	産業・組織心理学とは何か？ - ガイダンス -
2	ホーソン研究：物理的環境か心理的要因か
3	作業に関わる心理学：社会的手抜きと補償
4	仕事への動機づけ研究1：欲求階層・ERG理論
5	仕事への動機づけ研究2：内発的動機・外発的動機
6	仕事への動機づけ研究3：報酬
7	組織における人の行動：公正感と自発的行動
8	組織コミットメントと役割外行動(組織市民行動)
9	組織の中でのコミュニケーション：集団分極化
10	対人葛藤：プラスの効果・バーンアウト
11	リーダーシップ1:偉人論・特性論
12	リーダーシップ2：PM理論・ライフサイクル理論
13	上司と部下の関係構築：投資モデルの援用

14	職場での行動の獲得・学習：PDCAサイクル
15	まとめ

評価

講義3回に1回程度で課すミニレポート(計50点)、期末試験(50点)とし、総合評価60点以上を合格とする。出席が2/3に満たない場合、単位は取得できない。

【フィードバック】期末試験については、講義の成績評価をもって代える。授業時に求めるリアクシ^ンパ^ーハ^ーやミニレポートについては、代表的な意見や興味深い指摘をとりあげ、授業の中で返答する。

授業外学習

【事前準備】各回の授業予定内容について、推薦図書などの資料を調べ予習に取り組む。(各授業について30分)

【事後学修】学習内容について授業資料を整理し復習をする。(各授業について60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

指定しない。必要に応じて授業時に資料を配布する。

【推薦書】

山口裕幸/金井篤子(編)・「よくわかる産業・組織心理学」・ミネルヴァ書房

田尾雅夫(編)・「組織行動の社会心理学」・北大路書房

小口孝司/楠見孝/今井芳昭(編)・「仕事のスキル」・北大路書房

原マサヒコ・「トヨタのPDCA」・あさ出版

科目名	司法・犯罪心理学		
担当教員名	高野 光司		
ナンバリング	KAd380		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針1、2に該当する。「司法・犯罪心理学」は、司法・矯正領域は公認心理師の職業領域である基幹5領域の1つであり、公認心理師受験資格取得のために必要な司法・矯正領域の心理学に関する基礎的な知識の習得が目指される科目である。また当該科目は、人間発達心理学科の専門科目のうち社会科目に属し、同科目群のグループダイナミクスや社会行動の心理学などに関連する、学科の基礎科目である。

科目の概要

1. 犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識について理解する。
2. 司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について理解する。
3. 犯罪予防についての基本的知識について理解する。

学修目標（＝到達目標）

1. 現代日本における司法・犯罪の概観を理解する。
2. 犯罪に関する各種の理論について理解する。
3. 司法・犯罪分野の問題に対する各種の心理的支援について理解する。
4. 犯罪予防に関する理論と今後の方向性について理解する。

内容

この授業は講義を基本とする。適宜、小グループでのグループワークやディスカッションを行い、そこで出された回答や意見を全体で共有しながら学びを深めていく。

1	犯罪とは何か
2	心理学における主要な犯罪研究
3	犯罪・非行についての基本的知識（社会的視点）
4	犯罪・非行についての基本的知識（生物学的・心理学的視点）
5	犯罪・非行についての基本的知識（発達の視点・被害体験）
6	犯罪・非行についての基本的知識（被害者および家事事件）
7	司法・矯正領域における心理学活用の概観
8	司法・犯罪分野における問題への心理的支援（療法・アプローチ）
9	司法・犯罪分野における問題への心理的支援（施設における教育）
10	エビデンスから見た効果的な矯正教育のあり方
11	司法・犯罪分野における問題への心理的支援（犯罪被害への支援）
12	犯罪予防（社会的コントロール）
13	犯罪予防（フォーマル・コントロールとインフォーマル・コントロール）
14	犯罪予防（今後の日本の方向性）
15	まとめ

評価

授業への参加度10%、毎回のリアクションペーパー等10%、筆記試験80%し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】各回のキーワードについて調べ、A4用紙1枚程度にまとめる（各授業に対して30分）。キーワードは授業毎に次の授業について指示する。

【事後学修】授業で取り扱った事柄について、紹介したHP、制度、図書などを参考にして調べ、まとめておく（各授業に対して60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用しない。授業毎に資料を配布する。

【推薦書】松浦直己（2015）．非行・犯罪心理学－学際的視座からの犯罪理解－ 明石書店

【参考図書】必要に応じて授業時に紹介する。

科目名	性格心理学		
担当教員名	中村 有		
ナンバリング	KAe246		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針 1・2 に該当します。

人間発達心理学科の生活科目領域の科目です。人を理解する方法として重要となる「感情」と「性格 (= 人格)」について座学で学びます。公認心理師法施行規則 (平成29年文部科学省・厚生労働省令第3号) 第1条に定められた「感情・人格心理学」内容に対応しています。

科目の概要

一般社会の中で広く使われる日常語としての「性格」は、各種メディアが日々提供する「血液型性格診断」や「各種チャート式性格診断」を通じて多くの人々が慣れ親しんでいます。しかし、それはまだ正式な学問からは遠くかけ離れた存在です。そこで、「性格とはなにか?」からスタートし、「人格という考え方」「作られ方」「影響」「病との関係」「問題行動との関係」など、学術的に学びます。また、対人関係で重視される「感情」についても理解を深め、その仕組みや影響などを学びます。

学修目標 (= 到達目標)

世の中で語られる「感情」「性格」と、学問として考察した「感情」「人格」との差異を理解する。
 日常の言動を、「感情」「人格」の学術的観点から説明できるようになる。

内容

この授業は座学による講義を基本に、必要に応じて心理検査・心理実験などの演習 (体験) を取り入れながら、学びを深めていく。

公認心理士大学カリキュラム (以下 ~) に対応した講義内容には、各回末尾に ~ 番号を明記。

感情に関する理論及び感情喚起の機序, 感情が行動に及ぼす影響, 人格の概念及び形成過程, 人格の類型・特性等

1	はじめに	講義の進め方
2	人格とは何か	社会における“性格”と“人格”の違いを考える (上記 該当)
3	人格と性格	人格の科学的理論と代表的理論 (上記 該当)
4	人格の作られ方 1	「人格の形成過程」前編 (上記 該当)
5	人格の作られ方 2	「人格の形成過程」後編 (上記 該当)
6	人格と対人関係	対人コミュニケーション方法: 自分と周囲の人たちとの関係・相性
7	感情とは何か 1	感情の基礎 (上記 該当)
8	感情とは何か 2	感情の理論 (上記 該当)
9	感情と行動の関係 1	認知と動機づけ (上記 該当)
10	感情と行動の関係 2	援助行動・共感性 (上記 該当)
11	感情・人格と適性	趣味・仕事との関係 (上記 該当)
12	感情・人格の異常	うつ病、パーソナリティ障害、精神疾患など (上記 該当)
13	感情・人格の理解	測定方法: 観察・面接・検査 (上記 該当)
14	感情・人格の修正	人格の修正・感情の制御 (上記 該当)

評価

平常点（通常講義内に課すレポート等）を30点、筆記試験を70点とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は、再試験をおこなう。公欠扱いになる病気（出席停止）・忌引き・交通機関による遅延等の試験欠席事由があり試験を欠席した場合は、追試を受験可能。

【フィードバック】毎授業の最初、前回授業の質疑について全体へ返答し、理解を促進する。

授業外学習

【事前準備】事前にキーワードなどを調べておき、当該週の学習ポイントを確認しておくことを推奨する。（各授業に対して60分）

【事後学修】板書・プリント・講義資料の内容を統合し、学習内容をしっかり身につけることを推奨する。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 特に指定しない

【推薦書】 講義中に適宜紹介します

【参考図書】 講義中に適宜紹介します

科目名	心理学リテラシー		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング	KAe047		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、学生の習熟の程度に合わせきめ細かく指導を行い、心理学を学ぶ基礎となるリテラシーを高めることをねらう授業である。

科目の概要

心理学を学ぶ基礎となるリテラシーの要素として、心理学に関係する文章の正確な読み取りと、統計処理の能力がある。これらを、初年度に確実に身につけるため、習熟の程度に合わせて、コース選択を行い、少人数で授業を進める。

学修目標 (= 到達目標)

自分自身の課題を明確にし、心理学に関係する文章の正確な読み取りと、統計処理の能力という心理学の基礎となる力を向上させる。

内容

1	授業の概要を説明する。基礎学力確認テストの結果を踏まえ、コース選択を行う。
2	第2回～第7回 コースに分かれた学修
3	<国語> 心理学に関係する文例を取り上げ、文章を読み取る力をつける。
4	<数学・基礎> 学科の学修に必要な数学の内容に特化して理解する。
5	<数学・補充> 数学の基礎的な内容から復習し、学科の学修に必要な内容を理解する。
6	
7	
8	第8回 これまでの学修を振り返り、後半のコース選択を行う。
9	第9回～第14回 コースに分かれた学修
10	<国語> 心理学に関係する文例を取り上げ、要約の力をつける。
11	<国語> 心理学に関係する文例を取り上げ、文章を読み取る力をつける。
12	<数学・基礎> 学科の学修に必要な内容に特化して理解を確認する。
13	
14	
15	これまでの学修を振り返り、今後の学修の進め方を検討する。

評価

授業に取り組む姿勢・態度・関心50点、確認テストの結果50点とし、60点以上を合格点とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。

授業外学習

【事前準備】授業のテキストの内容を確認し、自分自身の課題を把握して授業に臨む。

【事後学習】テキストの確認問題に取り組み、理解をより確実なものとする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】随時授業中に紹介する

【参考図書】随時授業中に紹介する

科目名	心理学リテラシー		
担当教員名			
ナンバリング	KAe047		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年		ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、学生の習熟の程度に合わせきめ細かく指導を行い、心理学を学ぶ基礎となるリテラシーを高めることをねらう授業である。

科目の概要

心理学を学ぶ基礎となるリテラシーの要素として、心理学に関係する文章の正確な読み取りと、統計処理の能力がある。授業は習熟の程度に合わせて、コース選択を行い、少人数で対応していく。

学修目標 (= 到達目標)

自分自身の課題を明確にし、心理学に関係する文章の正確な読み取りと、統計処理の能力という心理学の基礎となる力を向上させる。

内容	
1	授業の概要を説明する。基礎学力確認テストの結果を踏まえ、コース選択を行う。
2	第2回～第7回 コースに分かれた学修
3	<国語> 心理学に関係する文例を取り上げ、文章を読み取る力をつける。
4	<数学・基礎> 学科の学修に必要な数学の内容に特化して理解する。
5	<数学・補充> 数学の基礎的な内容から復習し、学科の学修に必要な内容を理解する。
6	
7	
8	第8回 これまでの学修を振り返り、コース選択を行う。
9	第9回～第14回 コースに分かれた学修
10	<国語> 心理学に関係する文例を取り上げ、要約の力をつける。
11	<国語> 心理学に関係する文例を取り上げ、文章を読み取る力をつける。
12	<数学・基礎> 学科の学修に必要な内容に特化して理解を確認する。
13	
14	
15	これまでの学修を振り返り、今後の学修の進め方を検討する。

評価

授業に取り組む姿勢・態度・関心50点、確認テストの結果50点とし、60点以上を合格点とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。

授業外学習

【事前準備】授業のテキストの内容を確認し、自分の課題を明らかにして授業に臨む。

【事後学修】テキストの確認問題に取り組み、理解をより確実なものとする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】随時授業中に紹介する

【参考図書】随時授業中に紹介する

科目名	子どもの発達と環境		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング	KAe248		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針1.2に該当する。本科目は「こどもサポーター（こころの支援）」資格要件科目である。子どもを取り巻く環境に注目して子どもの発達を捉えることをねらいとしているため、基礎となる「発達心理学概論」を履修済であることが望ましい。

科目の概要

子どもは生まれた瞬間から、子どもを取り巻く環境と相互作用しながら発達していく。子どもの発達に重要な環境は、物理的な環境だけでなく、養育者をはじめとする身近な大人や仲間などの人的な環境、また、より包括的な社会環境や文化的背景など、幅広い。また、現代では子どもを取り巻く環境は、大きくそして急速に変化している。本講義では、子どもの発達に重要な様々な環境についてトピック的に取り上げ、発達と環境の相互作用について考察していく。

学修目標

1. 子どもを取り巻く環境にはどのようなものがあるかを知る。
2. 子どもを取り巻く環境が子どもの発達にどのように関与するのかについて理解を深める。
3. 現代の子どもたちを取り巻く状況に対して問題意識を持って、望ましい環境のあり方を考える。

内容

講義形式の授業に代えてグループワークや討論を予定している。受講人数によって内容が変更になる場合がある。

1	人間の発達の特異性：子どもの発達をとらえる
2	子どもの発達における環境との相互作用
3	親子関係の発達：アタッチメントとは
4	親子関係の発達：家族というシステム
5	現在の子育て事情
6	少子化社会の家族・地域
7	文化的背景と子育て
8	言語の発達と環境：前言語期
9	言語の発達と環境：言語の発生
10	言語の発達と環境：学校の中での言語
11	子どもの文化：遊びの中にある学び
12	子どもとメディア
13	集団と遊び体験
14	子どもの発達に資する環境とは
15	まとめ

評価

講義内での課題や小レポート（40%）、中間レポート（30%）、最終レポート（30%）とし、総合得点60点以上で

合格とする。

レポート課題は授業内で講評を行う。中間レポート・最終レポートはコメントを記載して返却する。

授業外学習

【事前準備】提示されたトピックについて自分の経験を振り返ったり調べたりして考えをまとめておく（各授業に対して60分）

【事後学修】講義内で紹介した知見や考え方をふまえて、疑問点を調べたり、考察を深めたりすること（各授業に対して30分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【参考図書】授業内で適宜紹介する

科目名	認知心理学		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング	KAe349		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

- ・人間発達心理学科の学位授与方針 1・2 に該当する。
- ・心理専門科目 (選択必修) および公認心理師対応科目 (知覚・認知心理学) のひとつである。
- ・心理必修科目「心理学概論」での理解を踏まえて、本科目を履修する必要がある。

科目の概要

- ・人間の情報処理のプロセス (感覚・知覚、人間の記憶や注意、思考などの認知機能) について、心理学的なモデルや理論を平易に解説する。
- ・授業では、映像や簡易実験などを用いて、体験的理解を促すと同時に、科学的視点を養う。

学修目標 (= 到達目標)

- ・知覚認知心理学の基礎的知識を習得し、認知心理学における研究内容を理解する。
- ・現象のメカニズムモデルや理論を理解し、日常行動との対応関係等を説明できるようになる。
- ・認知心理学における研究法の理解から、問題や課題の発見・研究デザインの考案につなげる。

内容

講義を基本に、グループワークやディスカッションを適宜取り入れ、思考の交流を図る。

1	ガイダンス
2	認知の神経的基盤
3	視覚の神経的基盤
4	視覚パターン認知 - 視覚の初期・中期過程
5	視覚パターン認知 - 視覚の後期過程
6	認知心理学研究法
7	注意 - 選択的注意
8	注意 - 注意と記憶
9	記憶と学習 - 記憶の構造と理論
10	記憶と学習 - 記憶のプロセス
11	知識表現 - 意味ベースの知識表現
12	知識表現 - 知覚ベースの知識表現
13	思考と言語 - 演繹的推論
14	思考と言語 - 帰納的推論
15	まとめ

評価

中間テスト（2回程度、総合得点の50％）と期末試験（1回、総合得点の50％）をあわせて、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】各授業の最初に、前回の授業の質疑・感想等を取りあげ、学習に対する理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】事前に指示した課題（調べもの、配布プリントを読むなど）に取り組む（60分程度）

【事後学修】確認テストなどを通して復習（自身の理解に対するふりかえり）を行う（60分程度）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用しません。

授業で使用するパワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので、各自プリントして授業時に必ず持参すること。

【参考図書・推薦図書】必要に応じて、授業のなかで適宜紹介する。

科目名	恋愛と結婚の科学		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAe350		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間発達心理学科の学位授与方針1、2に該当する。人間発達心理学科の選択専門科目である。社会心理学の領域でも親密な異性関係の進展と崩壊について考える。社会心理学の基礎的知識がある程度必要であり、対人関係の心理学、コミュニケーションの心理学などとの関連がある。

社会心理学は、人と人との関係について扱う心理学の分野の1つである。青年期になると同性から異性へと親密な関係が拡大し、恋愛関係への関心も高まっていく。しかし、異性との親密な関係には同性との関係とは異なるルールやコミュニケーション方法、進展と崩壊のプロセス等が存在することが明らかになっている。先行研究で明らかとなっているこれらの結果を実証的なデータを示しながら紹介し、恋愛関係が持つ様々な機能について解説する。また近年、若者の恋愛離れに始まり、未婚や非婚率も増加している。近年の結婚に関する価値観の変化や夫婦関係で生じる問題等についても解説する。

親密な異性関係について、社会心理学の分野はどのようにアプローチし、何が明らかになっているのか、また何が問題として残されているのか、客観性に基づいた説明ができるよう理解を深めてほしい。恋愛関係や夫婦関係に関する興味は尽きないが、実際にその関係内で生じる現象を心理学的に明らかにすることは非常に難しい。また、異性に対する不安や親密な関係を築くことへの面倒さから、恋愛から離れがちになっている世代を対象とした講義であり、知識が実生活での関係作りに役立つことを望む。

内容

この講義は講義を基本に、リアクションペーパーを活用した全体共有やディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1. ガイダンス：恋とは何か？愛とは何か？
2. 愛を測定する方法
3. 恋愛のタイプと相性
4. 恋に落ちる！
5. 恋する脳 - 男女差に着目して -
6. 告白の成功率
7. 恋する2人の独特な世界
8. 中間テスト
9. 恋愛関係が破綻する時
10. 恋愛関係崩壊と新しい関係の探索
11. 近年の結婚事情 - 結婚する？しない？
12. 結婚生活と仕事
13. 夫婦関係と子育て
14. 夫婦関係のダークサイド (DV、離婚等)

15. まとめ

評価

中間テスト（30点）及び期末試験の成績（70点）で総合的に判断する。ただし、2/3以上の出席がなければ、単位は取得できない。総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回、リアクションペーパーに返答し、学習理解を深めるようにする。中間テストについては試験終了時に答え合わせをする。中間テストの成績については期末試験前に必ず返却する。

授業外学習

【事前準備】社会心理学の基礎的知識を、これまで受講した授業の教科書やプリントを基に復習し、ノートにまとめる（各授業に対して30分）

【事後学修】恋愛や結婚に関するニュースやデータ等を収集し、授業で解説された内容の理解を深める（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキストを購入する必要はない。適宜プリントを配布しながら、講義を進める。ただし、参考書などについては授業を進めながら紹介していく。

科目名	身体運動の心理学		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング	KAe351		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間発達心理学科の学位授与方針 1 , 3 に該当する。

科目の性格

心理学科の選択科目である。心や意識, 記憶や性格は箱に入って固定されている訳ではなく, 身体運動による環境との相互作用から立ち上がるダイナミックな現象であることを感じ取ってほしい。

「こころだって, からだ」なのである。

科目の概要

毎週 1 つのトピックについて, 実習を交えながら講義を進める。

毎回, 授業後に短いエッセイの提出を求める。

次の授業では優れたエッセイを紹介し, 復習と更なる学びの材料とする。

学修目標

身体と心, 脳に関する話題を概観しながら, 人間を観る眼をより柔軟にしたい。

心について深く考えるには, 身体の歴史や構造の基礎知識が不可欠である。

1) 身体が動く仕組み (筋骨格系から脳までの機能と構造), 2) 運動制御と運動学習の仕組み, 3) 身体運動と心理学との関わりを学び, 改めて人間を見直し, 心の多様さについて考える。

内容

講義を中心とするが。随時, 課題を設け, 個人・集団で取り組みながら学びを深める。

予定講義内容

- 1: イントロダクション。心を考えるときに身体に注目すべき 3 つの理由
- 2: 身体の構造と歴史。二足歩行から考える身体の進化
- 3: 心の進化その 1。道具の使用。火の使用。言語能力
- 4: 心の進化その 2。大きな脳の短所と長所。文化的 / 生物的遺伝子
- 5: 筋骨格系の基礎。骨の代謝・結合・関節。無重力と加齢による筋萎縮
- 6: 身体活動と消費カロリー。遅筋と速筋。カロリー計算。NEAT と生活習慣
- 7: 運動と食事。体重の恒常性。運動と睡眠。エネルギー代謝と進化
- 8: 身体と脳のつながり。視覚優位性。遠心コピー。神経細胞
- 9: 脳内ネットワークのシミュレーション。分散表現。教師あり学習。初期値
- 10: 動機づけと心構え。内発的動機。原因帰属。褒め方と心構え
- 11: 運動の制御と学習。記憶の分類。技能の定義。運動学習の過程
- 12: 運動の発達。学習との違い。PHV 年齢。運動能力の発達と運動指導
- 13: 身体が心を動かす。利他行為を支える動機と認知。
- 14: 振り返り。こころとからだ。こころはからだ。

評価

毎回の授業でエッセイの提出を求める。エッセイ50%と筆記試験50%を評価の対象とし，総合評価合計で60%以上を合格とする。エッセイにはコメントを付け，次回の授業で返却する。

授業外学習

【事前準備】前回講義での優れたエッセイを載せたプリントを予め配布するので，それを精読し，理解や考えを深めておく（各授業について15分）。

【事後学修】講義を通じて1)理解できたこと，2) 理解できなかったことや疑問，を文章としてまとめる練習をする（各授業について15分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】

ジャービス著，工藤和俊・平田智秋訳「スポーツ心理学入門」新曜社

その他の推薦図書については，授業の中で随時紹介する

科目名	知覚心理学		
担当教員名	安田 哲也		
ナンバリング	KAe352		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科DPの1, 2を満たす。

心理選択科目における選択必修の一つである。心理学の中でも、基礎的な心のはたらきについて扱う。

科目の概要

知覚とは、感覚器官を通して外界からの情報を受け取り、認識する機能である。本講義では、五感の基本的なはたらきを学ぶことで、私たちが知覚している世界についての理解を深める。本講義は、講義資料を用いた講義を行うと共に、逐次グループワークにより、研究から得られた知見を解釈するための議論を行うことを予定している。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 五感に関わる基本的な神経構造について理解する。
- 2) 人間の知覚特性や、それを測定する実証的方法について理解する。

内容

1	知覚心理学の概観
2	知覚心理学に用いられる実験手法
3	感覚・知覚の基本的特性
4	視覚の特性
5	錯視の知覚
6	形や運動等の知覚
7	視知覚に関するまとめ
8	聴覚の特性
9	音声コミュニケーションの特徴
10	音声知覚
11	視線知覚
12	顔認知
13	時間知覚
14	マルチモダリティと知覚
15	まとめ

評価

平常点 (計15点)、中間試験 (計25点)、期末試験60点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】逐次、授業内容に関連した配布プリントがあるのでそれを読んでおく[1.0時間]。

【事後学修】授業内容に関する内容についての復習を行う[1.0時間]。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】指定しない。配布資料等で行う。

【推薦書】授業内で適宜指示する。

【参考図書】授業内で適宜指示する。

科目名	健康心理学		
担当教員名	中村 有		
ナンバリング	KAe453		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

人間発達心理学科の学位授与方針 1・2 に該当する。

健康心理学は、他の心理学から独立した雰囲気を持っています。しかし、「基礎心理学」を活用する点では他の応用心理学と変わりません。「臨床心理学」と同様の病を扱いながら違う手法を用い、かつ多くの身体疾患にも対応する点に注目し理解を深めていく。

科目の概要：

「健康心理学とは健康の維持・増進、疾病の予防・治療、健康・疾病・機能不全に関する原因・診断の究明、およびヘルスケア・システム（健康管理組織）・健康政策策定の分析と改善に対する心理学領域の特定の教育的・科学的・専門的貢献のすべてをいう」、この一読すると難解で複雑でと感じる学問は、一方では「ポジティブ心理学」と呼ばれます。「人のこのような悪い部分がうつ病を招く」ではなく「人はこのような良い部分があるからうつ病を防げる」という考え方が特徴です。

学修目標：

- 1) 「人は、潜在能力・治癒力・成長力があると信じる」という立場を理解する。
- 2) 人の心身に隠れている素敵な部分を活かしてより良い存在へ成長させる方法を習得する。
- 3) 日常生活の中で健康心理学を活かし、自他が抱える様々な問題を解決するポイントを見いだす。

内容

この授業は座学による講義により理論・技法を学ぶことを基本に、学びを深めていく。

講義内容は「基礎・応用理論」と「査定・支援の実践技法」を一体に学ぶことを目指した一連の内容となり、各内容に応じた臨床例を紹介するため、全ての回に出席することを推奨する。

1	はじめに	講義の進め方
2	健康心理学の意義	「健康」と、それを「心理学」する意義を考える
3	健康心理学と臨床心理学	健康心理学を支える科学的な理論・技法と、臨床心理学の差異
4	健康心理学を学ぶ上で必要な考え方	健康心理学を形づくるキーワード
5	健康心理学の各論	人格（性格）とは何か、健康との関係、その理解を深める
6	健康心理学の各論	ストレスというものを科学的に考える
7	健康心理学の各論	ストレスとの向き合い方、解消・緩和・乗り越える方法
8	病気を考える	生活習慣病（ライフスタイル）
9	病気を考える	心身症
10	病気を考える	こどもからおとなまで
11	健康を考える	予防と促進
12	健康を考える	心理教育の重要性
13	健康心理学の技法	心理アセスメント（人の健康を把握・理解する方法）
14	健康心理学の技法	心理的サポート（人の健康を支える・改善する方法）

評価

平常点(通常講義内に行われるレポート)を30点、筆記試験(期末試験)を70点、で総合評価60点以上が合格となります。満たない場合は再試験を、公欠・忌引き・交通機関の遅延運休等の場合は追試験を実施します。

【フィードバック】毎回の授業開始時に、前回授業で受けた質疑について学生全体を対象に応答する。

授業外学習

【事前予習】テキストに目を通し、当該週の学習ポイントを確認しておく。(各授業に対して60分)

【事後学修】板書・プリント・テキストの内容を統合し、学習内容をしっかり身につける。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 小林芳郎 編著 『健康のための心理学』2006 保育出版社

【推薦書】 森 和代・石川利江・茂木俊彦 編 『よくわかる健康心理学』2012 ミネルヴァ書房

【参考図書】 日本健康心理学会 編 『健康心理学概論』2002 実務教育出版

科目名	脳と心の科学		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング	KAe454		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

- ・人間発達心理学科の学位授与方針 1・2 に該当する。
- ・心理専門科目 (選択必修) および公認心理師対応科目 (神経・生理心理学) のひとつである。
- ・心理必修科目「心理学概論」や「認知心理学」での理解を踏まえて、本科目を履修する必要がある。

科目の概要

・神経科学など関連諸分野における実験や臨床 (機能障害、精神疾患など) の研究紹介を交え、人間が外界を認知する情報伝達の神経・生理的仕組みを概説する。

- ・感覚・知覚といった無意識的レベルから、記憶や感情といった意識的レベルまでの生理学的な発生メカニズムを学ぶ。
- ・画像や映像、簡易的な実験デモを提示しながら、具体的かつ体験的な理解を促す。また、受講生自ら課題を発見し探究する力 = 科学的視点も養いたい。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 脳神経系の構造・機能、および、情報伝達における生理学的機序を理解する。
- 2) 実験や臨床データに基づき、脳と心の関係を理解を深めると同時に、研究の知見と社会とのつながり (研究成果と社会とのリエゾン) について考察する。

内容

講義を基本に、グループワークやディスカッションを適宜取り入れ、思考の交流を図る。

1	ガイダンス
2	脳の構造
3	神経の基盤
4	遺伝と環境
5	知覚機能と脳の関係
6	知覚に関する症例を通して
7	言語と脳の関係
8	言語に関する症例を通して
9	記憶と脳の関係
10	記憶に関する症例を通して
11	情動と脳の関係
12	情動に関する症例を通して
13	コミュニケーションと脳の関係
14	コミュニケーションに関する症例
15	まとめ

評価

中間テスト（2回程度、総合得点の50％）と期末試験（1回、総合得点の50％）をあわせて、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】各授業の最初に、前回の授業の質疑・感想等を取りあげ、学習に対する理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】事前に指示した課題（調べもの、配布プリントを読むなど）に取り組む（授業ごとに60分程度）

【事後学修】確認テストなどを通して復習（自身の理解に対するふりかえり）を行う（授業ごとに60分程度）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用しません。

授業で使用するパワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので、各自プリントして授業時に必ず持参すること。

【参考図書・推薦図書】必要に応じて、授業のなかで適宜紹介する。

科目名	文化と心理学		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

心理学や心理療法の観点から文化的現象を解釈して理解する。

本講義はこれまで受けてきた心理学教育を応用して、より高度な学問的施策を行おうとするものである。したがって、これまでの講義について復習をしてから参加することが必須。特にディプロマポリシー 「心理学的な研究方法から得られた実証的なデータに基づいて、人間、及び人間の発達に対する多面的な見方ができる」を目指す授業

科目の概要

本年度は文化の中でも特に芸術や美に着目して講義を行う。病態水準と芸術の関係や、美による癒しなど、心理療法における美の問題を取り上げ、それを心理学的に理解することが目指される。そのことによって、文化的現象に対して、心理学的な考察を行い、より深い心理学理解を促進する。

学修目標 (= 到達目標)

心理学や心理療法の観点から、美や芸術を理解することができるようになること。特に臨床心理学的視点を、一般文化現象に適用し、自分で意見を言えるようになることを目指す。

内容

この授業では、アクティブラーニングの要素を取り入れるために、トピックの変わり目ごとにグループワークを取り入れ、ディスカッションを促す。

1. イントロダクション
2. 美を心理学する 生きのびるための美学
3. 心理療法とは何か 治療文化論的再考
4. 深層心理学に美は見えない 古典的精神分析について
5. 美と謎 モナリザはなぜ美しいか
6. 絵はこころをいかに現すか バウムテストの世界
7. 表層心理学の誕生 対象関係論について
8. 水玉模様の精神病 断片化する心・装飾・草間彌生
9. 見にくいものは醜い 心の排泄物
10. 芸術はいかに癒すか? - 消化・昇華・浄化
11. 恋人のケータイを覗いてはいけない 見るなの禁止
12. 厚い皮膚に隠された心 三島由紀夫とエルサ
13. 美と謎 自閉症・一目惚れ・現代アート
14. 心理学は美を語れたか 真実の女神と詩の女神
15. まとめ

評価

毎回のレポート提出20点と、最後の大レポート80点によって評価を行う。総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業末にリアクションペーパーと、Google formを用いて質問や意見などを受付、双方向的な講義を実践する。

授業外学習

【事前準備】文献の該当箇所を読んてくる（各授業につき60分）

【事後学修】現代の心理学的事象について体験しててくる（各授業につき60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書 東畑開人 「美と深層心理学」 京都大学学術出版会

科目名	臨床現場の心理学		
担当教員名	青山 有希		
ナンバリング	KAe456		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針 1 . 2 に該当する。

この科目は、これまで学んできた様々な心理学領域のなかでも、とくに臨床現場に特化した心理学を中心に扱う。主に扱う臨床現場は、教育・福祉・発達の3領域である。本科目はこの3領域において、臨床現場での事例をもとにした理解と知識を深める。

科目の概要

現在、心理職者が仕事をしているのは、産業・労働、司法・法務・警察、教育、福祉、医療・保健、私設心理相談、大学・研究所等様々な領域である。そのなかでも、本科目は教育、福祉、発達の3領域の心理学に焦点をあて、事例や実際の心理職者のあり方を理解する。

学修目標 (= 到達目標)

- 1 . 事例へのアプローチ方法を理解する。
- 2 . 自分が現場にいたらどのようにアプローチをとるかを考える。
- 3 . 他者のアプローチ方法を知り、理解する。

内容

この授業は、講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	オリエンテーション：臨床現場の心理学の学び方
2	身近な心理職について振り返る
3	教育領域における心理 スクールカウンセラー
4	教育領域における心理 特別支援教育
5	教育領域における心理 教育相談
6	教育領域における心理 適応指導教室
7	教育領域における心理 就学相談
8	発達領域における心理 乳幼児健診 (1歳6か月健診)
9	発達領域における心理 乳幼児健診 (3歳6か月健診)
10	福祉領域における心理 虐待
11	福祉領域における心理 虐待 (カンファレンス)
12	福祉領域における心理 虐待 (他機関との連携)
13	福祉領域における心理 特別支援学校
14	福祉領域における心理 就労支援
15	ふりかえりとまとめ

評価

授業中の参加度およびリアクションペーパー（75%）発表内容（25%）により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。
【フィードバック】毎回、授業の最初に前回授業の質問や他の学習者の学びが深まる意見を伝え、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】各回のキーワードについて新聞やニュース等で調べ、ノートにまとめる。（各授業に対して60分）【事後学修】他の学習者や講師の意見等で学びが深まったことをノートにまとめる。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】夏に出版予定のテキストを講義前半に指示します。
【推薦書】小野明美・小湊真衣・奥田訓子 特別支援教育・保育概論 萌文書林 2019
その他必要に応じて図書等について、授業時に紹介する。

科目名	感情・人格心理学		
担当教員名	中村 有		
ナンバリング	KAe282		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針 1・2 に該当します。

人間発達心理学科の生活科目領域の科目です。人を理解する方法として重要となる「感情」と「性格 (= 人格)」について座学で学びます。公認心理師法施行規則 (平成29年文部科学省・厚生労働省令第3号) 第1条に定められた「感情・人格心理学」内容に対応しています。

科目の概要

一般社会の中で広く使われる日常語としての「性格」は、各種メディアが日々提供する「血液型性格診断」や「各種チャート式性格診断」を通じて多くの人々が慣れ親しんでいます。しかし、それはまだ正式な学問からは遠くかけ離れた存在です。そこで、「性格とはなにか?」からスタートし、「人格という考え方」「作られ方」「影響」「病との関係」「問題行動との関係」など、学術的に学びます。また、対人関係で重視される「感情」についても理解を深め、その仕組みや影響などを学びます。

学修目標 (= 到達目標)

世の中で語られる「感情」「性格」と、学問として考察した「感情」「人格」との差異を理解する。
 日常の言動を、「感情」「人格」の学術的観点から説明できるようになる。

内容

この授業は座学による講義を基本に、必要に応じて心理検査・心理実験などの演習 (体験) を取り入れながら、学びを深めていく。

公認心理士大学カリキュラム (以下 ~) に対応した講義内容には、各回末尾に ~ 番号を明記。

感情に関する理論及び感情喚起の機序, 感情が行動に及ぼす影響, 人格の概念及び形成過程, 人格の類型・特性等

1	はじめに	講義の進め方
2	人格とは何か	社会における“性格”と“人格”の違いを考える (上記 該当)
3	人格と性格	人格の科学的理論と代表的理論 (上記 該当)
4	人格の作られ方 1	「人格の形成過程」前編 (上記 該当)
5	人格の作られ方 2	「人格の形成過程」後編 (上記 該当)
6	人格と対人関係	対人コミュニケーション方法: 自分と周囲の人たちとの関係・相性
7	感情とは何か 1	感情の基礎 (上記 該当)
8	感情とは何か 2	感情の理論 (上記 該当)
9	感情と行動の関係 1	認知と動機づけ (上記 該当)
10	感情と行動の関係 2	援助行動・共感性 (上記 該当)
11	感情・人格と適性	趣味・仕事との関係 (上記 該当)
12	感情・人格の異常	うつ病、パーソナリティ障害、精神疾患など (上記 該当)
13	感情・人格の理解	測定方法: 観察・面接・検査 (上記 該当)
14	感情・人格の修正	人格の修正・感情の制御 (上記 該当)

評価

平常点（通常講義内に課すレポート等）を30点、筆記試験を70点とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は、再試験をおこなう。公欠扱いになる病気（出席停止）・忌引き・交通機関による遅延等の試験欠席事由があり試験を欠席した場合は、追試を受験可能。

【フィードバック】毎授業の最初、前回授業の質疑について全体へ返答し、理解を促進する。

授業外学習

【事前準備】事前にキーワードなどを調べておき、当該週の学習ポイントを確認しておくことを推奨する。（各授業に対して60分）

【事後学修】板書・プリント・講義資料の内容を統合し、学習内容をしっかり身につけることを推奨する。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 特に指定しない

【推薦書】 講義中に適宜紹介します

【参考図書】 講義中に適宜紹介します

科目名	知覚・認知心理学		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング	KAe383		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

- ・人間発達心理学科の学位授与方針1・2に該当する。
- ・心理専門科目 (選択必修) および公認心理師対応科目 (知覚・認知心理学) のひとつである。
- ・心理必修科目「心理学概論」での理解を踏まえて、本科目を履修する必要がある。

科目の概要

- ・人間の情報処理のプロセス (感覚・知覚、人間の記憶や注意、思考などの認知機能) について、心理学的なモデルや理論を平易に解説する。
- ・授業では、映像や簡易実験などを用いて、体験的理解を促すと同時に、科学的視点を養う。

学修目標 (= 到達目標)

- ・知覚認知心理学の基礎的知識を習得し、認知心理学における研究内容を理解する。
- ・現象のメカニズムモデルや理論を理解し、日常行動との対応関係等を説明できるようになる。
- ・認知心理学における研究法の理解から、問題や課題の発見・研究デザインの考案につなげる。

内容

講義を基本に、グループワークやディスカッションを適宜取り入れ、思考の交流を図る。

1	ガイダンス
2	認知の神経的基盤
3	視覚の神経的基盤
4	視覚パターン認知 - 視覚の初期・中期過程
5	視覚パターン認知 - 視覚の後期過程
6	認知心理学研究法
7	注意 - 選択的注意
8	注意 - 注意と記憶
9	記憶と学習 - 記憶の構造と理論
10	記憶と学習 - 記憶のプロセス
11	知識表現 - 意味ベースの知識表現
12	知識表現 - 知覚ベースの知識表現
13	思考と言語 - 演繹的推論
14	思考と言語 - 帰納的推論
15	まとめ

評価

中間テスト（2回程度、総合得点の50％）と期末試験（1回、総合得点の50％）をあわせて、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】各授業の最初に、前回の授業の質疑・感想等を取りあげ、学習に対する理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】事前に指示した課題（調べもの、配布プリントを読むなど）に取り組む（60分程度）

【事後学修】確認テストなどを通して復習（自身の理解に対するふりかえり）を行う（60分程度）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用しません。

授業で使用するパワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので、各自プリントして授業時に必ず持参すること。

【参考図書・推薦図書】必要に応じて、授業のなかで適宜紹介する。

科目名	教育心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KAf157		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科・学位授与方針2に該当する。人間発達心理学科の専門科目として、初学者を対象として、学校教育に活用しうる心理学的知識の習得を目指す科目である。同時に、養護教諭教職課程のける教職に関する科目のうちの教育の基礎理論についての理解を深める科目である。本科目は、「教育現場における課題を見出し、専門教育で習得した理論・概念・知識・技能を用いて、その解決に臨む意欲を養う」ことを目指す。

科目の概要

教職志望の初学者を主な対象として、学習の過程、および児童生徒の心身の発達について、教育心理学的な知見を学ぶとともに、学校教育現場における具体的な問題についての理解を深める。障害をもった子どもたちの発達、および特別な支援のあり方についても取り扱う。児童・生徒であった、そして学生である受講生に対して、「教える」、「学ばせる」、「学びを支援する」という「教師の立場」から、教育・指導や学習活動を客観的かつ分析的な視点からとらえようとする態度を育むことを目指す。

学修目標

教育心理学的な考え方や知識に基づいて、学校教育における学習活動の客観的に理解することができる。さらに、よりよい学習活動を展開するための工夫や特別な支援を必要とする子どもたちの学習活動のあり方について、心理学的知見に基づいて具体的に考えることができるようになる。

内容

1. 教育心理学と学校教育
2. 学習の動機づけ(1) 動機づけのメカニズム、内的欲求
3. 学習の動機づけ(2) 内発的動機づけと外発的動機づけ
4. 学習の基礎理論
5. 教授学習における学習理論
6. 協同学習の理論と実践
7. 学級の心理学
8. 学習の個性化、個別的ニーズへの対応
9. 教育評価
10. 発達(1) 発達の一般的特徴、発達を規定する要因
11. 発達(2) 発達段階と発達課題
12. 学習者の特性理解(1) 知的能力の発達と測定
13. 学習者の特性理解(2) パーソナリティの理論と測定
14. 学習者の特性理解(3) 障がいに応じた特別支援教育
15. 学習のまとめと確認

授業では、学修事項に対する主体的な理解を深めるために、学校教育への適用に関する受講生間でのディスカッションを展

開し、そのまとめをWEB上に提出することを求める。

評価

筆記試験：90点，授業内課題10点の計100点で、60点以上を合格とする。

授業内課題については翌週にコメントや採点したものを返却する。

WEB利用によるリアクションペーパーを実施し、記載内容に対しては授業内で全体に対してコメントをフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】学習予定の章を読み、章末の課題に対する回答を作成すること(各授業に対して60分)

【事後学修】授業内で使用・記入したプリントをもとに、学習内容をノートにまとめ直すこと
自身の学校教育経験と学修事項を結びつけてみること(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 櫻井茂男(編)『改訂版・たのしく学べる最新教育心理学』 図書文化社

科目名	子どもの生活と保健		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング	KAf358		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針3に該当する。同学科専門科目の教育・保健科目領域に位置付けられた選択科目である。

科目の概要

本講義は、子どもの健康を守る生活や環境について、乳幼児期から児童期に分けて段階的に学ぶ。

この講義を受講することで、妊娠時から子どもの健康を守る視点を持ち、子どもの成長発達に伴う身体的特徴や病気・事故の予防のための手立てや対策、罹りやすい病気や症状に対するケアについて習得することができる。

学修目標 (= 到達目標)

- ・乳幼児期から児童期までの発育・発達について理解できる。
- ・基本的な子育ての技術を習得できる。
- ・子どもが健康に成長できる環境について考えることができる。
- ・子どもの病気や事故について理解し、対応ができる。

内容

本講義では実技演習も行います。そのため受講生が多数の場合は受講人数を制限 (40名以内) します。

1	オリエンテーション、子どもの生活と保健とは
2	子どもの成長発達 (形態機能の発達)
3	子どもの成長発達 (生理機能の発達)
4	子どもの成長発達 (脳神経・運動機能の発達)
5	乳児と栄養 (調乳と離乳食)
6	乳児の生活と養護 (抱っこ・衣服・排泄)
7	乳児の生活と養護 (沐浴実習)
8	乳児の生活と養護 (沐浴実習)
9	子どもの病気と看護 (小児感染症)
10	子どもの病気と看護 (子どもによくみられる症状に対する看護)
11	グループワークプレゼンテーション (子どもの発達・しつけに関するテーマ)
12	グループワークプレゼンテーション (子どもの育児環境と社会問題に関するテーマ)
13	子どもの安全管理と応急手当
14	多胎育児家庭の支援
15	妊娠・出産・育児を取り巻く環境と保健サービス、まとめ

評価

グループワーク等を行うので積極的に参加し意欲的に取り組むこと。講義への参加状況20%、プレゼンテーション20%

、レポート60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業の初めに前回授業の質疑に返答し、学習理解を深める。

授業外学習

【事前準備】次週の内容についてこれまでの経験や学習をふまえて疑問に感じていること等をノートに整理しておく（60分）。授業内で問いかけ応じられるように準備する。

【事後学修】单元ごとに授業で得た知識をふまえて乳幼児を観察し、そこでの気付きについてノートに記載する（60分）。さらに育児中の母親の想いについて考え、記載する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】大西文子編著「子どもの保健演習」中山書店

【推薦書】巷野悟郎監修「最新 保育保健の基礎知識」日本小児医事出版

科目名	生徒指導		
担当教員名	永作 稔		
ナンバリング	KAf459		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、人間発達心理学科生の教職科目の1つで、必修科目である。また学位授与方針の2「心理学における基本的な理論や概念を理解し、共感的理解や対人コミュニケーション能力を身につける

科目の概要

生徒指導の意義・目的、課題、内容、方法等について、理解を深めることを目的とする。

学修目標 (= 到達目標)

生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。

内容

毎回の授業はパワーポイントによる講義を中心に行う。また授業のふりかえりと感想や疑問について教員学生間で共有するために、**グーグルフォーム**もしくは紙媒体の相互コミュニケーションツールを用いて**アクティブラーニング**を行う。

1	1.はじめに (学生の小中学校時の生徒指導上の体験)
2	2 . 生徒指導で児童生徒につけたい力とは
3	3 . 生徒指導上の問題発生時の指個別指導とは
4	4 . 生徒指導上の問題発生時の集団指導とは
5	5 . 生徒指導上の問題の再発防止、予防的指導、組織的な指導とは
6	6 . 生徒指導のねらいである、健全な成長を促すための指導とは
7	7 . 「生徒指導は児童理解に始まり、児童理解に終わる」とは
8	8 . 生徒指導を活かした、より良い授業の在り方とは
9	9 . 生徒指導を活かした、授業以外の場面での指導の在り方とは
10	10 . 教師による「懲戒」と「体罰」とは
11	11 . いじめ問題の対応とは
12	12 . 保健室経営に係る生徒指導上の課題とは
13	13 . 担任や学年との連携の在り方とは
14	14 . 埼玉県の生徒指導上の施策と学校・家庭・地域とは
15	まとめ

評価

試験60%、平常の参加態度、出席日数、提出物で評価する。総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回の授業後に行う小レポートに基づいて、次回冒頭でフィードバックを行う。

授業外学習

【事前学習】主体的な学びに向け、教科書の予習を行い，不明な用語などについては予め調べておくこと（各授業90分）

【事後学習】パワーポイント等の授業教材を復習し，理解が不十分であることについては各自で調べてノートなどにまとめておくこと（各授業90分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「生徒指導提要」平成22年3月 文部科学省 以下URLからダウンロード可能である。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1404008.htm

書籍購入の場合は，教育図書から¥298で販売されている。Amazon等で購入できる。

「生きる力を育む生徒指導」平成30年4月 藤田主一・齋藤雅英・宇部弘子・市川雄一郎（編） 福村出版
いずれの教科書も授業中に参照できるように各自準備すること。

科目名	教育相談		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング	KAf460		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

【科目の性格】

人間発達心理学科の学位授与方針1, 2にあたる。

近年、学校現場では、不登校やいじめ、校内暴力といった問題に加えて、発達障害や小児うつ、心身症など心理学的課題も増加している。それらに適切に対処するためには、教育相談に係る基本的知見の獲得が求められる。そこで、本科目は教育・保健領域の1科目として「生徒指導」等と関連させながら児童生徒への教育相談活動について学ぶ。

【科目の概要】

教育相談の理論や技法に関する基礎的知識について、事例も交えて具体的・体系的・総合的に学ぶ。また、児童生徒から相談を受けた際に身につけておくべき基礎知識を解説し、個々の児童生徒の状況を把握し評価するための知識や方法についても学ぶ。

【学修目標】

学校教育における教育相談の重要性を認識する。

児童生徒を指導するために身につけておくべきカウンセリング理論や技法などの基礎知識を習得する。

個々の児童生徒の状況を把握し評価するための基礎知識を習得する。

地域・社会・家庭との連携について学ぶ。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	教育相談の歴史と今日的課題
2	学校教育における「教育相談」の位置づけ・役割
3	相談援助における児童生徒の理解
4	児童期的人格形成と適応
5	思春期・青年期的人格形成と適応
6	教育相談・援助の基本 カウンセリング理論
7	教育相談・援助の基本 カウンセリング技法
8	児童生徒の行動の理解と対応 不登校
9	児童生徒の行動の理解と対応 いじめ
10	児童生徒の行動の理解と対応 発達障害
11	児童生徒の行動の理解と対応 非行
12	教育相談の実際(事例から学ぶ) 校内連携
13	教育相談の実際(事例から学ぶ) 家庭・地域との連携
14	教育相談の実際(事例から学ぶ) 事件事故・災害時の緊急対応
15	まとめ

評価

授業中の提出物30%、試験70%により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。

提出されたレポート等は、翌週以降の授業内にフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】予告した次回の講義内容について、関連図書などで事前学習をする。（各授業に対して60分）

【事後学修】学習した知識の定着を行い、実際場面での活用方法についてまとめる。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない

【推薦書】岡田守弘監修 「教師のための学校教育相談学」ナカニシヤ出版 2008

小林正幸他編 「教師のための学校カウンセリング」有斐閣アルマ 2008

【参考図書】授業中に適宜紹介する。

科目名	学校保健		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング	KAf161		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針3に該当する。

教育職員免許法施行規則による養護教諭の免許に必要な「養護に関する科目」に位置づけられる。

科目の概要

学校教育における学校保健の意義、学校保健の仕組みや基礎的事項について理解することを目指す。学校保健において大きな役割を持つ養護教諭の活動について重点をおいて講義を行う。

学修目標（＝到達目標）

1. 学校教育における学校保健の意義や機能について理解する。
2. 学校保健における基礎的事項について理解する。
3. 学校保健における養護教諭の役割を理解する。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク・プレゼンテーションを取り入れながら学びを深めていく。

1	学校教育と学校保健
2	学校保健の意義と関連法規
3	学校保健の領域構造と学校保健関係者
4	学校保健計画の法的根拠と意義・内容
5	学校における保健教育
6	保健指導の進め方
7	健康相談の意義と進め方
8	養護教諭が行う健康相談 筆記試験
9	健康観察の意義と法的根拠
10	健康診断の意義と法的根拠
11	健康診断の種類と項目
12	子どもの発育発達と学校保健
13	学校における喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育
14	学校保健組織活動 筆記試験
15	まとめ

評価

筆記試験（小テストを含む）8割、レポート1割、通常の授業への参加度1割により評価とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。【フィードバック】提出されたレポート・試験はコメントを記載し翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】次回の内容について課題を出す。1時間程度の予習が必要である。

【事後学修】学修内容についてノートにまとめながら1時間程度の復習（まとめ）が必要である。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業中に適宜示す

科目名	健康相談活動		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング	KAf462		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

専門教育で習得した理論・概念・知識・技術により、生活支援能力や身体のケア能力を身につける。具体的には子どもの健康問題に関して、医学的な知識をもとに発達心理学で学んだ知識・技能も活用しながら心身の問題に対して、的確なアセスメント及び支援能力を身につける。

科目の概要

「学校保健」「養護概説」で学んだ健康相談に関する答申や法律、養護教諭の職務の特質、健康相談のプロセス等を再度確認する。その上で養護教諭として子どもの行動や健康状態に対する観察やアセスメントの視点、対応方法を演習に取り入れながら学習する。さらに、学級担任や保護者との連携方法も演習を取り入れながら具体的に学習をする。

学修目標 (= 到達目標)

健康相談の基本的なプロセスを理解し、各事例に応じて子どもの行動や健康状態に対する観察やアセスメントができ、その対応方法を考えることができる。

内容

1	健康相談の重要性と法的根拠 (講義とGW)
2	学校における健康相談の基本的事項 (講義)
3	学童期における心身の健康問題の特徴 (講義とGW)
4	青年期における心身の健康問題の特徴 (講義とGW)
5	健康相談における養護教諭、学級担任、学校医等の役割 (講義とGW)
6	健康相談のプロセス 1 問題の把握 アセスメント (GWと全体討議)
7	健康相談のプロセス 2 アセスメント 対応 (GWと全体討議)
8	健康相談における基本的な技術及び留意点 (講義)
9	役割演技による相談の実際 1 (ロールプレイ)
10	役割演技による相談の実際 2 (ロールプレイ)
11	役割演技による相談の実際 3 (ロールプレイ)
12	役割演技による相談の実際 4 (ロールプレイ)
13	学校における健康相談の進め方と支援体制づくり (全体討議)
14	事例検討会の進め方と実際 (GW)
15	まとめ (ロールプレイと講義)

評価

筆記試験7割、演習に対する取り組み態度を3割として総合評価60点以上を合格とする。 毎時間提出する学びシートに

関しては次回の授業でコメントをする。筆記試験の結果は最終授業で振り返りと解説をする。

授業外学習

【事前予習】2年次までに取得している「養護概説」の健康相談に関する内容をまとめておくこと。毎時間1時間程度の予習が必要である。

【事後学修】関連科目とのつながりも含めて授業で学んだことをまとめる。1時間程度の復習が必要である。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】[養護概説] 采女智津江他 少年写真新聞社

【参考図書】「教職員のために子どもの健康相談及び保健指導の手引」 文部科学省 平成23年

科目名	免疫学		
担当教員名	ハク ランラン		
ナンバリング	KAf163		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間発達心理学科の学位授与方針3に該当する

科目の性格

人間発達心理に關与する免疫とアレルギーを扇元敬司著の教科書「わかりやすいアレルギー・免疫学講義 (日本図書館協会推薦図書)」によって学ぶ。

科目の概要

免疫とアレルギーについて教科書項目に沿って解説する。さらにその後、要点とまとめをわかりやすくスライド (PowerPoint) で説明する。尚使用した「スライド」は講義終了後に学内ネットワーク【フォルダUドライブ】に開示して学習の参考に供する。

学修目標 (= 到達目標)

免疫とアレルギーの基礎を理解することを学修目標とする。

1. 高校で学んだ免疫とアレルギーの知識を整理する。
2. 免疫とアレルギーの歴史について理解する。
3. 自然免疫と獲得免疫について学ぶ。
4. 感染症とワクチンについて理解する。
5. 免疫異常とアレルギー型別について学ぶ。

内容

1	I部：生体防御・免疫システム。免疫学とアレルギーの歴史。
2	自然免疫システム
3	免疫を担当する器官と細胞
4	獲得免疫システム
5	サイトカイン・エフェクター細胞
6	感染症とワクチン・移植免疫と腫瘍免疫。中間まとめ
7	II部：免疫異常・アレルギー。エイズ・免疫不全症・自己免疫疾患
8	アレルギー・アナフラキシー
9	アレルギー対策・予防・検査法
10	アレルゲン
11	花粉症・鼻アレルギー・眼アレルギー
12	アトピー・アレルギー性鼻炎・蕁麻疹
13	小児アレルギー・気管支喘息
14	食物アレルギー・環境アレルギー・シックハウス
15	職業アレルギー・心理免疫アレルギー。まとめ。

評価

中間筆記テスト(40点)、期末筆記テスト(40点)、授業態度(20点)によって評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は「再試験」を行う

授業外学習

【事前準備】「チェックポイント」の全体把握。セルフチェック問題集A選択問題予習。学内LANパワーポイント予習。

【事後学修】「復習」の内容把握。「研究課題」解答。セルフチェック問題集B記述問題解答。学内LANパワーポイント解説。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】扇元敬司 著「わかりやすいアレルギー・免疫学講座」講談社(2007)

【推薦書】扇元敬司 訳、K.Vedhara, M. Irwin著「心理免疫学概論」川島書店(2008)

扇元敬司 著「やさしいバイオのための微生物学」講談社(2012)

扇元敬司 著「バイオのための基礎微生物学」講談社(2002)

科目名	栄養学		
担当教員名	端田 寛子		
ナンバリング	KAf064		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針3に該当する。

本科目は、養護教諭一種免許を取得するための必修科目である。養護教諭が生徒の健康管理を行う上で必要な栄養学・食品学の基礎を学修する。

科目の概要

栄養の概念、ヒトが生きていくために必要な栄養素の種類と生理機能について学ぶ。さらに成長、発育、加齢による人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態の変化について理解し、各ライフステージにおける望ましい食事のあり方を学修する。

学修目標

1. 食品とそれに含まれる栄養素の性質や機能に関する基礎知識を修得する。
2. 成長、発育、加齢に伴う心身機能の変化と栄養の基礎を理解する。
3. 健康の保持・増進における食の重要性を理解する。

内容

この授業は講義を基本に、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	食生活の意義
2	健康と栄養の歴史
3	健康と栄養に関わる行政
4	栄養学の基礎 (1) タンパク質
5	栄養学の基礎 (2) 糖質
6	栄養学の基礎 (3) 脂質
7	栄養学の基礎 (4) ビタミン・ミネラル
8	ライフステージと食生活 (1) 乳幼児期
9	ライフステージと食生活 (2) 学齢期
10	ライフステージと食生活 (3) 青年期・壮年期・老年期
11	安全面から見た食生活
12	環境面から見た食生活
13	健康のための食生活 (1) 飢餓・欠乏症への取り組み
14	健康のための食生活 (2) 肥満・生活習慣病への取り組み
15	まとめ

評価

中間テスト (30%)、定期試験 (60%)、授業への取り組み (10%) により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回の授業の質疑に返答し、学修理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】次回の講義で取り扱うテキストを事前に読み、理解を深めておく。自分なりに内容を整理しまとめておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】講義の内容については復習することを必修とし、配布資料等について各自で内容を理解し、深められるよう復習ノートを作成しておく。（各授業に対して60分）日頃から食に関心を持つ。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】吉田勉監修 堀坂宣弘・宮沢栄次編著「私たちの食と健康-食生活の諸相（第2版）」三共出版

【参考書】日本栄養・食糧学会編「栄養・食糧学用語辞典」建帛社

科目名	解剖生理学		
担当教員名	松葉 剛		
ナンバリング	KAf165		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間生活学部の学位授与方針 1, 2, 3 に該当する。

ヒトの心理活動の基盤となる脳と神経に加え、その活動を維持するための人体の仕組みについて講義する。他の専門科目に関連して必要な人体の構造と機能に関する基礎的知識を体系的・学際的に習得できる。

科目の概要：

人体を構成する細胞、組織、器官および器官系の構造と空間的位置関係、各構造ではたらく生理活性物質について解説し、ヒトの生命活動における各器官の役割と機能的相互関連を学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)：

- ・人体の成り立ちを分子、細胞、組織および器官のレベルで構造的および機能的に理解する。
- ・各器官に関する知識の習得により、器官が機能的に連携した各器官系の役割が理解できる。
- ・各器官系相互の構造的および機能的関連性の理解から、1 個体としての人体の成り立ちについて解剖生理学的知識が習得できる。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	解剖学・生理学総論
2	循環器1 心臓の構造 心周期と刺激伝送系
3	循環器 体液組成 血圧と調整
4	骨1 骨の形態と種類
5	骨 骨の名称
6	筋肉1 平滑筋と骨格筋 筋収縮
7	筋肉 筋の名前の付け方
8	呼吸器 上・下気道 ガス交換と運搬 呼吸運動 換気障害
9	消化器1 消化管 食道 胃 小腸 結腸
10	消化器 肝臓・胆嚢・膵臓
11	腎臓・泌尿器 尿の生成と腎臓の機能
12	生殖器
13	感覚器 眼 耳 皮膚
14	脳・神経 神経細胞 脳と脊髄 髄膜 脳神経 自律神経
15	まとめ

評価

筆記試験により評価し、60 点以上を合格とする。ただし、評価を受けるには3分の2以上の出席が必要。60 点未満の場合は不合格とする。

【フィードバック】 舞授業の最初に前回授業の要点についてまとめ、質疑応答を行い、学習内容を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】 各回の受講前に教科書の該当ページをよく読んでおく。テキストに記載された課題（スケッチなど）を行う（45分程度）。

【事後学修】 講義後に学内HPに公開する講義内容を参考に各自まとめ、理解できていない項目を明確にし、自己学習するとともに、不明な点は講義後等の時間を活用して積極的に質問する（45分程度）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 坂井建雄、岡田隆夫共著・解剖生理学・医学書院、第9版、ISBN:978-4-260-01826-5

【推薦書】 佐伯由香・細谷安彦・高橋研一・桑木共之編訳、トータル人体解剖生理学、丸善出版
内田さえ・佐伯由香・原田玲子編集、人体の構造と機能、第4版、医歯薬出版

【参考図書】 二葉千鶴 著、はじめての解剖生理学、東海大学出版部

科目名	公衆衛生学		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング	KAf466		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針3に該当する。

専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられている選択科目である。

教員免許取得希望者、社会福祉主事任用資格取得希望者を中心として授業を進める。

科目の概要

公衆衛生は「公の衆の生を衛る」という意味であり、集団における健康を社会や環境との関連の中で、疾病の予防と健康の保持・増進を図るためにはどうするかを考えていく学問である。

健康と疾病との関係について予防対策を軸に、関連統計情報や社会的報道等を資料として、教員や社会福祉主事になった際に応用できる身近な学問としての公衆衛生学を展開していく。

学修目標 (= 到達目標)

- ・健康とはどのような状態であるか説明できる。
- ・健康づくりのための予防医学の方策を具体的に説明できる。
- ・保健統計の数値とその意義を適切に説明できる。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク・実験を取り入れながら学びを深めていく。

1	オリエンテーション 公衆衛生学序論
2	保健統計
3	保健統計
4	疫学
5	疾病予防と健康管理 (グループワーク)
6	疾病の予防
7	疾病の予防
8	健康政策と衛生行政、筆記試験
9	環境保健 (測定演習・実験)
10	環境保健 (測定演習・実験)
11	母子保健・学校保健
12	産業保健
13	高齢者保健
14	国際保健医療、筆記試験
15	まとめ

評価

免許取得に必要な科目であるため出席は2/3以上を単位認定の必須条件とする。授業への参加度20%、2回の筆記試験80%とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は「再試験」を実施する。【フィードバック】提出されたレポート・試験はコメントを記載し翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】日頃から新聞やニュースなどの官公庁が発表する公衆衛生データを読んでおくこと。

【事後学修】授業の理解と定着のために毎授業ごとにノート整理等の短時間の復習が必要。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】シンプル衛生公衆衛生学2019（南江堂）

講義に応じたプリントをその都度配布する。

【推薦書】厚生労働統計協会「国民衛生の動向」

【参考図書】高校で使用した保健体育科の教科書

科目名	看護学概論		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング	KAf367		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

人間発達心理学科の学位授与方針3に該当する。同学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられており、養護教諭免許取得のために定められた養護に関する科目の必修科目となっている。この科目の単位を修得しておかないと「養護実習」には臨むことはできない。また、社会福祉主事任用資格取得に関連している科目でもある。

科目の概要：

看護の対象は、さまざまな環境の中で生活をしている人間である。看護では、対象の健康の回復あるいは増進をはかり、対象の欲求を充足することをめざす。ここでは、人間の健康と生活を理解し、人間が本来持っている自然治癒力の向上を目指すために、根拠に基づいた看護実践の基礎となる理論および看護の視点を学び、看護支援の基礎的知識を学習する。

学修目標：

1. 看護の本質が理解でき、看護における安全安楽の意味が説明できる。
2. 看護における観察の意味がわかる。
3. 日常生活において、人間のニーズ充足のための看護支援が理解できる。
4. 体調の不調を訴えた際の基本的な看護支援が説明できる。

内容

この授業は講義を基本に、個人ワークと討論も適宜盛り込み進めていく。また本科目は、後期の「看護援助方法」の前提条件とする。履修を予定している学生は、本科目単位を修得しておかないと、「看護援助方法」は履修できない。

1	看護の本質と看護の対象
2	人間の尊厳と健康
3	疾病予防と看護
4	看護における観察
5	日常生活における看護 安楽と環境調整と睡眠・休息
6	日常生活における看護 栄養・食事と排泄
7	日常生活における看護 身体の清潔保持
8	看護学概論（総論）のまとめ
9	不調を訴えた人への看護 電法
10	不調を訴えた人への看護 発熱、痰・咳、呼吸困難のある人への看護
11	不調を訴えた人への看護 嘔気嘔吐、排便障害、脱水のある人への看護
12	不調を訴えた人への看護 浮腫、腫脹、褥瘡、発疹のある人への看護
13	不調を訴えた人への看護 めまい、疼痛のある人への看護
14	不調を訴えた人への看護 熱中症、アナフィラキシーの人への看護
15	看護学概論（各論）のまとめ

評価

授業の参加貢献（10%）、2回の筆記試験（90%）により総合的に評価し、60点以上を合格とする。総合評価が60点未満の場合は再試験を実施するが、その際は筆記試験のみの点数で60点以上を合格とする。【フィードバック】授業の初めに前回授業の質疑応答に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】指定の単元に関して教科書を読み、ノートにまとめ、授業中の問いかけにこたえられるように準備しておく（1時間）。日頃から健康に関するTV番組（授業中に指示）を見て、関連の知識を深めておく。

【事後学修】配布した資料を独自のノートに貼付しコメントをつけ整理し授業を振り返る（90分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】萱場一則編著 『暮らしの看護』建帛社

【推薦書】坪井良子・松田たみ子編 『考える基礎看護技術 看護技術の基本』ニューヴェルヒロカワ

坪井良子・松田たみ子編 『考える基礎看護技術 看護技術の実際』ニューヴェルヒロカワ

薄井坦子著 『科学的看護論』日本看護協会出版会

【参考図書】V.Henderson著 湯楨ます・小玉香津子訳 『看護の基本となるもの』日本看護協会出版会

科目名	リハビリテーション論		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング	KAf368		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

人間発達心理学科の学位授与方針 1 . 3 に該当する。本学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられ、社会福祉主事任用資格取得に関連した科目である。また、他学科開放科目としている。

科目の概要：

リハビリテーションの基盤となる理念は、人権の保障であり、心身に障がいのある人々が残存能力を発揮し、潤いのある豊かな生活を実現することである。リハビリテーションの理念、定義、目的、範囲、対象などリハビリテーションに関する基礎的事項について学習し、ノーマライゼーションの原理やQOLに視点をおき、リハビリテーションを通して機能回復を図るばかりではなく、人間らしく生きる権利の回復を図ることについて理解を深めることを目的とした講義を展開する。心理面におけるリハビリテーションについても触れる。

学修目標：

- 1 . リハビリテーションの理念が理解できる。
- 2 . 障がいの受容プロセスが理解できる。
- 3 . ライフサイクルにおける各期のリハビリテーションの意義とQOLが理解できる。
- 4 . 心理的な側面でのリハビリテーションの役割が理解できる。
- 5 . 学生である今の立場からリハビリテーションについて果たせるものが何であるのか説明できる。

内容

本授業は講義形式を基本とするが、DVD等を視聴し、内容についての討論も行い、学びを深めていく。

1	リハビリテーションとは
2	ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザイン
3	障がいの概念とリハビリテーション
4	障がいの受容過程
5	ライフサイクルとQOL
6	死別とグリーフワーク
7	子どものリハビリテーション 子どもの障がいの基礎知識
8	子どものリハビリテーション 障がい児のきょうだい支援
9	子どものリハビリテーション 脳性麻痺
10	子どものリハビリテーション 発達障害
11	成人期・老年期の人のリハビリテーション 脳血管障害
12	成人期・老年期の人のリハビリテーション 認知症
13	成人期・老年期の人のリハビリテーション 寝たきりと廃用症候群
14	地域におけるリハビリテーション
15	リハビリテーションのまとめ

評価

授業への参加状況（10%）、レポート（20%）、筆記試験（70%）により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業の初めに前回授業の質疑に返答し、学習理解が深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】指定の単元に関して教科書を読み、ノートにまとめ授業中の問いかけに応えられるように準備しておく（60分）。また、障がい者支援に関連したTV番組を見るようにして、知識を深めておく。

【事後学修】各単元終了後に、学生という立場でできることは何であるのか、考えまとめておく（60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】硯川真旬・橋本隆・大川裕行 編 『学びやすいリハビリテーション論』第2版 金芳堂

【推薦書】竹内孝仁編著 『リハビリテーション概論』 建帛社 494.79/T

佐々木日出男・津曲裕次監 『リハビリテーションと看護 その人らしく生きるには』 中央法規 492.9/R

科目名	看護援助方法		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング	KAf369		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：

人間発達心理学科の学位授与方針3に該当する。同学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられており、養護教諭免許取得のために定められた養護に関する科目の必修科目となっている。この科目の単位を修得しておかないと「養護実習」には臨むことはできない。

科目の概要：

看護実践の基盤となる基本技術の方法と根拠となる知識を学ぶ。看護の対象である人間が置かれている状況を正しく把握し、適切な看護が実践できる基本的な看護技術、及び、感染防御や苦痛軽減のための技術を学ぶ。特に、養護教諭として学校現場で求められる基本的看護支援技術に重点をあてて学習する。講義と合わせて実習も行い技術の習得を目指す。

学修目標：

1. バイタルサインの意味が理解でき、正確に測定ができる。
2. フィジカルアセスメントが適切に行える。
3. 感染防御の基礎について説明できる。
4. 急性期の症状のある人の看護過程が展開できる。

内容

講義を基本に、実技演習も行い、技術の習得を目指す。

「看護学概論」の単位を修得していない学生は、この科目は履修できない。

1	看護技術とは
2	バイタルサイン（呼吸・脈拍・血圧）
3	バイタルサイン（体温・意識）
4	バイタルサイン（測定実習）
5	フィジカルアセスメント（総論）
6	フィジカルアセスメントと看護（各論：頭部・頸部・顔面・目・鼻・口腔）
7	フィジカルアセスメントと看護（各論：胸部・腹部・四肢・脳神経）
8	感染防御（基礎知識）
9	感染防御（滅菌消毒方法）
10	感染防御（消毒薬の用途）
11	感染防御（嘔吐物の処理実習）
12	看護過程とSOAP
13	多様な急性期症状のアセスメント
14	救急時の対応
15	看護援助方法のまとめ

評価

授業・実習への参加状況（10%）、筆記試験（90%）により総合的に評価し、60点以上を合格とする。 【フィードバック】授業の初めに質疑に対する返答をし、学習理解を促す。

授業外学習

【事前予習】前期の「看護学概論」と比べると、より専門的になる。單元ごとに教科書をよく読んで、疑問点をピックアップして、授業に参加する（60分）。

【事後学修】配布された資料等を独自のノートに張り付けて、学びノートを作成する（90分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】岡田加奈子他編著『養護教諭・看護師・保健師のための学校看護-学校環境と身体的支援を中心に』 東山書房
「看護学概論」で使用した教科書も併せて使用する

【推薦書】山内豊明監修『保健室で役立つステップアップ フィジカルアセスメント』東山書房
日野原重明監修『バイタルサインの見方・読み方』 照林社

【参考図書】江口正信他著『根拠から学ぶ基礎看護技術』 医学芸術社
植木純・宮脇美保子『看護に生かすフィジカルアセスメント』 照林社

科目名	看護援助方法		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング	KAf369		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：

人間発達心理学科の学位授与方針3に該当する。同学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられており、養護教諭免許取得のために定められた養護に関する科目の必修科目となっている。この科目の単位を修得しておかないと「養護実習」には臨むことはできない。

科目の概要：

看護実践の基盤となる基本技術の方法と根拠となる知識を学ぶ。看護の対象である人間が置かれている状況を正しく把握し、適切な看護が実践できる基本的な看護技術、及び、感染防御や苦痛軽減のための技術を学ぶ。特に、養護教諭として学校現場で求められる基本的看護支援技術に重点をあてて学習する。講義と合わせて実習も行い技術の習得を目指す。

学修目標：

1. バイタルサインの意味が理解でき、正確に測定ができる。
2. フィジカルアセスメントが適切に行える。
3. 感染防御の基礎について説明できる。
4. 急性期の症状のある人の看護過程が展開できる。

内容

講義を基本に、実技演習も行い、技術の習得を目指す。

「看護学概論」の単位を修得していない学生は、この科目は履修できない。

1	看護技術とは
2	バイタルサイン（呼吸・脈拍・血圧）
3	バイタルサイン（体温・意識）
4	バイタルサイン（測定実習）
5	フィジカルアセスメント（総論）
6	フィジカルアセスメントと看護（各論：頭部・頸部・顔面・目・鼻・口腔）
7	フィジカルアセスメントと看護（各論：胸部・腹部・四肢・脳神経）
8	感染防御（基礎知識）
9	感染防御（滅菌消毒方法）
10	感染防御（消毒薬の用途）
11	感染防御（嘔吐物の処理実習）
12	看護過程とSOAP
13	多様な急性期症状のアセスメント
14	救急時の対応
15	看護援助方法のまとめ

評価

授業・実習への参加状況（10%）、筆記試験（90%）により評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業の初めに質疑に対する返答をし、学習理解を促す。

授業外学習

【事前予習】前期の「看護学概論」と比べると、より専門的になる。單元ごとに教科書をよく読んで、疑問点をピックアップして授業に参加する（60分）。

【事後学修】配布された資料等を独自のノートに張り付けて、学びノートを作成する（90分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】岡田加奈子他編著『養護教諭・看護師・保健師のための学校看護-学校環境と身体的支援を中心に』 東山書房
「看護学概論」で使用した教科書も併せて使用する

【推薦書】山内豊明監修『保健室で役立つステップアップ フィジカルアセスメント』東山書房
日野原重明監修『バイタルサインの見方・読み方』 照林社

【参考図書】江口正信他著『根拠から学ぶ基礎看護技術』 医学芸術社
植木純・宮脇美保子『看護に生かすフィジカルアセスメント』 照林社

科目名	小児保健看護学		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング	KAf470		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 :

人間発達心理学科の学位授与方針3に該当する。さらに、同学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられており、養護教諭免許取得のために定められた養護に関する科目の必修科目となっている。この科目の単位を修得しておかないと「養護実習」には臨むことはできない。

科目の概要 :

子どもの看護として、ここでは特に、学童・思春期の子どもの健康問題に重点を置き、特徴的な感染症や慢性疾患を取り上げ、それらの病態生理や子どもの心理、看護支援を学習する。これらの学習を通じて、体調不良を訴えてくる子どもの支援や慢性疾患や障がいを持って学校に通学している子どもの支援について実践できる能力を養う。

学修目標 :

1. 学校感染症の特徴と看護について説明できる。
2. 子どもの主なアレルギー疾患の特徴と看護について説明できる。
3. 子どもの主な慢性疾患の病態と看護について説明できる。

内容

本授業は、講義形式を基本に進めていくが、個人ワークとグループディスカッションを適宜盛り込み、学を深める。

1	子どもの身体の解剖生理 (筋骨格・目・耳・歯)
2	子どもの身体の解剖生理 (内臓の生理機能)
3	子どもの身体の解剖生理 (脳神経の生理機能)
4	学校感染症 (第1種)
5	学校感染症 (第2種)
6	学校感染症 (第3種)
7	子どもの健康状態の把握
8	子どものアレルギー疾患 (気管支喘息、アトピー性皮膚炎)
9	子どものアレルギー疾患 (食物アレルギー、アナフィラキシーショック)
10	子どもの腎疾患 (糸球体腎炎・尿路感染症)
11	子どもの腎疾患 (ネフローゼ症候群・尿検査)
12	子どもの心疾患 (先天性心疾患)
13	子どもの心疾患 (川崎病・不整脈と心電図)
14	子どもの糖尿病と肥満
15	小児保健看護学のまとめ

評価

授業に対する意欲・関心 (10%)、3回の筆記試験 (90%) により総合的に評価し、60点以上を合格とする。総合評

価が60点に満たない場合は、再試験を1回実施し、筆記試験の得点のみにて評価する。

【フィードバック】授業の初めに前回授業の質疑や感想に返答し、理解を深めることができるようにする。

授業外学習

【事前予習】授業の單元ごとに関連する解剖生理学領域を復習し、自作のノートにまとめる（60分）。また授業の中で指定した資料（文部科学省HP・厚生労働省HPの報告書等）については、各自でインストールして印刷し、授業に持参すること。

【事後学修】配布資料と教科書等をまとめたノート作りをする（90分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業の中で指示をする。「看護援助方法」で使用した教科書も使う。

【推薦書】鴨下重彦・柳澤正義 『こどもの病気の地図帳』 講談社 493.9/K

満留昭久 『学校の先生にも知ってほしい慢性疾患の子どもの学校生活』 慶應義塾大学出版会

【参考図書】村田光範・浅井利夫編 『小児疾患生活指導マニュアル』 南江堂

坂井建雄・橋本尚詞 『ぜんぶわかる人体解剖図』 成美堂出版

科目名	家庭の応急手当		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング	KAf371		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針3に該当する。同学科の専門科目であり、専門科目の区分としては、教育・保健科目に設定されている。資格に関わる科目ではない。

科目の概要

日常生活の中で遭遇する傷病に対して、一市民として実践できる応急手当について学ぶ。また、乳幼児から高齢者までの疾病予防、怪我予防についても学び。

学修目標 (= 到達目標)

- ・ 一次救命処置が実践できる。
- ・ 身近で遭遇する可能性の高い傷病に対して、適切な応急手当の方法が説明できる。
- ・ 疾病予防・怪我予防の対策を講じることができる。

内容

授業を効果的に展開するために、人数制限を設ける場合がある。教職志望者は、他の教職科目で同じような内容のものを学ぶ機会があるため、教職課程を志望していない学生を優先する。実技演習を伴う授業であり、授業に参加する場合には、パンツスタイルが望ましい。

講義形式以外にグループワークの形式もとり、学生によるプレゼンテーションも行う。

1	応急手当の体験を語る
2	応急手当の基本・心肺蘇生・AED
3	心肺蘇生演習
4	止血・傷の手当て、筋肉・骨・関節の怪我と応急手当
5	三角巾を使った固定法
6	中毒・熱傷について
7	高齢者の事故予防
8	急病・怪我の応急手当 頭痛・胸痛・呼吸困難・意識障害・けいれん
9	急病・怪我の応急手当 腹痛・嘔気嘔吐・下痢便秘
10	急病・怪我の応急手当 発熱・熱中症
11	急病・怪我の応急手当 キャンプ・海水浴・スキー場等での事故と怪我
12	急病・怪我の応急手当 目に関する病気・怪我
13	家庭の救急箱と常備薬、薬の飲み方
14	乳幼児の事故対策
15	乳幼児の応急手当

評価

授業への参加状況（10%）、グループワークによる取組（40%）、レポート（50%）とし、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】授業の初めに、前回授業の質疑に返答し、学習理解が深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】事前に指定していた応急手当の映像や資料を確認し、ポイントをまとめておく（60分）。【事後学修】授業で実践し学んだことを振り返り、そのポイントを教科書に書き足したり、メモを張り付けたりする（60分）。また、本科目受講後も地域の消防署で実施している救急講習を受講することを勧める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】山本保博監修『図解 応急手当ハンドブック アウトドア・レスキュー・家庭』日本文芸社

【参考図書】萱場一則『暮らしの看護』建帛社

科目名	学習・言語心理学		
担当教員名	安田 哲也		
ナンバリング	KAf286		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科DPの1, 2を満たす。

心理学の中でも、学習心理学と言語心理学の領域について扱う。

科目の概要

本講義では、人の行動や言語が学習等によって変化する過程について取り上げます。

講義では、配布資料や提示資料をもとに講義を行う他、CHILDESデータを利用したコーパス分析をグループワークで行う予定です。また、重要な単元においては、問題解決型学習を利用した講義を行う予定です。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 人間の学習過程について理解する。
- 2) 人間の言語獲得についての機序を理解する。
- 3) ヒトにおける言語の性質や、それを学習するための理論や実際のデータについて理解する。

内容

1	学習心理学と言語心理学の概観
2	行動の測定と実験デザイン
3	古典的条件付け
4	道具的条件付け
5	刺激性制御と強化
6	学習のまとめ
7	言語の4領域と言語発達のアプローチ
8	語彙発達
9	コーパスを利用した分析1：語彙カテゴリー
10	コーパスを利用した分析2：平均発話長
11	文法発達
12	生得性と臨界期
13	言語の系統発生的起源
14	コミュニケーションにおける言語と言語障害
15	言語のまとめと語用論

評価

平常点 (20点)、中間課題 (計30点)、期末課題 (50点) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】逐次、授業内容に関連した配布プリントがあるのでそれを読んでおく[1.0時間]。

【事後学修】授業内容に関する内容についての復習を行う[1.0時間]。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】指定しない。配布資料等で行う。

【推薦書】授業内で適宜指示する。

【参考図書】授業内で適宜指示する。

科目名	福祉心理学		
担当教員名	梅津 直子		
ナンバリング	KAf287		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針2. に該当する。

本科目は公認心理師カリキュラムにおける「実践心理学」科目の1つである。子どもから高齢期の人まで幅広い発達期の人を支援対象とするため、「発達心理学概論」を踏まえて本科目を理解する必要がある。また支援の方法として心理学的技法を用いることから「臨床心理学概論」と関連性がある。

科目の概要

福祉心理学とは福祉に関する問題を心理学的に研究し、福祉を要する人々に対して心理学的な技法を用いて介入、支援を行っていく学問である。福祉分野関連の法・制度、福祉心理学の基本的知識、さらには、福祉分野における心理支援のあり方を学び、人が安心・安定して生活するために何が必要か考える。

学修目標 (= 到達目標)

児童福祉、高齢者福祉をはじめ多岐にわたる福祉分野の心理社会的問題およびその支援について理解を深める。特に、公認心理師としての素養を涵養するため以下の3点の理解を目指す。

1. 福祉現場において生じる問題及びその背景について理解する
2. 福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援について理解する
3. 虐待および認知症についての基本的知識について理解する

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	オリエンテーションと福祉心理学の概要・意義
2	社会福祉の歴史と動向
3	社会福祉の対象者と支援者
4	福祉分野における活動の基本と倫理
5	暴力被害者への心理支援
6	子どもと親への心理支援
7	子どもと親への心理支援
8	高齢者への心理支援
9	高齢者への心理支援
10	障害・疾病のある人への心理支援
11	障害・疾病のある人への心理支援
12	生活困窮・貧困者への心理支援
13	ひきこもり・自殺予防の心理支援
14	家族・職員への心理支援と多職種連携
15	まとめ

評価

授業への参加度および毎回のワーク・リアクションペーパー40%、筆記試験60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】第1回にて各回のキーワードを提示する。各回のキーワードについて調べ、ノートにまとめておく。（各授業に対して30分以上）

【事後学修】授業については復習することを必須とし、授業時に紹介された法律や政策、図書等について各自で内容を理解し、深められるよう、復習ノートを作成しておく。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず、毎回レジュメを配布する。

【推薦書】授業時に紹介する。

【参考図書】中島健一編 公認心理師の基礎と実践 福祉心理学 ちとせプレス

科目名	卒業研究		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング	KAg572		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

人間発達心理学科の学位授与方針 1、2 に該当する。

4年次の必修科目である。3年次までの講義や研究法の授業の中で培ってきた心理学的知識や心理学に基づく研究手法を用いて卒業研究を行う。3年次後期の人間発達演習での取り組みを活かして、計画的に、自主的に研究を進めることを求める。

科目の概要：

4年間の学業の集大成として、卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。具体的には、これまでの講義で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通して深めていく。担当教員の指導を受けながら、1年をかけて、問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することが求められる。

学修目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

内容

この講義は、担当教員ごとにゼミ形式あるいは個別指導によって、卒業研究を進めていく。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 方法を定める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、研究テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

なお、卒業研究の提出にあたっては中間報告書を提出する必要がある。

論文の提出期限は12月中旬を予定。

論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表する必要がある。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

評価

論文の成果(50%)、論文作成にあたっての取り組み(30%)、卒業研究発表会への参加及び発表(20%)をもって、総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。
論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導を行う。

授業外学習

【事前予習】指導教員の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集、毎回の指導に向けてのレジユメの作成。研究テーマ、方法によって研究に必要とする時間は異なるが、5～10時間を目安とする。

【事後学修】指導教員の指導のもと論文作成を進める。また、指導を受けた内容や仲間からの助言について再考し、研究活動を発展させ学びを深める。5～10時間程度。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング	KAg572		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

人間発達心理学科の学位授与方針 1、2 に該当する。

4 年次の必修科目である。3 年次までの講義や研究法の授業の中で培ってきた心理学的知識や心理学に基づく研究手法を用いて卒業研究を行う。3 年次後期の人間発達演習での取り組みを活かして、計画的に、自主的に研究を進めることを求める。

科目の概要：

4 年間の学業の集大成として、卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。具体的には、これまでの講義で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通して深めていく。担当教員の指導を受けながら、1 年をかけて、問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することが求められる。

学修目標：

- 1．科学的思考に基づいた研究展開ができる。
- 2．自己の研究のオリジナリティが説明できる。
- 3．研究論文が執筆できる。

内容

この講義は、担当教員ごとにゼミ形式あるいは個別指導によって、卒業研究を進めていく。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 方法を定める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、研究テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

なお、卒業研究の提出にあたっては中間報告書を提出する必要がある。

論文の提出期限は 1 2 月中旬を予定。

論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表する必要がある。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

評価

論文の成果(50%)、論文作成にあたっての取り組み(30%)、卒業研究発表会への参加及び発表(20%)をもって、総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。
論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導を行う。

授業外学習

【事前予習】指導教員の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集、毎回の指導に向けてのレジユメの作成。研究テーマ、方法によって研究に必要とする時間は異なるが、5～10時間を目安とする。

【事後学修】指導教員の指導のもと論文作成を進める。また、指導を受けた内容や仲間からの助言について再考し、研究活動を発展させ学びを深める。5～10時間程度。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング	KAg572		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

人間発達心理学科の学位授与方針 1、2 に該当する。

4年次の必修科目である。3年次までの講義や研究法の授業の中で培ってきた心理学的知識や心理学に基づく研究手法を用いて卒業研究を行う。3年次後期の人間発達演習での取り組みを活かして、計画的に、自主的に研究を進めることを求める。

科目の概要：

4年間の学業の集大成として、卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。具体的には、これまでの講義で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通して深めていく。担当教員の指導を受けながら、1年をかけて、問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することが求められる。

学修目標：

- 1．科学的思考に基づいた研究展開ができる。
- 2．自己の研究のオリジナリティが説明できる。
- 3．研究論文が執筆できる。

内容

この講義は、担当教員ごとにゼミ形式あるいは個別指導によって、卒業研究を進めていく。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 方法を定める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、研究テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

なお、卒業研究の提出にあたっては中間報告書を提出する必要がある。

論文の提出期限は12月中旬を予定。

論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表する必要がある。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

評価

論文の成果(50%)、論文作成にあたっての取り組み(30%)、卒業研究発表会への参加及び発表(20%)をもって、総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。
論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導を行う。

授業外学習

【事前予習】指導教員の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集、毎回の指導に向けてのレジユメの作成。研究テーマ、方法によって研究に必要とする時間は異なるが、5～10時間を目安とする。

【事後学修】指導教員の指導のもと論文作成を進める。また、指導を受けた内容や仲間からの助言について再考し、研究活動を発展させ学びを深める。5～10時間程度。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング	KAg572		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

人間発達心理学科の学位授与方針 1、2 に該当する。

4年次の必修科目である。3年次までの講義や研究法の授業の中で培ってきた心理学的知識や心理学に基づく研究手法を用いて卒業研究を行う。3年次後期の人間発達演習での取り組みを活かして、計画的に、自主的に研究を進めることを求める。

科目の概要：

4年間の学業の集大成として、卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。具体的には、これまでの講義で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通して深めていく。担当教員の指導を受けながら、1年をかけて、問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することが求められる。

学修目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

内容

この講義は、担当教員ごとにゼミ形式あるいは個別指導によって、卒業研究を進めていく。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 方法を決める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、研究テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

なお、卒業研究の提出にあたっては中間報告書を提出する必要がある。

論文の提出期限は12月中旬を予定。

論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表する必要がある。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

評価

論文の成果(50%)、論文作成にあたっての取り組み(30%)、卒業研究発表会への参加及び発表(20%)をもって、総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。
論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導を行う。

授業外学習

【事前予習】指導教員の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集、毎回の指導に向けてのレジユメの作成。研究テーマ、方法によって研究に必要とする時間は異なるが、5～10時間を目安とする。

【事後学修】指導教員の指導のもと論文作成を進める。また、指導を受けた内容や仲間からの助言について再考し、研究活動を発展させ学びを深める。5～10時間程度。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング	KAg572		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	4	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

人間発達心理学科の学位授与方針 1、2 に該当する。

4年次の必修科目である。3年次までの講義や研究法の授業の中で培ってきた心理学的知識や心理学に基づく研究手法を用いて卒業研究を行う。3年次後期の人間発達演習での取り組みを活かして、計画的に、自主的に研究を進めることを求める。

科目の概要：

4年間の学業の集大成として、卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。具体的には、これまでの講義で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通して深めていく。担当教員の指導を受けながら、1年をかけて、問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することが求められる。

学修目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

内容

この講義は、担当教員ごとにゼミ形式あるいは個別指導によって、卒業研究を進めていく。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 方法を定める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、研究テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

なお、卒業研究の提出にあたっては中間報告書を提出する必要がある。

論文の提出期限は12月中旬を予定。

論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表する必要がある。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

評価

論文の成果(50%)、論文作成にあたっての取り組み(30%)、卒業研究発表会への参加及び発表(20%)をもって、総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。
論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導を行う。

授業外学習

【事前予習】指導教員の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集、毎回の指導に向けてのレジユメの作成。研究テーマ、方法によって研究に必要とする時間は異なるが、5～10時間を目安とする。

【事後学修】指導教員の指導のもと論文作成を進める。また、指導を受けた内容や仲間からの助言について再考し、研究活動を発展させ学びを深める。5～10時間程度。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング	KAg572		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	4	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

人間発達心理学科の学位授与方針 1、2 に該当する。

4年次の必修科目である。3年次までの講義や研究法の授業の中で培ってきた心理学的知識や心理学に基づく研究手法を用いて卒業研究を行う。3年次後期の人間発達演習での取り組みを活かして、計画的に、自主的に研究を進めることを求める。

科目の概要：

4年間の学業の集大成として、卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。具体的には、これまでの講義で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通して深めていく。担当教員の指導を受けながら、1年をかけて、問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することが求められる。

学修目標：

- 1．科学的思考に基づいた研究展開ができる。
- 2．自己の研究のオリジナリティが説明できる。
- 3．研究論文が執筆できる。

内容

この講義は、担当教員ごとにゼミ形式あるいは個別指導によって、卒業研究を進めていく。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 方法を決める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、研究テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

なお、卒業研究の提出にあたっては中間報告書を提出する必要がある。

論文の提出期限は12月中旬を予定。

論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表する必要がある。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

評価

論文の成果(50%)、論文作成にあたっての取り組み(30%)、卒業研究発表会への参加及び発表(20%)をもって、総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。
論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導を行う。

授業外学習

【事前予習】指導教員の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集、毎回の指導に向けてのレジユメの作成。研究テーマ、方法によって研究に必要とする時間は異なるが、5～10時間を目安とする。

【事後学修】指導教員の指導のもと論文作成を進める。また、指導を受けた内容や仲間からの助言について再考し、研究活動を発展させ学びを深める。5～10時間程度。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング	KAg572		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	4	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

人間発達心理学科の学位授与方針 1、2 に該当する。

4年次の必修科目である。3年次までの講義や研究法の授業の中で培ってきた心理学的知識や心理学に基づく研究手法を用いて卒業研究を行う。3年次後期の人間発達演習での取り組みを活かして、計画的に、自主的に研究を進めることを求める。

科目の概要：

4年間の学業の集大成として、卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。具体的には、これまでの講義で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通して深めていく。担当教員の指導を受けながら、1年をかけて、問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することが求められる。

学修目標：

- 1．科学的思考に基づいた研究展開ができる。
- 2．自己の研究のオリジナリティが説明できる。
- 3．研究論文が執筆できる。

内容

この講義は、担当教員ごとにゼミ形式あるいは個別指導によって、卒業研究を進めていく。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 方法を決める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、研究テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

なお、卒業研究の提出にあたっては中間報告書を提出する必要がある。

論文の提出期限は12月中旬を予定。

論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表する必要がある。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

評価

論文の成果(50%)、論文作成にあたっての取り組み(30%)、卒業研究発表会への参加及び発表(20%)をもって、総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。
論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導を行う。

授業外学習

【事前予習】指導教員の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集、毎回の指導に向けてのレジユメの作成。研究テーマ、方法によって研究に必要とする時間は異なるが、5～10時間を目安とする。

【事後学修】指導教員の指導のもと論文作成を進める。また、指導を受けた内容や仲間からの助言について再考し、研究活動を発展させ学びを深める。5～10時間程度。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング	KAg572		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	4	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

人間発達心理学科の学位授与方針 1、2 に該当する。

4年次の必修科目である。3年次までの講義や研究法の授業の中で培ってきた心理学的知識や心理学に基づく研究手法を用いて卒業研究を行う。3年次後期の人間発達演習での取り組みを活かして、計画的に、自主的に研究を進めることを求める。

科目の概要：

4年間の学業の集大成として、卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。具体的には、これまでの講義で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通して深めていく。担当教員の指導を受けながら、1年をかけて、問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することが求められる。

学修目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

内容

この講義は、担当教員ごとにゼミ形式あるいは個別指導によって、卒業研究を進めていく。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 方法を定める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、研究テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

なお、卒業研究の提出にあたっては中間報告書を提出する必要がある。

論文の提出期限は12月中旬を予定。

論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表する必要がある。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

評価

論文の成果(50%)、論文作成にあたっての取り組み(30%)、卒業研究発表会への参加及び発表(20%)をもって、総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。
論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導を行う。

授業外学習

【事前予習】指導教員の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集、毎回の指導に向けてのレジユメの作成。研究テーマ、方法によって研究に必要とする時間は異なるが、5～10時間を目安とする。

【事後学修】指導教員の指導のもと論文作成を進める。また、指導を受けた内容や仲間からの助言について再考し、研究活動を発展させ学びを深める。5～10時間程度。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAg572		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	4	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

人間発達心理学科の学位授与方針 1、2 に該当する。

4 年次の必修科目である。3 年次までの講義や研究法の授業の中で培ってきた心理学的知識や心理学に基づく研究手法を用いて卒業研究を行う。3 年次後期の人間発達演習での取り組みを活かして、計画的に、自主的に研究を進めることを求める。

科目の概要：

4 年間の学業の集大成として、卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。具体的には、これまでの講義で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通して深めていく。担当教員の指導を受けながら、1 年をかけて、問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することが求められる。

学修目標：

- 1．科学的思考に基づいた研究展開ができる。
- 2．自己の研究のオリジナリティが説明できる。
- 3．研究論文が執筆できる。

内容

この講義は、担当教員ごとにゼミ形式あるいは個別指導によって、卒業研究を進めていく。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 方法を定める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、研究テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

なお、卒業研究の提出にあたっては中間報告書を提出する必要がある。

論文の提出期限は 1 2 月中旬を予定。

論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表する必要がある。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

評価

論文の成果(50%)、論文作成にあたっての取り組み(30%)、卒業研究発表会への参加及び発表(20%)をもって、総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。
論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導を行う。

授業外学習

【事前予習】指導教員の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集、毎回の指導に向けてのレジユメの作成。研究テーマ、方法によって研究に必要とする時間は異なるが、5～10時間を目安とする。

【事後学修】指導教員の指導のもと論文作成を進める。また、指導を受けた内容や仲間からの助言について再考し、研究活動を発展させ学びを深める。5～10時間程度。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KAg572		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	4	ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

人間発達心理学科の学位授与方針 1、2 に該当する。

4年次の必修科目である。3年次までの講義や研究法の授業の中で培ってきた心理学的知識や心理学に基づく研究手法を用いて卒業研究を行う。3年次後期の人間発達演習での取り組みを活かして、計画的に、自主的に研究を進めることを求める。

科目の概要：

4年間の学業の集大成として、卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。具体的には、これまでの講義で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通して深めていく。担当教員の指導を受けながら、1年をかけて、問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することが求められる。

学修目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

内容

この講義は、担当教員ごとにゼミ形式あるいは個別指導によって、卒業研究を進めていく。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 方法を定める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、研究テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

なお、卒業研究の提出にあたっては中間報告書を提出する必要がある。

論文の提出期限は12月中旬を予定。

論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表する必要がある。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

評価

論文の成果(50%)、論文作成にあたっての取り組み(30%)、卒業研究発表会への参加及び発表(20%)をもって、総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。
論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導を行う。

授業外学習

【事前予習】指導教員の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集、毎回の指導に向けてのレジユメの作成。研究テーマ、方法によって研究に必要とする時間は異なるが、5～10時間を目安とする。

【事後学修】指導教員の指導のもと論文作成を進める。また、指導を受けた内容や仲間からの助言について再考し、研究活動を発展させ学びを深める。5～10時間程度。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング	KAg572		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	4	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

人間発達心理学科の学位授与方針 1、2 に該当する。

4年次の必修科目である。3年次までの講義や研究法の授業の中で培ってきた心理学的知識や心理学に基づく研究手法を用いて卒業研究を行う。3年次後期の人間発達演習での取り組みを活かして、計画的に、自主的に研究を進めることを求める。

科目の概要：

4年間の学業の集大成として、卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。具体的には、これまでの講義で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通して深めていく。担当教員の指導を受けながら、1年をかけて、問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することが求められる。

学修目標：

- 1．科学的思考に基づいた研究展開ができる。
- 2．自己の研究のオリジナリティが説明できる。
- 3．研究論文が執筆できる。

内容

この講義は、担当教員ごとにゼミ形式あるいは個別指導によって、卒業研究を進めていく。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 方法を定める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、研究テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

なお、卒業研究の提出にあたっては中間報告書を提出する必要がある。

論文の提出期限は12月中旬を予定。

論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表する必要がある。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

評価

論文の成果(50%)、論文作成にあたっての取り組み(30%)、卒業研究発表会への参加及び発表(20%)をもって、総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。
論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導を行う。

授業外学習

【事前予習】指導教員の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集、毎回の指導に向けてのレジユメの作成。研究テーマ、方法によって研究に必要とする時間は異なるが、5～10時間を目安とする。

【事後学修】指導教員の指導のもと論文作成を進める。また、指導を受けた内容や仲間からの助言について再考し、研究活動を発展させ学びを深める。5～10時間程度。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	永作 稔		
ナンバリング	KAg572		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	4	ク ラ ス	0Mクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

人間発達心理学科の学位授与方針 1、2 に該当する。

4年次の必修科目である。3年次までの講義や研究法の授業の中で培ってきた心理学的知識や心理学に基づく研究手法を用いて卒業研究を行う。3年次後期の人間発達演習での取り組みを活かして、計画的に、自主的に研究を進めることを求める。

科目の概要：

4年間の学業の集大成として、卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。具体的には、これまでの講義で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通して深めていく。担当教員の指導を受けながら、1年をかけて、問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することが求められる。

学修目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

内容

この講義は、担当教員ごとにゼミ形式あるいは個別指導によって、卒業研究を進めていく。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 方法を定める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、研究テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

なお、卒業研究の提出にあたっては中間報告書を提出する必要がある。

論文の提出期限は12月中旬を予定。

論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表する必要がある。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

評価

論文の成果(50%)、論文作成にあたっての取り組み(30%)、卒業研究発表会への参加及び発表(20%)をもって、総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。
論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導を行う。

授業外学習

【事前予習】指導教員の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集、毎回の指導に向けてのレジユメの作成。研究テーマ、方法によって研究に必要とする時間は異なるが、5～10時間を目安とする。

【事後学修】指導教員の指導のもと論文作成を進める。また、指導を受けた内容や仲間からの助言について再考し、研究活動を発展させ学びを深める。5～10時間程度。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	関係行政論		
担当教員名	松浦 宏明		
ナンバリング	KAe288		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針3に該当する。

本科目は、公認心理師養成課程カリキュラムにおける科目の一つであり、公認心理師として社会において活動する上で必要となる施策や法律、制度、そしてその基盤となる考え方を身に付けられるようにすることが求められている。

科目の概要

保健医療分野、福祉分野、教育分野、司法・犯罪分野、産業・労働分野の5領域の法律や制度等について理解する。

学修目標 (= 到達目標)

1. 5領域の法律と制度について、基礎的知識を学び、概略の説明をすることができる。
2. 各領域で生じる心理臨床的課題について、法律や制度との関わりにおいて、的確な理解をし、意見を述べるができる。
3. 私達の生活における法律や制度の意味と役割について、自分なりの理解をし、趣旨を述べるができる。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	法・制度の基本と公認心理師
2	公認心理師の法的立場と多職種連携
3	公認心理師の各分野への展開
4	保健医療分野に関する法律・制度
5	保健医療分野に関する法律・制度
6	保健医療分野に関する法律・制度
7	福祉分野に関する法律・制度
8	福祉分野に関する法律・制度
9	福祉分野に関する法律・制度
10	教育分野に関する法律・制度
11	司法・犯罪分野に関する法律・制度
12	司法・犯罪分野に関する法律・制度
13	司法・犯罪分野に関する法律・制度
14	産業・労働分野に関する法律・制度
15	まとめ

評価

授業への参加度30%、毎回のリアクションペーパー等30%、筆記試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】授業前にあらかじめ、各領域において私達の生活と法律や制度がどのように関わるか、各自の考えを整理し、どのような課題があるのか考えておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業については復習することを必須とし、授業時に紹介された法律や制度等について各自で内容を理解し、深められるよう、復習ノートを作成しておく。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず、授業使用パワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので各自プリントするかノートパソコンを授業時に持参すること。その他必要に応じて図書等について授業時に紹介する。

【推薦書】心の専門家が出会う法律 - 臨床実践のために [新版] 株式会社誠信書房

【参考図書】教室で紹介する。

科目名	人体の構造と機能及び疾病		
担当教員名	竹嶋 伸之輔		
ナンバリング	KAe389		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科ディプロマポリシーのうち、「1. 心理学的な研究方法から得られた実証的なデータに基づいて、人間及び人間の発達に対する多角的な見方ができる。」を達成するために1. 人体の階層構造の理解 2. 器官系の構造と機能の理解 3. 病態の基礎の理解を目標とする。

科目の概要

正常な人体の構造 (つくり) や機能 (はたらき) について、細胞、組織、血液、循環、呼吸、消化器、運動系、泌尿器、内分泌、生殖、神経系の各分野に分類し、各部の名称や構造と機能、および人体の恒常性の維持について理解する。また、これらの構成単位の知識に基づいて、がんや難病などをはじめとした、心理に関する支援が必要な様々な疾病についての理解を深める。

学修目標 (= 到達目標)

正常な人体の構造 (つくり) ・機能 (はたらき) を学修する講義科目であり、人間発達心理学科の専門科目のうち公認心理師関連科目に属します。

公認心理師受験資格取得のために必要な心身機能と身体構造の基本を学び、疾病や障害について基礎的な知識の習得を目指します。

内容

教科書の解説を基本に、板書やスライドを用いて授業を進めていく。

1	はじめに
2	細胞と組織
3	消化器系
4	血液・造血器・リンパ系
5	循環器系
6	呼吸器系
7	腎・尿路系
8	生殖器系
9	骨格系
10	筋肉系と運動機能
11	内分泌系
12	神経系
13	感覚器系
14	免疫系
15	皮膚組織・体温調節・まとめ

評価

授業への参加度 2割 (20%)、筆記試験8割 (80%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】事前に提示した事項について、教科書を参照して予習する。

【事後学修】授業内容に基づく演習問題により復習する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】志村二三夫・岡 純・山田和彦 (編著) 栄養科学イラストレイテッド『解剖生理学』、羊土社

【推薦書】田中越郎「イラストでまなぶ人体のしくみとはたらき第2番」医学書院

【参考図書】坂井建雄・橋本治詞「ぜんぶわかる人体解剖図」成美堂出版

科目名	公認心理師の職責		
担当教員名	永作 稔		
ナンバリング	KAe390		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は公認心理師の受験資格を得るための必修科目です。学科ディプロマ・ポリシーの1および2に該当します。公認心理師を希望するもの、将来的な取得を検討している人は必ず受講してください。公認心理師という資格の全体像を理解するガイダンスとしての内容も含まれます。

科目の概要

公認心理師という資格について、心理専門職が活躍する職域について、その倫理や職業的使命などについて解説します。

学修目標（＝到達目標）

公認心理師が有する職業的責任と公認心理師の職域について理解し、説明することができることが目標です。

内容

毎回の授業はパワーポイントによる講義を中心に行います。また授業のふりかえりと感想や疑問について教員学生間で共有するために、グーグルフォームもしくは紙媒体の相互コミュニケーションツールを用いてアクティブラーニングを行います。

1	オリエンテーション
2	公認心理師の役割
3	公認心理師の法的義務及び倫理
4	心理に関する支援を要する者等の安全の確保
5	情報の適切な取扱い
6	保健医療分野における公認心理師の具体的な業務
7	福祉分野における公認心理師の具体的な業務
8	教育分野における公認心理師の具体的な業務
9	司法分野における公認心理師の具体的な業務
10	産業分野における公認心理師の具体的な業務
11	自己課題発見・解決能力
12	生涯学習への準備
13	多職種連携
14	地域連携
15	まとめ

評価

期末試験80% 授業への参加度（20%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回の授業で行われる小レポートをもとに、その次の回の冒頭でフィードバックを行います。

授業外学習

【事前準備】テキストの該当箇所を読んで、不明な用語などについては各自で調べてノートにまとめておくこと（各授業90分）

【事後学修】講義中に感じたことや学んだことを振り返り、ノートにまとめること。疑問点については各自で教科書や参考資料などに基づいて調べておくこと（各授業90分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】公認心理師エッセンシャルズ 子安増生・丹野義彦（2018）有斐閣

【推薦書】特に指定しない

【参考図書】公認心理師の職責（公認心理師の基礎と実践） 野島一彦（監修）（2018） 遠見書房

毎回の授業で教科書を参照しながら受講できるように各自準備をすること

科目名	精神疾患とその治療		
担当教員名	小原 美樹		
ナンバリング	KAe391		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針2に該当する。

代表的な精神疾患の基礎知識を学び、「心を病む」とはということかについて、精神医学的な観点から学習する。公認心理師を希望する場合、心理学関連科目に該当。

科目の概要

次の3点を扱いながら、精神医学について全般的な理解を深める。

1. 精神疾患総論
2. 向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化
3. 医療機関との連携

学修目標 (= 到達目標)

援助者として知っておくべき精神疾患の基礎知識を習得する。また精神疾患を抱える人たちへの心理社会的支援や、それらと医学的治療との相違と連携についても扱う。これらの学習を通じ、心を病むとはどのようなことなのかを考え、各自が「心を病む」ことや「ひとを支援する」ということについて自分なりの考えを述べられるようになることを目指す。

内容

講義を中心に進める予定である。

授業への積極的な参加を促すため、適宜、短時間のグループ討議や、リアクションペーパーを介しての質疑応答などを取り入れていく。

1. 精神障害に関する基本的な考え方 (成因、症状、経過、診断等)
2. 抑うつ障害
3. 双極性障害
4. 統合失調症
5. 神経症性障害 (不安症、強迫症、身体症状症)
6. 神経症性障害 (心的外傷およびストレス関連障害、解離症)
7. 物質関連障害および嗜癖
8. パーソナリティ障害
9. 睡眠・食行動・性に関する障害
10. 神経発達症群
11. 器質性精神障害
12. その他の精神障害 (児童・青年期にみられる問題を含む)
13. 治療と支援 (薬物療法含む)

14. 医療機関との連携

15. まとめと試験

(進行等に応じて、一部変更する可能性あり。)

評価

毎回の講義冒頭で前回内容に関する小テスト(50%)、最終回の講義時間中に書く小レポート(50%)、以上の総合評価60点以上を合格とする。但し、最終回を含む3分の2の出席が必須。

【フィードバック】小テストの回答については、翌回の講義冒頭で解説する。また前回内容についての質疑にも翌回の講義前半で返答する。

授業外学習

【事前準備】精神疾患とその治療について、現時点で抱いている疑問や問題意識について、自分なりに整理してくる。それらは初回講義時に聞き取り、その後の講義内容に反映する。(60分)

【事後学修】講義内容について復習を行うこと。その成果は毎回の小テストをもって確認する。(60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】教科書は指定せず、パワーポイント資料を中心として講義を進める予定である。

【推薦書】・山下 格『精神医学ハンドブック 第7版 医学・保健・福祉の基礎知識』(日本評論社)

・上島、上別府、平島(編)『精神医学の基礎知識 第2版:サイコロジストとメディカルスタッフのために』

(誠信書房)

・姫井 昭男『精神科の薬がわかる本 第3版』(医学書院)

【参考図書】・『DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引』、『ICD 10 精神および行動の障害 臨床記述と診断ガイドライン』